福田恆存先生と荒魂之會

◇あらたま刊行三十周年記念行事通覧・第三分冊◇

平成二十三年三月六日（日）荒魂之會

目次

福田恆存先生と荒魂之會……二
荒魂之會の年間主題の課題の書物に於る福田恆存著作……二
荒魂之會の活動三十年餘の毎月の例會資料に記載せられたる福田先生に關する記事數の一覧……二
荒魂之會の活動三十年餘に於る福田恆存先生の御逸事……三
大磯清談（全五回）……五十二
福田恆存先生の各種全集一覧……五十七
附一・福田恆存先生御出席の荒魂之會の會合（甲）竝にこれに準ずる會合（乙）の一覧……五十八
附二・荒魂之會の劇團昴（三百人劇場上演）の觀劇一覧……別刷
後記・平成二十三年度荒魂之會同人名簿……六十

福田恆存先生と荒魂之會

昭和五十年十月　荒魂之會發足（正統表記の護持を標榜）
昭和五十一年八月　あらたま創刊號刊。
昭和五十六年五月五日（火）目黒雅叙園に於て第七回あらたま懇談會。福田先生の御出席。二十四名。
昭和五十七年、荒魂之會年閒研究主題を福田恆存研究、と定む。
六月二十日（日）愛宕山東急インに於て第十二回あらたま懇談會。福田先生の御出席。二十六名。
七月　會報第二十八號刊。少年讀本第二輯國語國史の常識評欄に福田先生の御高評を掲載。
昭和五十八年六月　あらたま第十五號總特輯福田恆存小論刊。
七月二十四日（日）二葉會館に於てあらたま第十五號合評會。福田先生の御出席。二十六名。
昭和六十年三月九日（土）東急ホテルに於て三月十九日に行はれる「現代仮名遣い（案）」説明協議會に備へ、「荒魂之會質問條項」を逐一檢討して下さる。
昭和六十年九月十五日　荒魂之會を中心とする國語國字問題を考へる有志の會の「緊急提言・國語國字問題の論議を國會に要望す。」刊。賛同者として御名前の明記を御承引下さる。
昭和六十二年　荒魂之會年閒研究主題を福田恆存全集を讀む、と定む。（平成元年迄、三箇年閒で讀了。）
一月三十日　文藝春秋より福田恆存全集第一卷刊。
四月　會報第四十七號刊。卷頭に落合欽吾氏「老人の回顧・福田恆存全集に寄す」讀書欄に福田恆存全集全八卷と「リチャード二世」との紹介を掲載。
六月二十一日（日）愛宕山東急インに於て第十九回あらたま懇談會。福田先生の御出席。四十名。
昭和六十三年四月三十日　福田恆存全集第七卷刊。（年譜に荒魂之會竝に昭和五十六年五月の會の明記。）
七月一日　福田恆存全集第八卷刊。（完結）
七月三日（日）芝彌生會館に於て福田恆存全集完結記念竝に福田恆存先生喜壽の賀祝賀會。福田先生御夫妻の御出席。四十六名。別冊あらたま其の一「正統表記の實踐」刊。會報第五十二號刊。卷頭に中尾昭人氏「福田恆存全集の完結に當て」を掲載。十月刊の會報第五十三號より卷頭に福田全集の内容紹介記事を順次掲載。
平成二年十一月　少年讀本第五輯言葉盡し刊。（題字は福田先生の揮毫。）
平成四年　荒魂之會年閒研究主題を福田恆存全集を讀む、と定む。（平成六年迄、三箇年閒で讀了。）
一月　文藝春秋より福田恆存翻譯全集第一回配本。
平成五年四月　福田恆存翻譯全集第八卷刊。（完結）
平成六年九月　福田恆存翻譯全集最終卷を讀了。
十一月二十日（日）福田恆存先生逝去。二十一日（月）妙大寺に於て御通夜、十二月九日（金）青山齋場にて告別式。
平成七年四月　（いづれも荒魂之會同人有志の參列。）別冊あらたま其の八「福田恆存の世界」刊。
◎「福田恆存の世界」（平成七年四月刊）の記事より再錄。

荒魂之會の年閒主題の課題の書物に於る福田恆存著作

（昭和五十七年から平成十八年迄）

昭和五十七年　文化なき文化國家、教育とは何か、私の幸福論、私の國語教室、演劇入門、人閒この劇的なるもの（六冊）
昭和六十二年　福田恆存全集第一、二、三、四卷（四冊）
昭和六十三年　福田恆存全集第五卷、第六卷（二冊）
平成四年　福田恆存翻譯全集第五卷、第四卷、第六卷（二冊）
平成元年　福田恆存全集第七卷、第八卷（二冊）
平成五年　福田恆存翻譯全集第一卷、第二卷、第三卷（三冊）
平成六年　福田恆存翻譯全集第七卷、第八卷（二冊）
平成十五年　福田恆存全集第一卷、第二卷（二冊）
平成十六年　福田恆存全集第三卷、第四卷（二冊）
平成十七年　福田恆存全集第五卷、第六卷（二冊）
平成十八年　福田恆存全集第七卷、第八卷（二冊）

◎平成十五年度以降の福田恆存全集の再讀分は例會第二部の福田恆存を語る夕の話題の書物であり、この席に於ては擔當者による報告資料の配布はない。

荒魂之會の活動三十年餘の毎月の例會資料に記載せられたる福田恆存先生に關する記事數の一覽

◇昭和五十七年から平成十八年迄◇

昭和五十七年（四）同五十八年（二）同五十九年（七）同六十年（九）同六十一年（十一）同六十二年（二十）同六十三年（二十八）
平成元年（十九）同二年（二十五）同三年（三十一）同四年（二十八）同五年（十六）同六年（二十一）同七年（三十九）同八年（十九）同九年（二十二）同十年（二十一）同十一年（二十）同十二年（十八）同十三年（四）同十四年（六）同十五年（二十）同十六年（十七）同十七年（十八）同十八年（二十九）
計四百五十四

荒魂之會の活動三十年餘に於る福田恆存先生の御逸事

前言・イ、荒魂之會の活動三十年餘に於る福田恆存先生の御逸事の記事は、荒魂之會の毎月の例會資料に時に應じて記載せられてゐる福田恆存先生に關する記事を總て採取して年度順に示したものである。ロ、例會資料の保存狀態に鑑み、原資料は昭和五十七年から平成十八年迄の二十五年閒分である。ハ、遺憾乍ら、各年度中の月別の脱落により、福田先生に關する事項が豫告の記事のみが記されてゐる場合があるが、實際には實現しなかつた例はない。ニ、各年度の冒頭に示されてゐる數は福田先生に關する記事の數である。本記事では二十五年閒に計四百五十四件である。ホ、各年度の黑點を附した太字の項目が福田先生の記事である。ヘ、毎月の例會資料の記事の原稿は若干の例を除き駒井鐵平の手に依るものである。り、福田先生に關する記事の文責は駒井が負ふものである。

◇昭和五十七年◇・四

六月五日（土）午後六時－八時半　會場　道入庵

・**内容**　**福田恆存研究其の二**　報告者　川畑賢一（二宮中）

・書物「教育とは何か」

・「ヘンリー四世」**觀劇に就て**（本間）

◎本日（六月五日）午後三百人劇場

出席者　駒井、下坂、土屋、川畑、本間、三宅、中村（敬）、竹内、中村（信）、濱田　計十名

・**あらたま第十三號の刊行に就て**（駒井）

◎六月二十日　福田先生の會にて配布の豫定にて作業中

・**福田先生の會**（六月二十日）**に就て**（駒井）

同席者　同人十二名　會員他十三名　計二十五名

内容　六月二十日（日）午後三時より、東京港區愛宕の愛宕山東急インに於て、藝術院會員評論家福田恆存氏を迎へて、第十二回あらたま懇談會が行はれた。福田先生を御迎へして懇談會は、昨年（昭和五十六年）五月五日の第七回懇談會に次で二度目である。御病氣平癒後の福田先生の御近況を伺ひ、その後各自伺ひたき事どもを發言し、適宜御答へ願ふといふ形で會が進められた。

話題は國語國字問題を中心に多岐に亙り、折よく公演中の「ヘンリー四世」の觀劇談も出された。終始和かながら、言行一致を嚴しく御話し下さる先生の御姿に一同感銘一入であつた。夕食後七時に會を閉ぢた。〈註・イ〉

◇昭和五十八年◇・二

七月十日（日）　會場・御嶽神社

・**新刊紹介**

エリザベスとエセックス　ストレイチ（福田逸譯）中央公論社一二〇〇

註・福田逸氏は福田恆存先生の次男

七月二十四日（日）午後三時－六時半

會場・東京都葛飾區金町　二葉會館

・**内容**　**あらたま第十五號合評會**（福田恆存氏を迎へて）

七月二十四日（日）東京、金町の二葉會館（賛助會員二葉氏經營）にて、福田恆存氏を三度御迎へして、あらたま第十五號・福田恆存小論特輯號の合評會が行はれた。第一部、荒魂之會の本年度前半の活動報告、出席者紹介と續き、秋のオイディプス王公演準備中の福田先生の御近況を伺つて、あらたま第十五號の合評に移つた。初めに本號の編輯意圖の説明の後、本號執筆者に一言づつ感想を述べて貰ひ、續いて各出席者の發言に移つた。第二部として、これは時閒の都合上、夕食時に、ラヂオ日本三月二十八日放送分の松原正氏と駒井との正統表記に關する對談の錄音が披露された。〈註・ロ〉

◇昭和五十九年◇・七

九月九日（日）午後二時－五時半

内容　小林秀雄研究其の四　古典論、歴史論「無常といふ事」竹内孝彦（千葉大學）「歴史と文學」「歴史について」平田光寛（習志野臺中）

・**諸會合に就て**（駒井）

劇團すばる「ハムレット」公演

十一月五日（月）～十八日（日）三百人劇場

十二月十九日（月）～二十一日（水）東横劇場

◎福田先生の譯演出である。三十年前、この作品に依つて、演劇人福田恆存の名聲が確立したのである。（別紙福田先生の談話）

◎多數の觀劇を期待する。特に昨年「オイディプス王」掲載の新潮九月號を頂戴した儘、觀劇の機會を逸してゐる者は萬障繰り合せて是非とも觀劇されたし。

・**◎福田先生の近況**

八月六日（月）朝日夕刊にインタヴュウ記事あり。この記事に關して、八月十五日の駒井への電話にて、目下元氣一杯との由なり。シェイクスピア翻譯中なるべし。例年に

なく暑く閉口すれども翻譯には書庫を離れる譯にはゆかずとなり。ハムレット公演には、大擧して觀劇の豫定なりと傳へ、御仕事の一段落の曉には、また、あらたまの者に御話し願ひたしと、抜目無く申上げたれば快諾の御返事也。

十月十四日（日）二時－四時半　會場　淺間神社（稲毛）

内容　（一）小林秀雄研究其の五　人生論　全集第九卷「私の人生觀」（土屋）（二）佐々木奎文著「我が皇國史觀」（大橋）（三）同胞各位に訴へる其の八並びに會報第三十七號の發送作業

・**例會豫定**

十一月十八日（日）

「近代の超克」の討論（本閉）

◎ハムレット觀劇の都合に依り十一日より十八日に變更

・**會合案内**

ハムレット公演（別紙散しと福田先生の談話記事）

・**新刊紹介**

オイディプス王・アンチゴネ　福田恆存譯　新潮文庫　二百二十圓

◎福田先生より頂戴せる者は禮狀を忘れぬ事。又、ハムレット公演には萬障繰合せの上にて參上すべき事。

十一月十八日（日）午後二時

内容　小林秀雄研究其の六

書物「近代の超克」　報告者　本間一誠（沼南高柳高校）

・**ハムレット觀劇者**

駒井、松村、根岸、土屋、平田、川畑

十二月二十三日（日）午後一時

内容　小林秀雄研究其の九並に發送作業

書物「考へるヒント」　報告者　川畑賢一（習志野臺中）

・**會合報告**

ハムレット觀劇者補遺　本間、大橋、前川

◇**昭和六十年**◇・九

一月十三日（日）午後二時－五時　會場　稲毛　淺間神社

内容　第九回新年連歌の會並にあらたま第十八號の發送作業（殘）と運營の打合せ

連歌　宗匠　三宅（津田沼高）　宴席　角山（芝山中）

三月十七日（日）午後二時－四時半

内容　（一）書物　ウオシュバーン著「乃木大將と日本人」報告者　松村洋史（中央大）

（二）三代和歌俳句　報告者　川畑賢一（習臺中）

・**「現代假名遣改定案」説明會に就て（駒井）**

◎日時　三月十九日（火）一時半～四時半

◎會場　九段會館

◎出席申込者十六名（佐藤、平山、佐藤（亮）、駒井、川畑、平田、竹内、根岸、大橋、中村（信）、高池、松村、高崎、上田、土屋、北原）

◎荒魂之會意見書（別紙）に基き大いに意見を開陳したし。

◎右意見書作製の經緯は次の如し。二月十八日（月）並に十九日（火）の福田先生よりの駒井宛の電話にて説明會に對してあらたまは如何なる對應なりやと御尋ねあり。この遣取りの中にて先生の御校閲を願ふあらたまの意見書作製の話が出來せり。因つて、二月二日（土）駒井宅にて、川畑、根岸、大橋、駒井の四名にて素案を作りたり。これには上田、高崎御兩人の意見も早速に收めたり。二月九日（土）、夜、東急ホテルの福田先生の部屋にて素案を逐條檢討し成案とせり。この席には現代文化會議の佐藤松男氏、駒井の同道せる北原葉子孃も同席せり。十日（日）福田先生より駒井宛に電話あり。再度、個々の事項に限るべしとの作戰を授けられたり。

◎説明會終了後會場近くに場所を求めて綜括の會を行ふものなり。又、福田先生への報告も當然行ふべきものなり。

・**改革者中村編輯長受難の件**

改革者新年號竹内輝芳論文に對して中川八洋氏、その内容が氣に喰はぬ、掲載を取消し謝罪せよ、應じなくば裁判に訴へて、編輯擔當理事吉田忠雄より一億圓むしり取つて遣ると脅迫の件あり。吉田理事が弱腰にて中村編輯長危機なり。よつて、この件を知りたる駒井は、福田、松原兩先生に一報し中川の企圖の愚擧なるべきを悟らせる爲の牽制行動を願ひたり。中川も告訴は愚擧と悟りしも、謝罪文と見ゆる文の掲載を執拗に迫り、目下事態は流動中なり。筑波大の左翼勢力が竹内論文を喜びて民社研も亦、中川批判ではないかと、中川追放作戰の策動あるらし。これは中川の自業自得なるべしとは福田先生の評言なり。

四月十四日（日）午後二時－五時　會場　前原道入庵

内容　（一）現代著作家を讀むその一

書物　竹山道雄著「時流に反して」（文藝春秋）

報告者　本間一誠（沼南高柳高）

（二）三代詩歌を讀むその二　明治大正新體詩　報告者　倉成（習志野臺中）

・**諸聯絡**

三月十九日の假名遣説明協議會の出席者十七名‐佐藤(哲)佐藤(亮)、平山、駒井、土屋、川畑、平田、竹内、大橋、根岸、松村、上田、髙﨑、中村(信)、高池、前川、北原

◎會場にて　市原、宇野、木内、岩下諸先生に挨拶

◎同日夜、駒井は福田先生に電話にて逐一報告をした上で、更に荒魂之會質問書に質問が實現した事項に○印を附して郵送。

◎當日の概略は上田が近日中に月曜評論紙上にて報告。

◎福田先生の御意嚮にて右の荒魂之會質問書に福田先生が關與なさつた事實に就ては例會にての話題に止め各種文章に言及せぬやう注意されたし。目下懸案中の福田恆存論爭集完成迄は國語國字の問題には發言なさらぬとの由なればなり。

・**今月の論策**

西部流論文の作り方を嗤ふ(牛若丸)月曜評論四月一日號

◎右の文章につき福田先生より駒井宛に三月三十一日に電話あり。諸君！の編輯長は頭が惡いとは一致した意見なり。福田先生はかかる諸君！には全く書く氣なしとの由なり。月曜評論は精讀なさつてゐらるるらし。よつて月曜評論の部數擴大に努力されたし。目下、駒井は月曜評論は福田先生御元氣の内に大幅に紙面を呈して毎號執筆願ふべきであると中澤編輯長を强迫中なり。尚、先の電話にて、民社黨の代議士が假名遣に就て國會にて質問を爲せるとて岩下保氏が喜んでゐるらしいが、國語問題協議會の判斷は甘すぎる。五十年百年後の爲に今日反對があつたといふ史實を遺す以外に意義無しと覺悟すべしとの御話なり。

六月二十三日(日)午後二時‐四時半

内容　(一)三代詩歌を讀むその三

あらたま第十九號の配布竝に發送作業

(二)書物「堀口大學譯詩集月下の一群」(講談社)

報告者　松村洋史(中央大學)

・**「改訂現代假名遣い(案)」答申阻止の爲の運動に就て(駒井)**

◎瀧澤議員の國會質問を徒勞に終らせぬ爲に新たなる國語國字正常化の爲の活動を爲すべき秋なり。六月十五日(土)、中村(民社研)高池(法曹)駒井(あらたま)三者相集ひて今後の對策を協議せり。九月以降の啓蒙活動開始には、七、八月の内に何らかの母胎となるべき團體の設立が必要なり。目下、宇野精一、小堀桂一郎兩先生と接觸中。國語國字問題聯絡協議會の如き名稱の下に既存の文化諸團體竝に國會議員、民間有志等を鳩合し、來年三月の答申を中止若しくは延期せしむるが爲の短期決戰を企圖するものなり。應分の知惠を絞られたし。福田恆存先生に一報申上げるは無論の事なり。

九月八日(日)午後二時‐四時半

内容　(一)三代詩歌を讀む‐唱歌　書物「日本唱歌集」(岩波文庫)　報告者　前川孝志(松が谷高校)

(二)現代著作家を讀む‐河上徹太郎　書物「我が象徵的人生」(文藝春秋)　報告者　根岸清文(行田中)

・**下坂氏逝去への諸家の弔意(續)**

◎福田恆存先生(御佛前竝に悔み狀を直接下坂夫人に)

◎特に福田恆存先生に注意ありたし。福田先生は會員に非ず。寄贈者なり。七月刊の會報にて下坂死去を知りたり。即ち、あらたまの刊行物には必ず目を通して下さつてゐられる御芳志は右の如し。

・**國語國字を考へる有志の會の活動に就て(駒井)**

滝沢議員の發言に民間から呼應するものとして「國語國字問題を考へる有志の會」の名前で聲明書を出す。題して「國語國字問題の論議を國會に要望す」三頁　千部

右の連名は、小堀桂一郎、古賀俊昭、駒井鐵平、高池勝彦中澤茂和、中村信一郎の六名

◎經緯の概略

八月十二日(月)滝沢議員を圍む會、九名

八月十四日(水)大磯の福田恆存先生邸に小堀、駒井兩名の參上、報告

八月二十三日(金)東急ホテルにて福田先生出席の會合、十四名

八月二十八日(水)小堀先生邸に駒井、中村の參上、最終案を決める

九月十五日附で印刷

出席者の合議‐駒井の素案‐小堀先生の修正‐福田先生の校閲‐出席者の合議‐駒井の二次案‐小堀先生の字句の修正‐成案

右の聲明はゆくゆくは議員聯盟結成の爲の政治活動となるので、荒魂之會の名前は出さず駒井が連名に加はる事によつて代へる。

但し、福田先生は實質的には荒魂之會の活動と諒解してをり、それ故に、贊同者一覽に名前を出して下さる。從つて、あらたまの同人は贊同者として名前を出す必要あり。

又、十月の同胞各位の發送に同封して、あらたまとしての贊同者獲得に努める。

以上。

十二月二十二日（日）午後二時

内容　現代著作家を讀むその四並に發送作業

書物　高橋義孝著「大人のしつけ紳士のやせがまん」（新潮文庫）　報告者　根岸清文（行田中）

・**會合報告**

夏の夜の夢の觀劇（根岸）

◎觀劇者　駒井、根岸、大橋、平田

・**福田先生の近況**

ボイス新年號にインタヴィュウ記事「日本よ行くところまで行け」あり。又、朝日新聞十二月十二日（水）附夕刊一面の「新人國記」に紹介記事あり。

◎サンケイ新聞十二月十九日附朝刊、正論欄に「言葉は文化ではないのか」を御執筆。

◇**昭和六十一年**◇・十一

四月六日（日）午後二時－五時

内容　現代著作家を讀む其の六

書物　吉田健一著「變化」（青土社）

報告者　松村洋史（中央大學生）

書物　田中美知太郎著「時代と私」（文藝春秋社）

報告者　高崎一郎（歯科醫師）

・**福田恆存評論全集の刊行に就て（駒井）**

全七卷にて六月下旬に第一回配本豫定の處「ホレイショ日記」その他を加へる事になり、第一回配本は九月下旬になり、卷數も増える見込。十月下旬、刊行を記念してあらたま懇談會を開催したく、この旨、福田先生には御願ひしてある。

五月十一日（日）午後二時－五時

内容

（一）柳田國男折口信夫研究其の一

書物　柳田國男著「先祖の話」（筑摩文庫）　報告者　平田光寛（船橋中教諭）　書物　折口全集第一卷古代研究Ⅰ　報告者　根岸清文

（二）愛誦文章撰の編輯方針の策定

（三）諸聯絡

・**あらたま第二十二號現代著作家案内號の原稿に就て（駒井）**

◎原稿用紙と執筆要領は、六月十五日の編輯會の席上にて配布。

期日　八月二十日（水）必著

分量　四百字詰用紙の十二枚半に相當。

分擔　小林秀雄・**福田恆存**（中尾）石井勲（平山）河上徹太郎・吉田健一（駒井）江藤淳・三島由紀夫（本間）唐木順三（倉）岡潔（土屋）森銑三（平田）松原正（角山）樋口清之（川畑）小堀桂一郎（大橋）田中美知太郎（髙﨑）山本夏彦（三宅）高橋義孝（根岸）内田百閒（前川）竹山道雄（小川）以上十八著作家

・**消息**

福田恆存、角田文衞兩先生、春の叙勲の御沙汰あり。早速に祝賀の意を書狀にて認める。

六月二十二日（日）正午－五時

内容　（一）現代著作家案内の座談會

（二）柳田國男折口信夫研究其の二

・**十周年記念來歴寄贈者一覧**

◎缺席者　缺席一報者　特別進呈者

福田恆存　以上五十六名

・**新刊紹介**

リチャード二世　福田恆存譯　新潮社　一六〇〇

・**消息**

福田恆存、角田文衞兩先生、今般叙勲の御沙汰への祝意の狀に對し、返禮の書狀あり。

十月十日（金）午後二時－六時

内容　柳田研究其の四　書物　柳田國男著「海上の道」（岩波文庫）　報告者　大橋伊佐男（飯山滿中教諭）

・**マクベス觀劇者**

駒井、上田、安齋、長谷川、根岸、前川　會場　前原　道入庵

十一月九日（日）午後二時－五時

内容　柳田研究其の五　書物　柳田國男著「遠野物語」（岩波文庫他）　報告者　根岸清文（八千代松陰高講師）

・**マクベスの觀劇（續）**

平田、川畑、橋本、本間、大橋、片岡（眞）、久保田

・**昭和六十二年度の研究主題に就て（駒井）**

第一主題　日本浪漫派研究（あらたま第二十五號に發表）

第二主題　福田恆存全集を讀む

詳細は十二月例會にて發表

十二月二十一日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社

内容

（一）折口研究其の四　書物　折口信夫全集第二十三卷作品

3　報告者　前川孝志（松が谷高校）

（二）あらたま第二十二號發送作業

・**昭和六十二年度の活動に就て（駒井）**

一、研究主題

（一）日本浪漫派研究（あらたま第二十五號に發表）

（二）福田恆存全集を讀む（別紙例會豫定表）

二、出版　少年讀本全四輯の普及

三、調査　あらたま第二十四號（辭書批判號）の爲の辭書調査（主任・前川、別紙計畫書）

四、諸會合　あらたま懇談會（四月・福田恆存氏）

五、他團體との交流

・**來信**

・文藝春秋出版部寺田英視氏（福田全集擔當）より「あらたまは時折拜見、少年讀本も一冊所持してをります。」との由。

◇**昭和六十二年**◇・二十

一月十八日（日）午後三時－六時

内容　第十一回新年連歌の會並に聯絡

會場　勝右衞門（東船橋）

出席者　駒井、角山、倉、川畑、竹内、平田（清）、前川、髙﨑、大橋、根岸、田口、松村　十二人

・**第四輯寄贈先一覽（。印は寸評葉書を同封）**

福田恆存　計六十六

・**福田全集内容見本の配布**

◎文藝春秋寺田氏より送附あり、一部は暮の發送に同封。

・**新刊案内**

福田恆存全集第一卷　文藝春秋　五五〇〇

三月十五日（日）午後二時－五時　會場　前原道入庵

内容　研究會

（一）日本浪漫派研究其の一

書物　保田與重郎全集第四卷「日本の橋」（講談社）

報告者　土屋秀宇（習志野臺中）

・（二）**福田恆存全集を讀む**

書物　福田恆存全集第一卷（文藝春秋）

報告者　根岸清文（古和釜中）

・**新刊案内**

福田恆存全集第二卷　文藝春秋　五五〇〇

五月十日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社

内容　研究會　（一）日本浪漫派研究其の三

書物　中河與一著「天の夕顔」（新潮文庫）

報告者　大橋伊佐男（二宮中）

・（二）**福田恆存全集を讀む**

書物　福田恆存全集第二卷（文藝春秋）

・**第十九回あらたま懇談會（福田先生）に就て**（案内は配布濟）（土屋）

日時　六月二十一日（日）午後三時－六時

會場　東急イン　會費　同人七千圓　一般六千五百圓　學生五千圓　申込締切　六月十日（水）

・**消息**

福田恆存先生（四月十八日の電話）

正月以來依然として不調。食事は粥と梅干のみ。全集第一卷は千部增刷。覺書が捗らず。第三卷分は目下口述筆記。刊行は四、五日遲れる見込。

・**書籍の註文（四月分）**

福田全集三卷一冊

・**第十九回あらたま懇談會　福田恆存先生を御迎へして**

日時　昭和六十二年六月二十一日（日）午後三時－六時

會場　愛宕山東急イン

司會　駒井

同席者（同人）大橋、片岡、川畑、倉、駒井、髙﨑、竹内、土屋、平田（清）、前川、小川（一般）上田博和、岡田俊之輔、柿沼光造、熊本寛厚、粉川宏、笹目善一郎、佐藤健二、佐藤哲夫、下坂智惠、副島爽子、髙池勝彦、中尾昭人、中尾淑子、中村信一郎、根岸清文、日比義也、松村洋史、淺沼千代忠、安齋隆、植草學、大崎敬一、勝岡寛次、秋元眞理、澁谷宏海、中村敬司、橋本晃朋、片岡眞理、副島敬子（三十九名）

・福田先生の紹介

・御近況

聲が出なくて、纏まった話をしようとすると駄目です。死ぬ過程にあります。一月に退院。肺炎の輕いものです。それ以來寢たり起きたりで動悸が激しい。肺性心といふもので治らないさうです。御役に立てなくて申譯ない。

一、二卷の覺書は出版前に書いた。三卷は書けなくて口述で面白くない。四卷は大丈夫。寒い時が良くない。落著いて靜かに話す分には良いのです。皆さんがどんどん御話して下されればそれに對して御話できます。

芝居の初日に出た切りです。樂日に元氣だつたら行く。

四卷の覺書が二十四日に出來ます。

九月十三日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社

内容　研究會
（一）日本浪漫派研究其の五
書物　伊東靜雄詩集（テキストは各自適宜選擇）
報告者　根岸清文（古和釜中）

・（二）**福田恆存全集を讀む**
書物　福田恆存全集第三卷（文藝春秋）
報告者　澁谷宏海（成蹊大學生）

十月十八日（日）午後二時－五時　會場　二宮中學校
内容　研究會
（一）日本浪漫派研究其の六
書物　保田與重郎著「日本史新論」（新潮社）
報告者　角山正之（芝山中）

・**十一月催物會合案内**
◎歌舞伎「西郷隆盛」演出　福田恆存、福田逸　十月二日－二十三日夜の部　二十四日－二十七日晝の部　料金三千五百圓　歌舞伎座　電話〇三（五四五）一一五一
・**◎劇団すばる十一月公演**
「オセロー」三百人劇場（詳細は會報を參照）
・**新刊紹介**
シェイクスピア・ハンドブック　監修　福田恆存　執筆　松原正　臼井善隆他　三省堂　三五〇〇（但し横書、現代假名遣）

十一月八日（日）午後二時半－五時　會場　前原　道入庵
内容　研究會
（一）日本浪漫派研究其の七
書物　佐藤春夫著「田園の憂鬱」（新潮文庫）
報告者　澁谷宏海（成蹊大學生）

・（二）**福田恆存全集を讀む（四回）**
書物　福田恆存全集第四卷（文藝春秋）
報告者　竹内孝彦（古和釜小教諭）

・**諸會合報告**
・歌舞伎「西郷隆盛」觀劇者　駒井　安齋　長谷川
・**會合催物案内**
・オセロー　十一月十二日（木）－十七日（火）　三百人劇場
・**昭和六十三年度の年間研究主題に就て（駒井）**
第一主題　近世典籍を讀む
第二主題　福田恆存全集を讀む（五卷、六卷）
◎第一主題に就ては昭和五十八年度の「近世の諸人物」の續として少年讀本第四輯に收載した近世の典籍を自ら讀破する事。第二主題に就ては本年度の繼續として五卷、六卷を讀む。七卷、八卷は刊行狀況に鑑み、次年度（昭和六十四年）に讀む。

十二月十三日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社
内容　研究會
（一）日本浪漫派研究其の八
書物　保田與重郎著「我が萬葉集」（新潮社）
報告者　前川孝志（都立松が谷高校）

・**昭和六十二年度の活動に就て（駒井）**
一、研究主題　一、近世典籍を讀む（あらたま廿七號發表）
二、福田恆存全集を讀む
・**會合報告**
オセロー觀劇者　大橋　根岸　安齋　長谷川　川畑　駒井

◇昭和六十三年◇・二十八
二月十四日（日）午後二時～五時　會場　道入庵
内容　研究會
（一）近世典籍を讀む第一回
書物　伴高蹊著「近世畸人傳」（岩波文庫）
報告者　平田清美
（二）あらたま第二十四號合評會
・**第十九回あらたま懇談會（福田先生）の錄音テエプ複製の件**
保存一　進呈六（福田、中尾、大沼、粉川、下坂、副島）
頒布（角山、平田清、清水、平山、遠山、大橋、前川、根岸、竹内、川畑）
二月十一日現在のテエプ數は右の通り。無斷複製は嚴禁。荒魂之會の作製。送料共五百圓（テエプのみは參百圓）
・**劇團すばる三月公演「父親の肖像」**
會報第五十號を參照の事
三月十三日（日）午後二時～五時　會場　御嶽神社
内容　研究會
・（一）**福田恆存全集を讀む**（五回）
書物　福田恆存全集第五卷（文藝春秋）
報告者　青木英實

・**消息**
福田恆存先生
全集覺書完成二月下旬　發熱あり　目下靜養中
・**消息（續）**
福田先生
第六卷の上梓　福田全集が第二十二回造本裝幀コンクー

ル審査委員會奬励賞を受賞

四月十日（日）午後二時〜五時　會場　御嶽神社

内容　研究會

（一）近世典籍を讀む

書物　宮本武藏著「五輪書」（岩波文庫）

報告者　角山正之（芝山中）

・**諸會合報告**

「父親の肖像」公演

觀劇者　駒井　大橋　安齋　長谷川　平田

五月八日（日）午後二時〜五時　會場　御嶽神社

内容　研究會

（一）近世典籍を讀む

書物　松尾芭蕉著「奥の細道」（岩波文庫）

報告者　大橋伊佐男（二宮中）

・**福田全集完結記念並に福田先生喜壽の賀祝賀會の内容に就て（駒井）**

日時　七月三日（日）午後三時－六時

會場　芝彌生會館

第一部　實踐報告（高池、片岡、前川）

第二部　祝宴　祝詞言上

款談

祝賀演目

謠曲「鉢の木」　高池

劍舞「川中島」　角山

詩吟「金州城下作」角山素天翁

夏の夜の夢朗唱（すばるの俳優二人）（註・八）

軍歌二曲　中村（信）　粉川

唱歌齊唱「水師營の會見」全員

◎役割分擔並に案内狀は六月例會に配布

◎夏の夜の夢朗唱の件は福田先生の御指示に依る。

・**諸會合報告**

「父親の肖像」公演（續）　平田

・**消息**

福田恆存先生　目下腰痛の爲、時折指壓に通院

（四月二十四日の電話）

◎全集第七卷上梓、年譜に荒魂之會の記載あり

六月五日（日）午後二時－七時　會場　御嶽神社

内容　研究會

・（一）**福田恆存全集を讀む**（六回）

書物　福田恆存全集第六卷（文藝春秋）

報告者　竹内孝彦（古和釜小學校）

・**別冊あらたまの刊行に就て（駒井）**

福田先生の喜壽を記念して別冊あらたま其の一「正統表記の實踐」を刊行し、七月三日に配布する。題字（土屋）内容（あらたま第十一號、第十八號の實踐の再錄と第二十四號の正統表記實踐の爲にの再錄）

十六頁　二百部　頒價二百圓（但、同人は百圓）

・**會報第五十三號の原稿に就て（駒井）**

卷頭（福田恆存全集第一卷評　根岸）

讀書（今上天皇論評　平山、川畑、平田（清））

◎七月十日の例會に持參の事

・**福田全集完結記念並に福田先生喜壽の賀祝賀會の準備に就て（駒井）**

日時　七月三日（日）午後三時－六時　會場　芝彌生會館

會費　同人七千圓　一般六千五百圓　學生五千圓

（缺席の同人の負擔金は二千圓－今回は福田先生に祝意を表する會につき、全同人の負擔とする）

招待者　福田先生御夫妻、落合欽吾先生（三名）

六月五日（日）駒井は前川に次第の原稿、土屋に福田先生への案内狀と掲示用の次第の原稿を渡す。

・前川は駒井へ會員案内、下半期豫定の二點の原稿を渡す（駒井から川畑へ）

六月二十日（月）この日迄に前川は水師營の會見の樂譜を、駒井は夏の夜の夢、軍歌、鉢の木三點の詞章を夫々川畑に渡す。前川は發表要旨の原稿を川畑に送る。

六月二十五日（土）この日迄に川畑は會員案内二百四十枚、下半期豫定を二百六十枚、水師營の會見、夏の夜の夢、鉢の木、軍歌、前川の發表要旨とを各七十枚印刷する。

六月二十九日（水）土屋は出席者名簿を四通作りこの日迄に前川、川畑、駒井に送る。前川は名簿を加へて次第を完成させる。川畑は名簿に基き名札の用意と出席會員の會員案内に會費の明細を記入する。駒井は席順の原案を作る。又、袋詰の大要を作る。

七月二日（土）午後三時駒井宅にて袋詰と最終打合せ

・土屋は掲示用次第と祝品（和紙）とを持參する。

・川畑は計七點の印刷物全部と名札とあらたま第二十一、第二十二、第二十三、第二十四號各五冊を持參する。

・會報、會員名簿、別冊あらたまと名資料とを袋詰にする。

・川畑は袋詰資料、頒布物、記錄用紙、掲示用次第、祝品、名札、席順圖等の一切を一纏めにして持歸る。（殘

部資料は七月十日發送につき持歸る）

七月三日（日）當日

・大橋は前夜のうちに川畑宅に寄り必要物一切と錄音機と
を會場に運搬する。

・前川は次第を持參する。

・土屋は土產（果物）を持參する。

・根岸は寫眞機を持參する。

・受附の際に次第は袋の中に入れない事。

・角山は劍舞の裝束を忘れぬ事。

・會合報告

蔦の會　五月例會（五月二十一日プレスセンター）（駒井）

・福田恆存先生を迎へて――出席者三十一名

◎あらたまの方ばかり出席しないでこちらにも出て下さいと松原氏大磯に參上して直談判の上にて實現す。午後五時から九時迄の四時間、運營が下手な爲福田先生は難行苦行と御見受けし、駒井一人大いに腹を立てしなり。先生は何度も坐り直してゐられ表情も決して宜しとは言へず。七月三日の會は細心の注意が必要なり。二十三日夜電話にて伺ふと、二十二日（日）は終日足腰が痛く立てなかつたとの由。

・消息

福田恆存先生－現代演劇協會理事長を退き會長に就任。五月下旬三日間湯布院に滯在。福田逸氏が理事長に就任。

・豫告

六月公演の「どん底」は七月三日に出席の者は極力觀劇の事。

七月十日（日）午後二時半－六時　會場　御嶽神社

內容　（一）研究會　近世典籍を讀む其の四

書　物　新井白石著「西洋紀聞」（岩波文庫）

報告者　安齋隆（都立大院）

（二）あらたま第二十五號合評會

（三）會報第五十二號の發送

・福田全集完結記念並に福田先生喜壽の賀祝賀會の收支に就て（川畑）

・諸會合の報告

「どん底」觀劇者　駒井、川畑、安齋、土屋、竹內、平田、橋本、根岸、前川、長谷川

・福田先生の會會計報告

九月十一日（日）午後二時－五時　會場　前原　道入庵

內容（一）研究會　近世典籍を讀む其の五

書　物　上田秋成著「雨月物語」（筑摩學藝文庫）

報告者　前川孝志（都立松が谷高校）司會　角山

唱歌　濱邊の歌（林古溪作詞、成田爲三作曲）

・夏季諸會合報告

八月十三日（土）福田邸參上

（駒井、土屋、粉川、中村（信））

◎七月三日の錄音テエプと寫眞とを呈上

◎中央公論、諸君！等に執筆再開の見込

・來信消息

福田恆存先生、七月三日の會の禮狀（保田夫人の分と合せ別紙）

・福田全集完結記念並に福田先生喜壽の賀祝賀會の錄音テエプに就て

福田先生より複製の許可が得られたので希望者に頒布。二本組で八百圓（郵送の場合は千圓）七月三日の出席者は十月の會報發送に案內を同封する。

十月二日（日）午後二時半－五時　會場　二宮中學校

內容

（一）研究會　近世典籍を讀む其の六

書　物　林子平述「海國兵談」（岩波文庫）

報告者　遠山和夫　司會　角山正之

唱歌　旅愁（犬童球溪作詞、・オードエイ作曲）

・劇團すばる十一月公演「ロミオとジュリエット」に就て（會報に記事）

十一月十二日（土）～十三日（日）　會場　鎌倉（宿泊討論會）

內容

（一）研究會　近世典籍を讀む其の七（十二日夜）

書　物　賴山陽著「日本外史」（岩波文庫）

報告者　清水明彥（佐倉西高）司會　前川孝志

出席者　粉川、高池、遠山、田口、角山、駒井、根岸、大橋、竹內、平田、川畑、高崎

唱歌　明治節（堀澤周安作詞、杉江秀作曲）

・福田全集完結テエプ頒布

中澤伸弘氏、嘉悅佳津子氏、中島哲平氏、下坂智惠氏、中尾昭人氏、宮下力滿氏、仲田公彥氏

・昭和六十四年度の年間研究主題に就て（駒井）

第一主題　幕末維新の諸人物

第二主題　福田恆存全集を讀む（七卷、八卷）

◎あらたま第二十九號（昭和六十五年六月刊）の討論テキストは橋本左內著「啓發錄」（十一月）

◎發表の分擔は十二月の例會にて行ふ

十二月十一日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社

内容
（一）研究會　近世典籍を讀む其の八
書物　本居宣長著「初山踏」（岩波文庫）
報告者　川畑賢一（市立船橋高）
司會　前川孝志
唱歌「椰子の實」（島崎藤村作詞、大中寅二作曲）

・**昭和六十四年度の活動に就て（駒井）**

一、研究主題
（一）幕末維新の諸人物（あらたま第二十九號に發表）
（二）福田恆存全集を讀む（七、八卷）
（別紙例會豫定表）

・**福田全集完結テエプ頒布（補遺）**
川畑、根岸、大橋、平田、中村義勝君

・**昭和六十四年度荒魂之會例會豫定**
昭和六十三年十二月十一日（日）
一、年間主題
（一）幕末維新の人々（八點十三冊）八回
（二）福田恆存全集を讀む（七卷、八卷の二冊）二回
備考　福田全集並に「啓發錄」以外の報告者はあらたま第二十九號（六十五年六月刊）の執筆者である。

◇**平成元年**◇・十九

一月二十二日（日）午後二時半－五時　會場　深川芭蕉記念館
内容　新年連歌の會　改　先帝陛下の御遺德を偲び奉る會
會費　五百圓（學生は四百圓）
出席者　駒井、土屋、角山、大橋、平田、根岸、竹内、高崎、高崎氏夫人、清水、川畑、粉川、佐藤（亮）、中澤、田口、高池、中村（信）、中村、松田、前川

・**消息**
福田恆存先生　目下體重が四十一キロから四十三キロに增加。食も進む。（十二月に報告濟）

三月十二日（日）午後二時－五時　會場　前原　道入庵
内容　幕末維新を讀む
書物　サトウ著「一外交官の見た明治維新」（岩波文庫上・下）
報告者　角山正之（芝山中）　進行　清水明彦

・**消息**
福田恆存先生（二月二十日の電話）
・産經、新潮45、文藝春秋三月特別號の三篇は何れも別々の談話である。文藝春秋の場合は自分で手を入れたので署名文とした。新潮45の方は全く眼を通してゐない。誤りが多くて抗議をしたいが、その後編輯者は全く姿を見せぬ。新潮45に「戰爭をやらないと駄目だ」とあるが、あれは「勇氣」のやうに戰爭でなければ現はれぬ美德がある、と言つたのであつて、あのやうな書かれ方では迷惑である。昔の天皇が寢轉つてゐる錦繪があると言つたやうに書かれてあるが、そんなものがある筈がない。昔なら不敬罪ものの發言だ。天皇の本當の姿は中々傳はらぬといふ事を言つたのだ。早い話が今自分が電話を掛けてゐる姿はそちらには分るまい。それと同じ事だ。御大喪では自衞隊から儀仗兵が出るのか。出ないとすればこんな無禮な事はない。平成改元といふ事ではないが、今年は大いに書くつもりだ云々―

四月九日（日）午後二時－六時半　會場　勝右衞門
内容
・（一）**福田恆存全集を讀む**（七回續）
書物　福田恆存全集第七卷（文藝春秋）
報告者　川畑賢一（市立船橋高校）
進行　平田清美

六月十一日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社
内容
（一）幕末維新を讀む其の四
書物　カッティンディケ著「長崎海軍傳習所の日々」（東洋文庫）
報告者　清水明彦（佐倉西高）　進行　根岸清文
（二）あらたま第二十七號の發送並に配布
（三）第一回夕食會

・**別冊あらたま其の二　先帝陛下奉悼文集の刊行に就て（駒井）**
（別紙御案内）執筆者のみ
名稱　夜麻登志宇流波斯（やまとしうるはし）
揮毫　落合欽吾先生
奉悼歌　九人　奉悼文十九人　計二十八人
三十五頁　三百部　三百圓（執筆者割引二百圓）
配布　七月例會

・**會報第五十七號（十月刊）の原稿に就て（駒井）**
卷頭（福田全集第五卷評―青木）

・**消息**
福田恆存先生　五月十四日（日）の駒井宛の電話－目下具合惡し。腰痛もさる事乍ら、心臟が惡いのではないかと思ふ。「エデンの東」の初日には何とかゆきたいと思つてゐる。劇團の方もすつかり御無沙汰してゐる－との洵

に淋しき御様子なり。

・**今月の論策**

諸君七月號（創刊二十周年記念特別號）福田先生の「新聞への最後通牒」（四十九年十一月號）を初めとして再讀すべき論策多し。

七月九日（日）午後二時‐五時　會場　御嶽神社

内容

（一）研究會　幕末維新を讀む其の五

書物　辻森秀英著「橘曙覽歌集評釋」（明治書院）

報告者　川畑賢一（市立船橋高）　進行　竹内孝彦

（二）會報第五十六號の配布並に發送

（三）先帝陛下奉悼文集配布並に發送

（四）あらたま第二十七號合評會

・**諸會合報告**

「セールスマンの死」觀劇者　駒井、根岸、大橋

九月十日（日）午後三時‐七時　會場　勝右衛門

内容

一部　研究會（三時‐五時）

・書物　**福田恆存全集第八卷**（文藝春秋）

報告者　駒井鐵平（千葉南高）

進行　太田稔

・**會報第五十七號の刊行に就て（駒井）**

六頁　四百五十部　卷頭（青木‐福田全集第五卷）讀書（根岸、平田、清水）紙碑（駒井、土屋、川畑、角山、前川）

◎十月八日の例會にて配布並に發送

・**夏季會合報告**

八月十四日（月）大磯清談（駒井の參上）‐別紙

十月八日（日）午後二時‐五時　會場　中臺町會館

内容（一）幕末維新を讀む第六回（但し討論會）

書物　橋本左内「啓發錄」（學術文庫）

報告者　竹内孝彦　進行　大橋伊佐男

・**本日の配布物**

リチャード三世の散し

・**劇團昴「リチャード三世」並に第四十二回國語問題講演會に就て（會報に記事）**

・**今月の論策**

「福田恆存と戰後の世界」を讀む　萩野貞樹　月曜評論九月二十五日號

・**書籍の取寄せ（九月分）**

福田恆存と戰後の時代　三册

一、明年、平成二年十一月の御大典を目途に少年讀本第五輯言葉盡しを刊行する。

二、今上陛下御即位並に皇紀二千六百五十年奉祝出版である。

・**少年讀本第五輯言葉盡しの刊行に就て（駒井）**

十一月十二日（日）午後一時‐五時　會場　前原　道入庵

内容

（一）研究會　幕末維新を讀む第七回

書物　ゴロオニン著「日本俘虜實記上・下」續「ロシア士官の見た德川日本」（講談社學術文庫）

報告者　小野保義（太田稔十一月四日手術の爲入院。依つて小野保義に變更）

進行　竹内孝彦

（二）少年讀本第五輯の編輯分擔

・**本日の配布物（例會資料、發表要旨以外）**

福田恆存先生執筆角川文庫版「こころ」の解説（出席者）

・**少年讀本第五輯の題字揮毫に就て**

福田恆存先生の御承引を戴く‐明年八月頃迄を目途に。但し、どうしても書けぬ場合は勘辨を願ふとの由。

・**消息**

福田恆存先生

（一）十月十日（火）駒井が參上し、第五輯の題字揮毫を御願ひの處、刊行に興味を示して下さり、前記の條件で御承引を戴く。目下、菊池寛賞審議の件で諸資料に眼を通してゐられるといふ日々の由。健康狀態は良好といふ由。

（二）十月二十日（金）二十一日（土）福田恆存先生の御伴をする旅‐大磯‐十國峠を經て‐熱海‐伊東（泊）‐河津‐下田‐大磯の自動車旅行‐御伴の一行‐粉川、駒井、片岡、小川、高池、太田、川畑　七名

◎翌二十二日（日）夕刻の駒井の電話には少々旅の疲れはあるが、寢込むといふやうな事はない。大變樂しかつたといふ由。

◇**平成二年**◇・二十五

一月二十八日（日）午前十時半‐午後八時

内容　隅田川周邊史蹟散策並に第十四回連歌の會（百花園

集會室）
行程　西郷南洲勝海舟會見碑、白瀬中尉南極探検記念碑、日の出桟橋より水上バスで淺草へ、淺草寺、淺草神社、待乳山聖天、隅田川七福神、木母寺、百花園

・**國語の復權の反響**
日本の教育（日本教師會）十二月號に紹介記事あり－福田先生より小川へ同様の御送附あり。有難き極みである。
二月十八日（日）午後一時－五時　會場　道入庵
内容
（一）小林秀雄・保田與重郎研究其の一
保田全集第五卷「戴冠詩人の御一人者」
報告者　大橋伊佐男（二宮中）　進行　竹内孝彦
（二）あらたま第二十八號の合評會
（三）會報第五十八號の配布竝に發送

・**消息**
福田恆存先生
この頃どうやら健康快調のやう。ひよつとすると、少年讀本の字、書けるかもしれません。（一月十日受信）

・**會合催物案内**
劇團昴「父をめぐる旅路」（會報參照）

・**消息**
福田恆存先生（續）目下風邪氣味（二月九日の電話）
三月二十一日（水・祝日）正午－五時　會場　御嶽神社
内容
（一）小林秀雄・保田與重郎研究其の二
書物　保田全集第八卷「後鳥羽院・民族と文藝」
報告者　竹内孝彦（古和釜小）　進行　清水明彦
（二）少年讀本第五輯第二回編輯會

・**四月例會配布刊行物に就て**
會報第五十九號　六頁　四百五十部
卷頭－福田全集第七卷（川畑）

・**今月の論策**
・文藝春秋二月臨時增刊號より
老いの繰言（福田恆存）

四月八日（日）午後二時－五時　會場　道入庵
内容
（一）小林秀雄・保田與重郎研究其の三
書物　小林秀雄著「本居宣長補記」
報告者　千葉展正　進行　根岸清文
（二）會報第五十九號の配布竝に發送

・**本日の配布物（例會資料發表要旨樂譜以外）**
じゃじゃ馬ならしの散らし（出席者）

・**會合等報告**
劇團昴「父をめぐる旅路」　觀劇者　駒井
五月十三日（日）正午－五時　會場　御嶽神社
内容（一）小林秀雄・保田與重郎研究其の四
書物　保田全集第十五卷「萬葉集の精神」
報告者　前川孝志　進行　清水明彦
（二）會報第六十號の原稿提出
（三）第五輯第六回編修會（本文の決定）

・**消息來信**
福田恆存先生（四月十五日午後、駒井宛電話あり。その要旨－轉任との事だが、何も無いのか。地位を下げられるといふやうな事は無いのか。校長からあれこれ言はれる事は無いのか。－駒井、洵に恐縮して以下の如く應答仕る。「十五年條項といふ縣の方針に依る異動なり。新任校に於て、授業その他に就て横槍を入れらるる事は目下の處何も無し。授業は未だ一時間か二時間が始まつた處なり。前任校と同じく正統表記にて行ふと宣言せしなり。
面白き事を發見す。新任校の正門の看板なり。それには、千葉縣立幕張北高等學校と正漢字にて示されてあり、生徒にもこの看板を見よと言ひおきしなり。若し横槍を入るる職員あらば、この看板を如何とすと言ふつもりなり。幕張北高は戰前からの學校に非ず、本年で十周年を迎へるといふ學校なり。看板も十年前に新しく書きし物なり。」と申上るに、先生大いに愉快なりと電話を終へられしなり。
◎あらたまの活動の蔭には常に福田恆存先生の御心遣ひあり。同人一同常に大磯に耳を澄ますべし。

・**本日の配布物**
少年讀本第五輯の題字（福田先生揮毫）

・**少年讀本第五輯の題字、用紙に就て**
題字－福田先生より拝受（別紙、本日の配布物）
表紙－レザックの藤色（福田先生の御指定）
六月十日（日）正午－五時　會場　中臺町會館（御嶽神社隣）
内容
（一）第五輯編輯會　正午～二時
（二）小林秀雄・保田與重郎研究其の五
書物　保田全集第二十七卷「祖國正論Ⅰ」
報告者　根岸清文　進行　竹内孝彦
（三）あらたま第二十九號の配布竝に發送
（四）あらたま第三十號の原稿用紙の配布

・**會報第六十號の刊行に就て**

七月の例會にて配布並に發送
巻頭　福田全集第七巻評（駒井）
七月十五日（日）一時－五時　會場　中臺町會館（御嶽神社隣）
内容　研究會（一）小林秀雄・保田與重郎研究其の六
書物　保田全集第十七巻「皇臣傳・日本語錄・日本女性語錄」
報告者　清水明彦　進行　竹内孝彦
（二）あらたま第二十九號の合評會

・**消息**
福田恆存先生（六月二十二日の電話）
暑くて閉口してゐる。天氣豫報が後手後手に廻つて、天氣後報だ。（天の動きが簡單に分らぬといふ方がよいのかも知れないといふ駒井の應答に）その通り、但しその事が分つてはゐまいとて大笑す。御聲は元氣そのものであつた。

・**會合報告**
じやじや馬ならし
觀劇者　駒井、小川、佐藤（利）、川畑
九月二日（日）一時－六時　會場　勝右衞門
内容　（一）幹事會　二時－三時
（二）研究會　三時－五時

・出席者
駒井、土屋、角山、大橋、前川、高崎、竹内、清水、千葉
太田、小野、北村、大崎、中富（仁）
（一）小林秀雄・保田與重郎研究其の七
書物　小林秀雄「白鳥・宣長・言葉」
報告者　北村孝弘（滋賀縣）　進行　大橋伊佐男
夕食會　五時－六時

・**近況**
福田恆存先生　例年にない暑さで食欲がなく閉口してゐる。（八月二十一日の電話－但し、聲は元氣なものであつた。）

・**會合報告**
じやじや馬ならし（續）
十月七日（日）二時－五時　會場　觀劇者　大橋、竹内
内容　研究會
書物　淺野晃「浪漫派變轉」（高文堂出版社）
報告者　角山正之（芝山中）　進行　川畑賢一
◎あらたま第二十一號の爲の錄音

・**諸聯絡**
少年讀本第五輯言葉盡しの内容案内（出席者）

・**會合催物報告**
昴公演「アルジャーノンに花束を」
觀劇者　駒井　大橋　竹内　佐藤（利）

・**消息**
福田恆存先生－第五輯編修の纏め並に筆寫本の見本數葉の呈上に關して「よいものが出來さうだ。樂しみにしてゐる。」との電話あり。（九月十日）
落合欽吾先生－「編修纏め一部拜讀して、皆様方の御奮闘拜察し敬服しました。完成まで猶大へんな御骨折と存じますが、福田氏の實に見事な題字にふさはしい有終の美を御達成あらんことを祈りあげます。（九月二十一日の書信）

十一月十一日（日）二時－五時　會場　中臺町會館
内容
（一）國歌齋唱
（二）研究會
書物　保田全集第三十二巻「日本の文學史」
報告　川畑賢一
進行　大橋伊佐男（清水氏の豫定なるも變更）
（三）**少年讀本第五輯言葉盡しの配布並に發送**
唱歌　明治節（鹽澤周安作詞、杉江秀作曲）
夕食會

※右の内、一、三、は御大典奉祝

・**本日の配布物（例會資料發表要旨以外）**
一、少年讀本第五輯言葉盡し（同人、各配布分）
二、少年讀本第五輯内容案内（訂正版）（同人）
三、少年讀本第五輯言葉盡しの内容見本（同人）
四、少年讀本第五輯進呈の案内五種類（同人）

・**少年讀本第五輯言葉盡しの配布に就て**
九十四頁　二千五百部（内容見本　二頁　三百枚）印刷代八十萬圓

・**會合催物報告**
十一月三日（土）第七回史蹟散策
夜　三百人劇場（三島由紀夫近代能樂集）
参加者　駒井、前川、大橋、竹内、清水、平田
十二月十六日（日）午後一時－六時　會場　中臺町會館
内容　研究會　小林秀雄・保田與重郎研究其の十
書物　保田全集第三十二巻　報告者　中澤伸弘
唱歌　天長節（黒川眞頼作詞、奥好義作曲）

・**消息**
福田恆存先生

十一月十日（土）駒井が參上し、少年讀本第五輯言葉盡し十册を呈上。同人一同の御禮の意として、福砂屋のカステラを長崎の本店より取寄せて併せて進呈。（十一月の例會にて報告濟）

○目下福田全集翻譯篇の刊行準備中（平成三年四月に第一回配本豫定）○翻譯篇は全七卷、文藝春秋より刊行。福田恆存對談集は結局刊行中止。新潮四十五・十二月號に井尻千男氏の解説附で再錄になる。新年號より某月某日といふ形で毎號四頁分の連載が始まる。少年讀本のやうなものは二年に一度の割合で續刊すると良い。

◎明年の福田先生傘壽の賀に就ては、期日は九月～十一月頃、會場は大磯～藤澤邊、人數は五十名程度、といふ事にて先生の御諒承を得た。

・**會合催物報告**

チャリング・クロス街84番地　觀劇者　駒井、竹内

◇**平成三年**◇・三十一

二月十七日（日）一時－五時　會場　道入庵

内容

（一）研究會

書物　岡倉天心著「東洋の理想」（講談社學術文庫）

報告者　角山正之　進行　髙﨑一郎

（二）あらたま第三十號の合評會

（三）平成二年度の活動並に收支報告、平成三年度の豫定表の配布

（四）會報第六十二號の配布並に發送

（五）あらたま第三十一號、會報第六十三號の原稿提出

唱歌　紀元節（高崎正風作詞、伊澤修二作曲）

夕食會

・**劇團昴の觀劇談の座談會に就て（駒井）**

三月十七日（日）例會の前（一時～二時）に劇團昴のこの一年程の觀劇談を語る座談會を實施する。内容は七月刊の會報第六十四號に掲載する。座談會出席者は三月公演の「オータム・ガーデン」を觀劇した者に限る。（會報に案内を掲載）◎座談會は四月に實施す。

・**福田先生の八十の賀の祝意に就て（駒井）**

傘壽といふ語は俗語であり、正しくは八秩と稱すと原田種成先生より御指摘あり。よつて以後八秩と稱す。

（一）福田先生の御意嚮（一月二十二日の來信）により目下準備中の祝賀の會は中止する。

（二）荒魂之會として祝意を表する作物を企てたし。但し、目下具體策は無し。

三月十七日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

内容

（一）研究會

書物　内村鑑三著「代表的日本人」（岩波文庫）

報告者　竹内孝彦

進行　川畑賢一（清水氏缺席の爲）

（二）十五周年行事　慰靈祭の原稿提出

（三）會報第六十四號の用紙の配布（卷頭角山、祭文川畑）

唱歌　廣瀨中佐（樂譜竹内用意）（作詞者作曲者不詳）

※倉野憲司先生逝去につき黙禱

・**福田恆存先生八秩の賀祝意に就て（駒井）**

◎二月十六日（土）に駒井が參上し、ほぼ諒承を得たものである。

（一）劇團昴觀劇談の掲載

本日（三月十七日）實施分を七月刊の會報第六十四號に掲載する。

（二）福田全集翻譯篇刊行に因み「シェイクスピア言葉盡し」を別册あらたま其の四として刊行する。

（三）あらたま刊行十五周年記念の會を國語國字實踐報告を中心とするものとして開催し、當日の様子を錄音し、前記「シェイクスピア言葉盡し」と共に福田先生に呈上す。

◎「シェイクスピア言葉盡し」は右の會の席上にて配布す。

・**「シェイクスピア言葉盡し」の内容の素案に就て**

（一）福田譯シェイクスピア全集全十九卷を底本として、シェイクスピア劇のせりふの章句を少年讀本第五輯言葉盡しに倣つて收載す。

（二）各卷毎に見聞き二頁づつ。慣用句、動物名、植物名、職業名、人名、地名、其の他

（三）收載の用例の骨子

・名せりふ集である事。シェイクスピア劇にはどういふ言葉が使はれてゐて、それが福田譯によつてどういふ國語として示されてゐるのか、一覽となるやうなものである事。

四、體裁　A五判　四十～五十頁程度

五、作業手順の見込

四月　内容一覽と分擔

四月～六月　記事採集

七月　編修會
八月　原稿作製
九月　印刷
十月　納品

・**消息・來信**

福田恆存先生（二月十六日駒井の參上）

・一月中は殆んど起き上れなかつたが、この處暖いので具合がよい。全集翻譯篇は十月頃第一回配本になる。新潮45の連載は斷念した。シェイクスピア名せりふ集を作らうと思つたが結局手が著けられなかつた。シェイクスピア言葉盡しとはどんなものが出來るのか、果して出來るのか、少年讀本第五輯のやうなものには頭を下げる、がシェイクスピアとなれば小冊子にまとまるのか。

四月七日（日）午後一時‐五時　會場　中臺町會館（庭の紅梅が見事であつた。）

内容

・（一）**福田先生八秩の賀　祝意の劇團昴の觀劇談**

（二）研究会

書物　田口卯吉著「日本開化小史」（學術文庫）

報告者　中澤伸弘　進行　大橋伊佐男

（三）あらたま第三十二號「各論」の内容骨子の配布

（四）別冊あらたま其の四編修分擔に就て

（五）十五周年行事に就て（慰霊祭詳細の決定）

（六）會報第六十三號の配布並に發送

（七）平成三年度第一回同人費納入

唱歌　日の丸の旗（高野辰之作詞、岡野貞一作曲）

夕食會（於黒潮）

・**本日の配布物（例會資料、發表要旨以外）**

別冊あらたま其の四・シェイクスピア言葉盡し編修内容一覽並に用紙、收載例、封筒（同人、會員各一）

・夏の夜の夢の散らし（出席者）

・**會合案内**

昴公演　夏の夜の夢（別紙散らし）會報第六十三號掲載

五月十二日（日）午後二時‐六時　會場　中臺町會館

内容

（一）大石義雄先生御逝去に哀悼の默禱

（二）研究會　明治諸人物研究其の四

書物　正岡子規「歌よみに與ふる書」（岩波文庫）

報告者　川畑賢一　進行　竹内孝彦

（三）別冊あらたま其の三「かりがね集」の配布

唱歌　花（武島羽衣作詞、瀧廉太郎作曲）

（四）あらたま刊行十五周年關係物故者慰霊祭

・**本日の配布物**

・夏の夜の夢の散らし（四月配布は假の物の由）（出席者）

・**別冊其の四・シェイクスピア言葉盡しの編修に就て（駒井）**

四月決定分を加へた分擔は次の通り。

（編修分擔）

編修綜括（駒井）、諸用紙の用意（駒井）、編修主任（竹内）、序文（前川）、目次（駒井）、十九卷の内容紹介（大橋）、福田譯の刊本紹介（駒井）、語釋（清水）、題字（宇野精一先生）、表紙の用紙の色（　）、表紙の構成並に本文割附（駒井）、本文記事分擔（略）

・**別冊其の四・シェイクスピア言葉盡しの題字の揮毫に就て（駒井）**

シェイクスピア言葉盡しは福田全集翻譯篇刊行を壽ぐ爲のものにて、原則として同人のみの手にて作製するものである。よつて題字揮毫も片岡の手に依るものを豫定の處、今般（四月二十四日受信）福田先生より、シェイクスピア言葉盡しの作業開始との駒井の報告に御返信あり。その中に「『言葉盡し』次は宇野精一氏に書いてもらひなさい」との條あり。これは「シェイクスピア言葉盡し」に興味を寄せて下さつてゐる事の證であると思はれる。よつて宇野先生に揮毫の依頼をしたし。但し、先生の御都合によつて題字を頂戴出來ぬ場合は、片岡の題字を用ゐる。

尚、題字は「沙翁言葉盡し」と「シェイクスピア言葉盡し」の二つの例文を示し、毛筆にて書き易い方を揮毫して戴く。

◎五月一日、宇野先生より「福田さんの御希望とあれば辭退するのはいかがと存じますので拜承致します」との御來信あり。よつて、シェイクスピア言葉盡しは宇野先生の題字にて飾られる事になる。尚「沙翁言葉盡し」の方が書き易いと思はれるが、どちらの字句にするかは書いてみて考へるとの由。各自の收載語とその引例の記事は必ず提出せられたし。第五輯の場合は、最初の記事提出が分擔通りに行はれなかつたので編修作業が手間取つたのである。

・**會合案内**

・夏の夜の夢公演（散らし）

◎現代演劇協會の旗上げ公演の演目である。

福田恆存先生八秩の賀を壽ぐ意を込めて同人は必ず都合をつけて各自觀劇せられたし。三月の「オータムガーデン」は、わざわざ割引券を入手して配布したのにも拘ら

ず應ずる者少し、遺憾の極みなり。

六月九日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

内容

（一）研究會　明治諸人物研究其の五

書物　三宅雪嶺著「眞善美日本人」（富山房百科文庫）

報告者　長谷川宏　進行　前川孝志

（二）あらたま第三十一號の配布並に發送

（三）別冊あらたま其の三・かりがね集の發送

（四）あらたま第三十二號　神武天皇、卑彌呼調査提出

（五）あらたま第三十二號の原稿用紙配布

唱歌　故郷（高野辰之作詞、岡野貞一作曲）

夕食會

・シェイクスピア言葉盡しの再檢討に就て（同人）

◎シェイクスピア言葉盡しに就て五月二十日福田先生より電話あり－企劃を再檢討の要あり。（駒井）

・シェイクスピア言葉盡し作製の修正

一、目下作業中の分に就ては全て豫定通りに進行させる。

二、作業は當初豫定の竹内の手になる原稿の完成（あらたま用紙への淨書）迄にて終了とす。

三、右の原稿を製本し、それをあらたま同人一同の勉強の成果として福田先生に呈上す。

四、右の原稿本を原本として同人十四人並に原稿提出者の分の複本を作り、各自の所有分とす。

五、題字は宇野先生揮毫は辭退し、すでに完成してゐる片岡揮毫のものを用ゐる。

六、シェイクスピア言葉盡しはあらたま同人の勉強を纏めた私家本であり公刊はしない。

七月十四日（日）午後一時－四時半　會場　中臺町會館

内容

（一）研究會　明治諸人物研究其の六

書物　志賀重昂著「日本風景論」（講談社學術文庫）

報告者　大橋伊佐男　進行　竹内孝彦

（二）あらたま第三十一號合評會

（三）會報第六十四號の配布並に發送

（四）會報第六十五號の原稿提出

・（五）別冊あらたま其の四シェイクスピア言葉盡し

序文・内容紹介の原稿提出

（六）第四回散策の内容發表

（七）第二回同人費の納入

唱歌　我は海の子（宮原晃一郎作詞、作曲者不詳）

夕食會（九段會館）

（八）靖國神社みたままつり參拜

・本日の配布物

シェイクスピア言葉盡しの原稿提出狀況（同人）

・私家本シェイクスピア言葉盡し並に合本同胞各位に訴へるの作製に就て（駒井）

「シェイクスピア言葉盡し」

六月の例會に於て檢討した件に隨ひ次のやうに作業を進める。

◎第五輯の場合は編修主任が原稿本を作ったが、今回は原稿本をそのまま成本にする都合上、編修主任と成本（私家本）作製者とを分ける。

編修會

第一回　七月二十一日（日）午後一時、中臺町會館

第二回以降は進捗狀況によって適宜開催す。

第五回　八月十八日（日）

㊀本文の決定　㊁序、内容紹介、刊行紹介の完成

一、本文の決定とは收載記事の㋑内容㋺分量の一覽である。

二、右の決定に至る迄の個々の記事は全集本による表記である事。（收載の決定次第に編修主任は全集本に據らざる分は適宜正しておく事。）

三、右の決定時における記事は、編修主任が全集本に據って正した他は、總て記事提出者の最初の原稿である。（第五輯編修の例に鑑み、成本作製に至る迄の記事は、編修主任が表記を正す分以外は一切淸書其の他の書き換へはしない。）

四、編修主任の仕事は、前記一、によって一應の終了である。

成本の作製

成本作製者（根岸）は、本文記事一覽に基いてあらたま用紙に淨書をする。

校閲並に完成

八月二十九日（木）

一、成本並に複本二部の提出

二、全集（大橋が全卷を用意す）の原文と複本とを照合す。

八月三十一日（土）本文校閲の豫備日

以後本文原稿の訂正

◎駒井は目次原稿を作製

九月八日（日）例會

一、成本の再提出（成本、訂正を加へた複本、成本の中で

訂正を加へた箇所の複本の三種）
二、目次原稿の提出
三、成本の再校閲
九月十五日（日）
全原稿の提出と校閲
◎再校閲した分と目次との複本を添へる。
◎成本の完成と共に編修主任に引繼ぐ。
十月六日（日）例會
編修主任は成本一冊並に複本十六部を製本して提出。
（片岡の題字を用ゐる。）
◎シェイクスピア言葉盡しの原稿提出狀況は次の通り。（別紙本日の配布資料）

・會合報告
夏の夜の夢の觀劇（三百人劇場）
駒井、大橋、長谷川、佐藤（利）、千葉

九月八日（日）午後一時－九時（五時より第六回編修會）
會場　中臺町會館
內容　（一）藤井武夫、有賀清之助兩氏逝去につき默禱
（二）研究會・明治諸人物研究其の七
陸奥宗光著「蹇蹇錄」（岩波文庫）
報告（清水明彦）進行（竹內孝彦）
・「大東亞戰爭への道」研究
報告（根岸清文）進行（竹內孝彦）
・（三）**「シェイクスピア言葉盡し」稿本の再提出**
（四）能と第五回散策の會の發表
（五）「合本同胞各位に訴へる」の表紙の用紙の決定
（六）あらたま刊行十五周年記念懇親會の準備
（七）第六回散策の企劃發表
（八）幹事會
唱歌　村祭（作詞者作曲者不詳）

・本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
「シェイクスピア言葉盡し」收載語一覽（同人並に記事提出者）

・會合報告
夏の夜の夢（續）　觀劇者　千葉

・第四回史蹟散策
日時　八月二十五日（日）福田先生八秩の日（午前九時－午後八時半）
方面　都電荒川線沿ひの史蹟巡り
向島百花園にて蟲の音を樂しむ
參加者　佐藤亮策、平山寛司、駒井鐵平、髙﨑一郎、中澤伸弘、竹內孝彦
（前川孝志、清水明彦は向島百花園のみ參加）

十月六日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
內容　（一）研究會　明治諸人物研究其の八（錄音討論會）
森銑三著「明治人物夜話」（講談社文庫）
報告（前川孝志）進行（千葉展正）
（二）第三回同人費の納入
・（三）**「シェイクスピア言葉盡し」複本及び編修の纏め配布**
（四）會報第六十五號の配布並に發送
（五）あらたま第三十二號の內容案內配布
（六）あらたま刊行十五周年記念懇親會の諸準備に就て
（七）觀能並に湯島散策に就て
（八）明治村散策に就て
唱歌　紅葉（高野辰之作詞、岡野貞一作曲）
夕食會（於黑潮）

・「シェイクスピア言葉盡し」複本並に編修の纏め配布に就て（竹內）

・會合催物案內
昴公演「寺院の殺人」（十一月十五日～十二月一日）

・表紙の用紙の決定に就て（駒井）
・合本同胞各位に訴へる－銀鼠色
・シェイクスピア言葉盡し－象牙色
◎右二件、大昭和の色上質の見本によつて九月例會に於て決定。

・消息（追加）
福田恆存先生
福田全集翻譯篇は平成四年一月、文藝春秋創立七十周年記念出版として刊行が決定との由。（十月五日、駒井宛の電話）

・あらたま刊行十五周年記念懇親會の準備內容（大橋）
十月二十七日（日）當日
同人は、午後二時に集合し、會場の確認と設營とを行ふ。
又、福田先生八秩の賀の染筆をす。

・事後處理
・千葉は十一月七日迄に、福田先生進呈用の寫眞を四～五枚駒井に送る。全部の寫眞は十一月十日の例會に持參する。（出席者へは十一月のあらたまの發送に同封。）

十一月十日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
內容　（一）研究會　明治諸人物研究其の九
書物　福地櫻痴著「幕府衰亡論」（東洋文庫）
報告（千葉展正）進行（根岸清文）

（二）あらたま刊行十五周年懇親會の禮狀の發送
（三）明治村散策に就て
（四）平成四年度テキスト（鷗外、漱石）候補の提出並に決定
（五）平成四年度散策豫定の提出
唱歌　明治節（堀澤周安作詞、杉江秀作曲）

・**十五周年懇親會の開催並に事後處理に就て（大橋）**
日時　平成三年十月二十七日（日）午後三時－六時半
會場　東京芝彌生會館
出席者　同人（十四名）大橋伊佐男、角山正之、片岡正彦、川畑賢一、駒井鐵平、清水明彦、髙﨑一郎、竹内孝彦、千葉展正、土屋秀宇、中澤伸弘、根岸清文、前川孝志、小川雅照
會員（十八名）平山寛司、關正臣、岩下保、田口義昌、角山素天、佐藤亮策、柿沼光造、高池勝彦、笹目善一郎、星運吉、萩野貞樹、荒井眞弓、中村信一郎、平田五十一、大山美津子、日比義也、佐藤利幸、平田清美
他（七名）中藤政文、古賀俊昭、粉川宏、冨士信夫、小田村四郎、宮坂健三、宮坂文子
事後處理
◎福田恆存先生に當日資料、寫眞、テエプ錄音を進呈

十二月十五日（日）午後一時－六時　會場　中臺町會館
内容
（一）研究會　明治諸人物研究其の十
書物　福澤諭吉著「明治十年丁丑公論痩我慢の説」（講談社學術文庫）
報告者　髙﨑一郎
唱歌　天長節（黒川眞頼作詞、奥好義作曲）

・**消息來信**
福田恆存先生－大磯清談（其の四）を參照

◇**平成四年**◇・二十八
一月十二日（日）午前十一時－午後八時
内容
（一）本年度第一回史蹟散策（小岩柴又方面十一時～五時）
（二）佐藤亮策先生八秩の賀祝意の會並に第十六回連歌の會（於川甚五時～八時）
（三）唱歌　一月一日（千家尊福作詞、上眞行作曲）

次第
一、開會の辭（大橋）
一、同人挨拶（川畑）
一、記念品贈呈（竹内）
一、乾杯（平山）
一、諸聯絡
一、新年連歌（宗匠－角山・發句－千葉）
一、唱歌　一月一日（竹内）
一、閉會の辭（大橋）　散策・宴會司會（大橋）

出席者
（同人）（十一名）駒井、川畑、千葉、中澤、前川、髙﨑、清水、根岸、竹内、大橋、角山（連歌のみ出席）
（會員）（二名）佐藤亮策、平山寛司
（計十三名）
◎すべて散策、連歌の會ともに出席（角山を除く）

・**諸聯絡**
劇團昴上演演目の散らし（出席者）

・**消息來信**
福田恆存先生－新潮45、新年號に「某月某日」九頁分の發表あり。

・**今月の論策**
文藝春秋創刊七十周年特別企劃－「常識の立場」（再錄）
二十一世紀を豫言した七の論考
福田恆存「日米安保は幻想である」他

・**會合報告**
天長節參賀、皇居周邊銅像巡り、三百人劇場クリスマスキャロル
日時　十二月二十三日（日）午前八時半－午後四時
參賀　駒井、前川、竹内、佐藤（利）
銅像巡り（大楠公、和氣清麻呂、平田東助、品川彌次郎、大山巌、大村益次郎）
駒井、前川、佐藤（利）、竹内（但し大楠公、和氣清麻呂のみ）
前川、竹内（但し、夜の部）

・**會合催物豫定**
觀劇
劇團昴公演「STEP！ふんだりけったり！」本日配布資料
作　アラン・エイクボーン（出戸一幸譯）
演出　福田逸
一月十六日（木）～二月二日（日）於三百人劇場
◎福田逸氏歸國後第一作目の演目
◎觀劇希望者は日時を大橋迄聯絡せられたし。（一割引にて觀劇可）
二月九日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
内容
（一）木下甫、鐸木俊三兩氏逝去につき默禱

（二）鷗外漱石研究其の一
書物　夏目漱石著「吾輩ハ猫デアル」
報告者（川畑賢一）進行（根岸清文）
（大橋私用の爲、進行係を四月の根岸と交替）
（三）あらたま第三十二號の合評會
（四）平成三年度の活動報告並に收支報告、平成四年度活動豫定表の配布
（五）會報第六十六號の配布並に發送作業
（六）あらたま第三十三號（但し「あらたま欄」を除く）並に會報第六十七號の原稿提出
（七）本年度第二回史蹟散策計畫發表
唱歌　紀元節（高崎正風作詞、伊澤修二作曲）
夕食會

・**新刊案内**
福田恆存翻譯全集第五卷（第一回配本）文藝春秋　七五〇〇
◎注文を募る。翻譯全集第五卷は本年度四月のテキストである。まだ入手の無い者は本日注文の事。何れも一割引。

・**會合催物報告**
劇團昴公演　觀劇者－駒井、竹内、大橋、安齋、副島
三月八日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
内容（一）佐藤亮策、星運吉兩氏逝去につき默禱
（二）第一回幹事會（一時～二時）
（三）鷗外漱石研究其の二
書物　森鷗外著「阿部一族」
報告者（清水明彦）進行（前川孝志）
（四）會報第六十八號の用紙の配布
（五）川越史蹟散策詳細決定
（六）第一回同人費納入通知の配布
唱歌　金剛石（昭憲皇太后御歌、奥好義謹作曲）

・**本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）**
正論四月號「ひと廣場」（意外なユウモアもー。昭和論壇の巨峯『翻譯全集』刊行開始の福田恆存）の寫し（出席者各一）

・**新刊紹介**
福田恆存翻譯全集の配本順
第一回・第五卷（一月）　第二回・第四卷（三月）
第三回・第六卷（五月）　第四回・第一卷（七月）
第五回・第二卷（九月）　第六回・第三卷（十一月）
第七回・第八卷（平成五年一月）　第八回・第七卷（三月）
◎第一回～第三回配本（本年度テキスト）はシェイクスピア篇の、二、一、三である。
四月五日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・内容（一）**福田恆存翻譯全集を讀む其の一**
書物　福田恆存翻譯全集第一回配本分
報告者（竹内孝彦）進行（大橋伊佐男）
唱歌　日の丸の旗（高野辰之作詞、岡野貞一作曲）
五月十日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
（二）鷗外漱石研究其の三
書物　夏目漱石著「草枕」
報告者（中澤伸弘）進行（千葉展正）
（二）天長節奉祝記念式典並に祝賀會の實施計畫の發表並に檢討
（三）別冊あらたま其の七、ふみぐらの編修分擔
唱歌　四条畷（大和田建樹作詞、小山作之助作曲）

・**來信消息**
福田恆存先生
わたしは半病人、毎日半分は寢てゐますといへば體裁がよろしいが、實は十時ころ起きて八時頃床に入ります、起きてゐる閒もやつと息をしてゐるだけ、困つた話です。
（四月四日の葉書）

六月七日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
（一）鷗外漱石研究其の四
書物　森鷗外著「智慧袋」（學術文庫）
報告者（前川孝志）進行（根岸清文）
唱歌　故郷（高野辰之作詞、岡野貞一作曲）
夕食會（「青い花火」を論ふ會）於黑潮

・**會報第六十八號並に會員名簿の刊行に就て（駒井）**
會報－四頁
卷頭（福田翻譯全集第五卷－竹内）
四百五十部
讀書（大橋、高崎、駒井）

・**來信消息**
福田恆存先生（五月二十日來信）
この頃は一切外出せず家に閉ぢこもりきりです。もつとも外へ行けても特にどこといふ當てもないこの頃です。それにしてもこの四、五月の陽氣不順、呆れかへつて腹も立ちません。

・◎三醉人書國悠遊・支點の人福田恆存（月刊アサヒ六月號－上田博和氏の教示に依る・本日の資料（九））
七月十二日（日）午後一時－六時　會場　中臺町會館
（一）鷗外漱石研究其の五

書物　夏目漱石「私の個人主義」（筑摩書房）
報告者　（根岸清文）
唱歌　我は海の子（宮原晃一郎作詞、作曲者不詳）
（二）あらたま第三十三號合評會

・**福田恆存翻譯全集の配本に就て（駒井）**

一月第五巻の配本の後、三月第四巻、五月第六巻と順調に配本が續いてゐる。七月下旬には第四回の配本がなされよう。第二回配本第四巻は九月、第三回配本第六巻は十二月のテキストである。直前になつて未だ入手せずといふ事のないやうに、早めに各自手配を願ひたし。

・**來信消息**

福田恆存先生－巻頭の萬葉の秀歌、時宜に適したものと感銘致しました。今年は四、五、六とよい陽氣のはずの三ヶ月が甚だひどい氣候で夏好きの私には全く閉口、家に引き籠り切りでした。（六月二十二日來信）

・**會合催物報告**

劇團昴公演「ハムレット」
觀劇者－駒井、土屋、竹内、大橋、千葉
九月十三日（日）午後二時－五時（一時より幹事會）
會場　中臺町會館
内容
・（一）**福田恆存翻譯全集を讀む其の二**
書物　福田恆存翻譯全集第四巻（シェイクスピア篇Ⅰ）
報告者　（平田清美）進行（竹内孝彦）
（二）第三回同人費の納入通知の配布
（三）第四回散策の詳細決定
唱歌　橘中佐（作詞者不詳、岡野貞一作曲）

・**會報第六十九號並に別冊其の五の刊行に就て（駒井）**

會報　四頁　四百五十部
卷頭　（福田恆存翻譯全集第四巻・平田）
讀書（大橋、竹内、清水）あらたま第三十三號評其の他。

・**會合催物報告**

劇團昴公演（續）　觀劇者　千葉

・**會合催物豫定**

劇團昴公演（三百人劇場）
アンナ・オン・アンナ　九月十九日（土）～十月三日（土）
セールスマンの死　十月二十一日（水）～十一月八日（日）
◎觀劇希望者は大橋に日時を一報されたし（一割引）
十月十八日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
内容
（一）鷗外漱石研究其の六
書物　森鷗外著「假名遣意見」－（錄音）
報告者　（小川雅照）進行（千葉展正）
（二）ふみぐら第一回記事中間報告
（三）天長節奉祝式典案内狀發送
（四）會報第六十九號の配布並に發送
（五）別冊あらたま其の五「國語の傳統」の配布
（六）會報第七十號の用紙の配布
（七）第三回同人費の納入
（八）箱根大名行列見學の詳細決定
唱歌　大こくさま（石原和三郎作詞、田村虎藏作曲）
夕食會　於黑潮

・**九月例會の概況**

内容
書物　福田恆存翻譯全集第四巻（シェイクスピア篇Ⅰ）
報告者　（平田清美）進行（竹内孝彦）
出席者－駒井、大橋、川畑、前川、清水、根岸、平田（清）、高﨑、角山、竹内（十名）

・**會合催物報告**

劇團昴公演（アンナ・オン・アンナ）觀劇者　大橋
十一月八日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
人物生誕（澁江抽齋・文化三年十一月八日）
内容
（一）研究會
書物　鷗外漱石研究其の七
報告者　森鷗外著「澁江抽齋」（岩波文庫）
（千葉展正）進行（前川孝志）
（二）諸聯絡
（三）中尾昭人氏への寄書回覽
（四）平成四年度天長節奉祝式典諸準備開始
唱歌　明治節（堀澤周安作詞、杉江秀作曲）

・**會合催物報告**

劇團昴公演（アンナ・オン・アンナ）觀劇者（續）駒井

・**平成五年度の研究會の運營に就て（駒井）**

一、平成五年度の研究主題は其の一が明治の作家、其の二が福田恆存翻譯全集を讀む（續）である。
二、福田恆存翻譯全集の分は順次會報に掲載してゐる。全八巻の讀了後は、福田恆存全集の分（十篇）と併せて別冊あらたまとして刊行したい。（平成七年）よつて目次には同人が揃つて名を列ねたい。

・**平成五年度荒魂之會例會並に散策豫定（附・「ふみぐら」編**

平成四年十二月十三日（日）

修日程）

一、年間主題　明治の作家（七回）
第一主題　福田恆存翻譯全集を讀む（續・三回）
第二主題　**劇團昴公演豫定演目**

・**平成五年度劇團昴公演豫定演目**
アルジャーノンに花束を（三月十一日～二十一日）
お氣に召すまま（六月）
チャリング・クロス街八十四番地（九月）
機械仕掛のピアノの爲の未完成の戯曲（十一月）
クリスマス・キャロル（十二月）
◎六月の演目はシェイクスピアの作品である。早目に豫定を立てて、同人擧つて觀劇して貰ひたい。

・**備考**　福田恆存翻譯全集の報告者は會報第七十二號（七月刊）第七十三號（十月刊）、第七十四號（平成六年二月刊）の卷頭の執筆者である。

◇**平成五年**◇・十六
四月四日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
人物生誕・忌日（横川省三、北條時宗）
内容　◎研究會報告者竹内校務の爲、大橋に交替（竹内は、五月に大橋が進行する豫定の「たけくらべ」の進行となる。）
・（一）研究會　**福田恆存翻譯全集を讀む其の四**
書物　福田恆存翻譯全集第一卷・ワイルド篇
報告者（清水明彦）進行（大橋伊佐男）
唱歌　埴生の宿（里見義作詞、ビショップ作曲）
五月十六日　午後二時－五時　會場　中臺町會館
人物忌日（北村透谷）
内容（一）川口久雄氏逝去につき默禱
（二）研究會　明治の作家其の三
書物　樋口一葉著「たけくらべ」（岩波文庫）
報告者（根岸清文）進行（竹内孝彦）
唱歌　荒城の月（土井晩翠作詞、瀧廉太郎作曲）
・（三）**福田恆存翻譯全集完結祝の色紙染筆**

・**諸聯絡**
本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
劇團昴公演「お氣に召すまま」の散らし（出席者）

・**四月例會概況**
日時・會場　四月四日（日）午後二時－五時・中臺町會館
内容（一）研究會　福田恆存翻譯全集を讀む其の四
書物「福田恆存翻譯全集第一卷・ワイルド篇」
報告者（清水明彦）進行（大橋伊佐男）

・**天長節奉祝式典冊子の進呈者一覽**
會員－（計十）
寄贈甲－福田恆存、樋口清之、太田青丘、加地伸行、山口宗之、中河與一（計六）

・**新刊紹介**
自分と戰つた人々　辻村明　高木書房　一七〇〇
◎鈴木貫太郎、小野田寛郎、福田恆存その他の足蹟をたどると内容案内にあり。

・**福田恆存翻譯全集の完結に就て**（駒井）
◎福田恆存翻譯全集は四月二十日附で第八卷の上梓となり、これにてめでたく全八卷の刊行が完結した。第八卷には福田恆存翻譯全集訂正一覽の封入があり、それに依ると、十二月の例會に話題になつたマクベスの「きれいは穢い」は矢張り誤植であり、「きれいは穢い」に訂正せられてゐる。
福田恆存翻譯全集の完結は我々にとつては慶事であるが福田先生にとつては二つの全集も完結し、これにていよいよ生涯の幕引きと御考へになられる事が、十分に豫想せられる。これは我々にとつては重大な事である。恩義に報いるといふ事を常にあらたまの活動の根幹にしてゆきたい。臍を嚙む事のないやうに同人諸君に警告する。福田先生生涯の念頭にあるものは演劇である。翻譯全集第八卷には、平成四年十月二十日執筆で「『新劇』といふものも遂には無くならうとしてゐる日本の現況」と記されてゐる。
時宛も、福田譯シェイクスピアの「お氣に召すまま」が三百人劇場にて上演せられる。福田先生御存命の時に福田譯のシェイクスピアを見ておけばよかつたと後悔する事のなきやう敢へて注意をうながしておく。我々如きものの爲にこれまでに何度足を運んで下さつたのか、篤と考へて貰ひたい。それに對して自分は一體どれだけ報いる事があつたのかも篤と考へて貰ひたい。
◎序に記す。平成三年秋、福田先生邸の鳥退治に鳴子を作つて翌年の秋までに進呈したき話がどうなつたかと思ひ出すものありやなしやと。

六月六日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
人物忌日（井上圓了）
内容（一）皇太子殿下御成婚を奉祝して國歌齊唱
（二）研究會　明治の作家其の五
書物　小泉八雲著「明治日本の面影」（學術文庫）
報告者（川畑賢一）進行（根岸清文）

唱歌　濱邊の歌（林古溪作詞、成田爲三作曲）

・昴「お氣に召すまま」並に第五十回國語問題講演會に就て（駒井）

五月の資料に記載の通り、六月の「お氣に召すまま」（六月四日～二十四日）の觀劇を逸する事のないやうに願ひたし。これは昨年九月に讀んだ翻譯全集第四卷に所收の作品である。目で追つたせりふを實際に耳で聽く絶好の機會である。首都圏に居住の利を是非とも味はつて貰ひたい。

七月四日（日）午後一時－六時　會場　中臺町會館

人物忌日（源義家）

内容（一）古賀俊昭氏當選を祝して寄書を行ふ。

（二）研究會　明治の作家其の五

書物　齋藤綠雨著「綠雨警語」（冨山房百科文庫）

報告者（竹内孝彦）進行（前川孝志）

（三）あらたま三十五號の合評會

（四）會報第七十二號の配布並に發送作業

（五）會報第七十三號の原稿の提出（但し、卷頭は九月に提出）

（六）第二回同人費の納入

唱歌　橘中佐（作詞者未詳、岡野貞一作曲）

夕食會　於黑潮

・會報第七十二號の配布に就て（駒井）

◎會報第七十二號四頁の三團體（昭和天皇崇敬會、三笠保存會、全國地名保存聯盟）案内に注意あれ。會員に案内の前に同人自ら加入してその重要性を認識すべきである。特に地名保存聯盟は十年前に、福田先生から直接の御依頼があつたものである。

・消息來信

福田恆存先生

色紙送呈の禮あり（六月十二日電話）依然として外出もままならぬ御樣子なり。

・會合催物報告

劇團昴公演「お氣に召すまま」觀劇者（六月四日～二十四日）

駒井、川畑、大橋、竹内、前川

九月五日（日）午後二時－六時　會場　中臺町會館

人物生誕・忌日（北條霞亭・最上德内）

内容（一）研究會　福田恆存翻譯全集を讀む其の五

書物　福田恆存翻譯全集第二卷・ロレンス篇Ⅰ

報告者（前川孝志）進行（竹内孝彦）

唱歌　旅愁（犬童球溪作詞・オードエイ作曲）

・消息

駒井鐵平－幕張北高校圖書館に福田恆存翻譯全集全八卷を入れる。昨年の福田恆存全集八卷に續くものである。昨年の三年生の中には、早速に全集中の一册を借り出した者がゐる。國語國字の問題は、何よりも論ではなく實踐である。

・新刊紹介

餘白を語る　福田恆存他　朝日新聞社　一二〇〇

◎先年の朝日新聞のインタヴュウ記事の收載

十月十七日（日）午後二時－六時　會場　中臺町會館

祭禮（神嘗祭）人物忌日（前野良澤）

内容（一）伊勢神宮第六十一回式年遷宮を奉祝して國歌齊唱

（二）研究會　明治の作家其の六

書物　國木田獨歩著「武藏野」（新潮文庫他）

報告者（角山正之）進行（大橋伊佐男）

唱歌　椰子の實（島崎藤村作詞、大中寅二作曲）

・九月例會の概況

九月五日（日）午後二時～五時　中臺町會館

日時・會場

内容　研究會　福田恆存翻譯全集を讀む其の五

書物　福田恆存翻譯全集第二卷・ロレンス篇Ⅰ

報告者（前川孝志）進行（竹内孝彦）

唱歌　旅愁

出席者　駒井、川畑、角山、前川、清水、竹内、根岸、大橋（八名）

・會合催物報告

劇團昴公演「チャリング・クロス街八十四番地」

觀劇者　駒井、大橋

◇平成六年◇・二十一

一月九日（日）午後一時－八時半

祭禮（宵戎）出來事（坂上田村麻呂、膽澤城築城）

人物忌日（湯淺常山）

方面　深川周邊並に清澄庭園涼亭

内容（一）平成六年度第一回史蹟散策（深川方面）

（二）第十八回新年連歌の會（清澄庭園涼亭）

唱歌　一月一日（千家尊福作詞、上眞行作曲）

次第（司會－大橋）

一、同人挨拶（前川）

一、乾杯（平山氏）
一、諸聯絡
一、新年連歌（宗匠・角山、發句・竹内）
一、唱歌　一月一日（指揮・竹内）
出席者（十四名、＊印は連歌の會から參加）
同人（九名）駒井鐵平、川畑賢一、千葉展正、角山正之、前川孝志、＊高崎一郎、根岸清文、大橋伊佐男、竹内孝彦
一般（五名）平山寛司、＊粉川宏、田口義昌、市川靜夫、＊佐藤利幸

・本日の配布物（例會資料以外）
平成六年度例會並に散策豫定表
一、年間主題
第一主題　國書縱覽其の一・詩歌（八回）
第二主題　**福田恆存翻譯全集を讀む**（續・二回）
・四月十日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館
福田恆存翻譯全集を讀む・其の七
書物　第七卷・シェイクスピア篇四
報告者（角山正之）
唱歌　春の小川（高野辰之作詞、岡野良一作曲）
・九月四日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館
福田恆存翻譯全集を讀む・其の八（最終回）
書物　第八卷・戯曲篇
報告者（髙崎一郎）
唱歌　埴生の宿（里見義作詞、ビショップ作曲）
二月六日（日）午後一時～五時　會場　中臺町會館
祭禮・行事（初午）出來事（長崎通詞に佛語學習を命ず）
人物生誕（松浦武四郎）・忌日（小堀遠洲）
内容（一）矢野健太郎、齋藤忠兩氏逝去につき默禱
（二）詩歌研究其の一
書物　古今和歌集（各種刊本）
報告者（前川孝志）進行（竹内孝彦・川畑より交替）

・十二月例會の概況
唱歌　紀元節（高崎正風作詞、伊澤修二作曲）
日時　十二月十二日（日）午後一時～六時　會場　中臺町會館
内容　※默禱（池田隆德、大熊章一、白井傳、木内信胤四氏逝去につき）
研究會　**福田恆存翻譯全集を讀む其の六**
書物　福田恆存翻譯全集第三卷　ロレンス篇Ⅱ
報告者（千葉展正）進行（川畑賢一）
唱歌　天長節（黑川眞賴作詞、奥好義作曲）
出席者　駒井、川畑、千葉、前川、根岸、竹内、角山、大橋（八名）
三月六日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館
内容（一）皇太后陛下の御降誕を奉祝して國歌を齊唱
（二）國書縱覽・詩歌其の二
書物　新古今和歌集　報告者　竹内孝彦
唱歌　螢の光（作詞者不詳、原曲スコットランド民謠）

・平成二年度以降四箇年間に於て幕張北高校の圖書室に備へた書物の内主としてあらたまにゆかりの著作者の例
著作者・册數（註）
福田恆存・十九（二つの全集、私の國語教室、人間この劇的なるもの、餘白を語る3）（計二百九）
・四月十日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館
祭禮・行事（新潟・一の宮喧嘩祭）出來事（今上陛下御成婚・昭和三十四年）人物生誕（香川香樹）・忌日（橘南谿）
内容（一）今上陛下御大婚三十五周年を奉祝して國歌を齊唱
（二）研究會　詩歌研究其の三
書物　梁塵秘抄（新潮日本古典集成）
報告者（川畑賢一）進行（根岸清文）
唱歌　春の小川（高野辰之作詞、岡野良一作曲）

・會合催物案内
三の丸尚藏館第三回展覽會花鳥の美、第十三回主權恢復記念國民大會、劇團昴公演「熱いトタン屋根の上の猫」、第五十二回國語問題講演會
◎右四件、何れも會報第七十五號六頁目に案内を掲載につき參照の事。
五月一日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館
祭禮・行事（平泉・中尊寺春の藤原祭）出來事（日本赤十字創立記念日）人物忌日（橋本宗吉）
内容（一）西川仁之進並に小宮山登兩氏逝去につき默禱
（二）研究會　**福田恆存翻譯全集を讀む其の七**
書物　福田恆存翻譯全集第七卷・シェイクスピア篇四
報告者（角山正之）進行（川畑賢一）
唱歌　櫻井の訣別（落合直文作詞、奥山朝恭作曲）
（三）少年讀本十五周年記念準備分擔
七月三日（日）午後一時～五時　會場　中臺町會館
祭禮（信貴山毘沙門天王祭）出來事（小野妹子を隋へ派遣）

人物生誕（中根雪江）・忌日（尼子勝久）
内容
（一）研究會　詩歌研究其の五
書物「連歌集」（新潮日本古典集成）
報告者（駒井鐵平）
あらたま第三十七號の合評會
（二）唱歌　鎌倉（芳賀矢一作詞、作曲者未詳）

・九月の例會に於る協議事項三件に就て（駒井）

（一）九月の發表（擔當・高崎）で福田恆存翻譯全集全八卷が三年がかりで讀了する。折しも九月二十二日（木）から十月十六日（日）にかけて「リチャード二世」（本邦初演）が劇團昴によつて上演となる。福田先生御存命中の最後の機會となるやも知れず、同人擧つて觀劇したし。例會で度々話題に上つた福田譯のせりふを耳にする絶好の機會である。が、揃つての日時は難しい。よつて贊助員の同伴の場合は一割引になる特典を活す爲に、竹内並に同伴者、大橋並に同伴者、別途觀劇の三度に分けて實現させたい。

・會合催物報告

劇團昴公演「熱いトタン屋根の上の猫」
觀劇者　駒井、大橋

・新刊紹介

劇的なる精神福田恆存　井尻千男　日本教文社　一七〇〇
◎先年のかくしん連載分を纏めたものと思はれる。

九月四日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館
祭禮（福井・氣比神社祭）出來事（日露戰爭で遼陽を占領）
人物生誕（横井也有）・忌日（浦上玉堂）
・内容（一）研究會　**福田恆存翻譯全集を讀む其の八**（最終回）
書物　福田恆存翻譯全集第八卷・戲曲篇
報告者（高崎一郎）進行（前川孝志）
唱歌　埴生の宿（里見義作詞、ビショップ作曲）

・本日の配布資料

リチャード二世の散らし（出席者）

・協議事項三點に就て（駒井）

（一）劇團昴公演「リチャード二世」の觀劇に就て（本日の資料（五））
期閉　九月二十二日（木）～十月十六日（日）
會場　三百人劇場
料金　四千五百圓（但し一割引）
觀劇種別　甲・大橋とその同伴者
九月二十四日（土）五時
同伴者（　）
乙・竹内とその同伴者
十月八日（土）五時
同伴者（　）
丙・別途觀劇者
（駒井、川畑）
◎甲、乙の觀劇の場合、夫々開演の十分前に三百人劇場の入口前に集合し大橋、竹内に料金を渡す。
◎開演期閉中の尚藏館第五回展・繪卷・蒙古來襲繪詞、繪師草紙、北野天神緣起・も是非拜觀して貰ひたい。

十月二日（日）午後二時～五時　會場　御嶽神社
祭禮（福岡・宗像大社例祭）出來事（安政の大地震（安政二年））人物忌日（吉備眞備）
内容（一）研究會　詩歌研究其の六
書物　芭蕉七部集（各種刊本）
報告者（千葉展正）進行（大橋伊佐男・根岸校務の爲交替）
（二）唱歌　村祭（作詞者未詳、南熊衞作曲）

・九月例會の概況

日時　九月四日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館
内容（一）研究會　福田恆存翻譯全集を讀む其の八
書物　福田恆存翻譯全集第八卷「戲曲篇」
報告者（高崎一郎）進行（前川孝志）
（二）唱歌　埴生の宿
出席者　同人・駒井、川畑、角山、千葉、高崎、前川、根岸、大橋、竹内（首都圏在住の同人が全員揃つた）
一般・平田（清）、小川（榮）、江藤

特記事項（一）劇團昴公演「リチャード二世」の觀劇を種別に決定。甲は九月二十四日（土）五時～、乙は十月八日（土）五時～。

・會合催物報告

劇團昴公演「リチャード二世」（上演中）
觀劇者　駒井（生徒二名を同道）、大橋

十一月六日（日）午後一時・五時半　會場　中臺町會館
祭禮（神奈川・秋葉山の火伏祭）出來事（大學令公布・大正七年）
人物忌日（德川光圀）
内容　汪兆銘歿後五十年（十一月十日）に當り日本の友へ

第一部（一時～二時半）研究會　・詩歌研究其の七（錄音）
書　物　和漢朗詠集
報告者（片岡正彦）司會（千葉展正）
唱歌　明治節（堀澤周安作詞、杉江秀作曲）
・第十九回新年連歌の會並に平成七年度散策豫定の提出（大橋）
・平成七年度唱歌一覽の提出（竹内）

・消息來信

福田恆存先生－今般「戰歿者追悼平和祈念館を考へる會」（高池法律事務所内）の贊同者百一名に名を列ねる。御承引の文面には今後の事は村尾次郎氏に一任との文言ありとの由。（高池氏よりの一報）

・會合催物報告

劇團昴公演「リチャード二世」（續）
觀劇者　川畑、竹内

十二月十一日（日）午後一時－八時　會場　中臺町會館

内容

（一）研究會　國書縱覽詩歌其の七
書　物　蕪村集
報告者（根岸清文）進行（髙崎一郎）

（二）**故福田恆存先生を偲ぶ會**

例會の終了後、二つの福田全集を初め故先生の由緣の品を圍んで追悼の會を行つた。次第は、開會の辭、默禱、獻杯、福田先生と荒魂之會、福田先生を偲ぶ唱歌（水師營の會見）、閉式の辭、の順であつた。會の初めに十一月二十一日（月）御通夜、十二月九日（金）告別式參列の報告も行はれた。（平成七年二月刊・會報第七十八號の記事）

・會合催物報告

劇團昴公演「リチャード二世」（續）
觀劇者　千葉、前川、髙崎、市川、小川（榮）、江藤（計十人、同人は十一人中七人）

・平成七年度の活動並に平成八年度以降の年間研究主題に就て

（駒井）

出版　別冊あらたま其の八・福田恆存の世界（四月刊・五百部）

・御案内・別冊あらたま其の八「福田恆存の世界」の刊行に就て

拜啓　荒魂之會では平成七年四月に、別冊あらたま其の八「福田恆存の世界」を刊行すべく鋭意準備中でございました。これは、これまで會報あらたまに掲載いたしました二つの福田恆存全集紹介の記事の再錄を中心に、主として若い人々への讀書案内として企圖したものであります。

ところが御承知のやうに、去る十一月二十日福田恆存氏の長逝といふ悲報に遭遇いたしました。

よつて、想を新たにして、當初豫定の内容に福田恆存氏追悼の記を併せて刊行する事といたしました。

つきましては、福田恆存氏並に氏の多岐に亙る文業に關して、追悼の記の御寄稿を戴きたく茲に御案内を申上げます。

敬具

平成六年十二月十一日（日）

荒魂之會

様

◇平成七年◇・三十九

二月五日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

行事（北海道・札幌雪祭）記念日（大村益次郎像（明治二十六年））

人物生誕（福岡孝弟）・忌日（粟田眞人）

内容

（一）原田種成先生、大沼英太郎氏逝去につき默禱

（二）研究會　物語隨筆研究其の一
書　物　竹取物語（各種刊本）
報告者（前川孝志）進行（髙崎一郎）

（三）あらたま第三十八號合評會　進行（竹内孝彦）

（四）平成六年度の活動報告並に收支報告、平成七年度活動豫定表の配布並に説明

（五）故中河與一先生を偲ぶ會（夕食會）
唱歌　紀元節（高崎正風作詞、伊澤修二作曲）

・十二月例會の概況

日時　平成六年十二月十二日（日）午後一時から
會場　中臺町會館
内容

（一）研究會　國書縱覽詩歌其の七
書　物　蕪村集
報告者（根岸清文）進行（髙崎一郎）

（二）**故福田恆存先生を偲ぶ會**（研究會終了後）
出席者（十二名）
同人（九名）駒井、川畑、角山、千葉、前川、髙崎、根岸、竹内、大橋
一般（三名）平山、小川、齋藤

・特記事項

（六）別冊あらたま・其の八「福田恆存の世界」の發行部數

の變更（五百部）（七）福田先生を偲ぶ會では、掛物、書物、記事の展覽を行ひ、先生御出席の懇談會テエプで先生の御聲を拝聽した。

・**新刊紹介**

カセットテエプ「ハムレット」　新潮社　五〇〇〇

◎福田先生追悼の意を込めて再注文を募る

・**今月の論策**

（福田先生追悼記事・續）

追悼・・再錄福田恆存氏、米紙編輯局長に迫る・正論二月號

追悼・・福田恆存　亀井龍夫・波一月號

追悼・・福田恆存　（弔辭）林健太郎（追悼文）阿川弘之、江藤淳、瀬戸内寂聽、鹽野七生、谷崎昭男、久米明、金聖鎮、陳鵬仁・文學界新春特別號

福田恆存といふ「存在」　西義之・文學界新春特別號

一九七九年の福田恆存　坪内祐三・文學界新春特別號

追悼記事・國民新聞十二月號

福田恆存氏の死を悼む　臼井善隆・月曜評論一月五、十五日號

孤高の人福田恆存先生　土屋道雄・月曜評論一月五、十五日號

追悼記事・波二月號、編輯長から（坂本忠雄・新潮）

・**會合催物報告**

故福田恆存先生告別式（十二月九日（金）の追記事項

祭壇の様子・天皇陛下から御供料が下賜せられてあつた。又、從四位の敍位記がその脇に飾られてあつた。

凡その參列者人數・三百名餘

・**別冊あらたま其の八「福田恆存の世界」の追悼篇に就て（駒井）**

同人以外に二十四名（岡田俊之輔君を追加）に寄稿案内狀を呈上のところ、次の方々より追悼記を頂戴した。（敬稱略）

計十四名

會員　若井勳夫、佐々木秀信、中尾昭人、柿沼光造、高池勝彦、笹目善一郎、日比義也、市川靜夫、佐藤利幸

一般　久保忠夫、粉川宏、滝沢幸助、小川榮太郎、齋藤景

◎別冊其の八の内容の詳細は三月に發表す。

三月五日（日）午後一時・五時　會場　中臺町會館

行事（天滿宮曲水宴）出來事（我が國初の博覽會（明治十一年））人物生誕（川上眉山）・忌日（武田信虎）

内容（一）有光次郎氏逝去につき默禱

（二）研究會　「日本國の研究」討論會

進行（駒井鐵平）錄音筆記（大橋伊佐男）

唱歌　早春賦（吉丸一昌作詞、中田章作曲）

（三）會報第八十號の用紙の配布

（四）第一回同人費の納入の通知（川畑）

夕食會（研究會場にて）

出席者（同人八名、一般五名、計十三名）

同人・駒井鐵平、川畑賢一、角山正之、千葉展正、髙崎一郎、竹内孝彦、根岸清文、大橋伊佐男

一般・高池勝彦、平田清美、齋藤景、市川靜夫、上田博和

・**會報第七十九號並に別冊其の八・福田恆存の世界の刊行に就て（駒井）**

・會報第七十九號　四頁　四百五十部

内容　卷頭（金城和彦氏）讀書（千葉、大橋、駒井）

・別冊あらたま其の八・福田恆存の世界　八十二頁　五百部

内容・二つの福田全集の内容紹介（會報卷頭記事の再錄）

・討論「私の國語教室」をめぐつて（あらたま第十五號掲載の再錄）

・追悼記二十五篇（同人十一、一般十四）

・資料（著書目錄、逝去に關する記事一覽他）

表紙題字　平山寛司氏

執筆者　討論出席者四十一名

印刷費　三十九萬圓程度

刊行費　同人一人一萬圓（四月から十月迄の間に適宜納入）

◎配布並に發送　四月二日（日）の例會

◎本日、表紙の色の決定

・**福田恆存先生逝去に關する記事（續）**

ダーツ百七十號・福田逸氏の挨拶の中で先生の逝去の件が觸れられてゐる。

・弔辭　久米明氏

・追悼記・鈴木由次氏、樋口昌弘氏、石田良吉氏（和歌）

・福田恆存年譜

・十一月二十二日附「天聲人語」の轉載

・「協會ニュース」の中で、事務局長の杉本良三氏が逝去に觸れてゐる。

四月二日（日）午後二時・五時　會場　中臺町會館

祭禮（日光・輪王寺强飯式）出來事（橿原神宮の創建（明治二十三年））人物忌日（一條兼良）

内容

（一）研究會

樋口清之著「日本人の歴史」を讀む其の一
書物　日本人の歴史第一卷自然と日本人（講談社刊）
報告者（大橋伊佐男）進行（竹内孝彦）
唱歌　七里ケ濱の哀歌（三角錫子作詞、米國南部民謡的讃美歌）

・（二）**別冊あらたま其の八「福田恆存の世界」の配布並に發送作業**

・**本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）**

・別冊あらたま其の八・福田恆存の世界（同人五、執筆者一）

◎**回覽・福田先生逝去に關する記事蒐集一覽**

・**別冊あらたま其の八「福田恆存の世界」の進呈並に發送に就て（駒井）**

進呈先（四十五冊）
甲、福田家（三冊）
乙、追悼記執筆者並に本冊に再錄の筆者、討論會出席者（各一冊）
落合欽吾、中尾昭人、萩野貞樹、青木英實、太田稔、平田清美、佐藤哲夫、高池勝彦、中村信一郎、平田光寛、平山寛司、上田博和、土屋秀宇、本間一誠、笹目善一郎、粉川宏、日比義也、若井勲夫、柿沼光造、久保忠夫、佐藤利幸、市川靜夫、齋藤景、小川榮太郎、佐々木秀信、滝沢幸助（二十六）
丙、一般（各一冊）
國會圖書館、乃木神社、國民文化研究會、日本教師會、岩下保、山田惠久、宇野精一、上田三三生、岡田則夫、鈴木由次、寶邊正久、下坂智惠、阿川弘之、村尾次郎、石井勲、小堀桂一郎（十六）

◎同人配布五十五冊を加へ百冊殘り、四百冊が保存用並に頒布用

◎刊行の補記

一、再錄記事の淨書は根岸、逝去に關する記事の取り纏めは竹内が行つた。

二、逝去の記事一覽の作製に當つては福田家より資料の提供を受けた。

・**「福田恆存先生と荒魂之會」の冊子の作製の延期に就て（駒井）**

當初、別冊あらたま其の八と共に四月の完成を企圖したのであるが、この十數年來の例會資料記載の故先生の消息の記事のみでも多量にあり、一貫した方針で冊子として纏めるには檢討すべき點が多々あるものと思はれる。よつて、故先生の一周忌を期して作製するものとしたい。

・**會合催物案内**

◎尚藏館第七回展、劇團昴公演、國語問題講演會計三件、本日配布の會報記事を參照の事

・**福田恆存先生追悼記事（續）**

小川榮太郎君　福田恆存先生御逝去（一粒の麥第八號）
齋藤景君　編輯後記（一粒の麥第八號）
五月七日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館
祭禮（鳥取・名和神社祭）出來事（千島樺太交換條約（明治八年））人物生誕（本居宣長）・忌日（眞田幸村）
内容　（一）研究會　物語隨筆研究其の二
書物　枕册子（各種刊本）
報告者（竹内孝彦）進行（前川孝志）
唱歌　茶摘（作詞作曲者未詳）

・**本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）**

・粉川宏、久保忠夫兩氏の別冊其の八の禮狀讀後感、佐藤利幸氏の別冊其の八の推薦文並に別途論考計五點記載資料（出席者）

・**四月例會の概況**

日時・會場　四月二日（日）午後二時～・中臺町會館
内容　研究會　樋口清之著「日本人の歴史を讀む」第一回
書物「日本人の歴史第一卷・自然と日本人」
報告者（大橋伊佐男）進行（竹内孝彦）
唱歌　七里ケ濱の哀歌
出席者　駒井、千葉、前川、髙﨑、根岸、竹内、大橋、佐藤（利）

（一）駒井より、福田家へ參上し別冊其の八特記事項を贈呈した旨披露あり

・**あらたまの反響**

◇別冊あらたま其の八・福田恆存の世界―禮狀讀後感
下坂智惠氏（電話・別記注文）柿沼光造氏（別記・寄附並に注文）粉川宏氏、久保忠夫氏、小川榮太郎氏、上田博和氏、市川靜夫氏

・**頒布狀況（十七點百三十七册）**

◎別冊其の八頒布總數（五月七日現在）九十二册

・**會報第八十一號（十月刊）の内容に就て（駒井）**

平成五年十月刊の第七十三號に續紙碑を掲載して以降、物故關係者が增えた事により、紙碑其の三を二頁分掲載したい。掲載の方々は第七十三號刊行以後、物故の十四名の内、聲咳に接した七名である。人物並に擔當は次の通り。
大熊章一氏（川畑）白井傳氏（竹内）木内信胤氏（駒井）
小宮山登氏（駒井）福田恆存氏（駒井）中河與一氏（大橋）

・**佐藤利幸氏の「福田恆存の世界」の推薦文に就て（本日の資料・二）（駒井）**

原田種成氏（片岡）

◎七月刊の會報第八十號に掲載し（會員、寄贈甲乙の方々）福田恆存の世界内容案内の裏面に併載（寄贈丙、一般案内）する。

◎六月以降に福田恆存の世界内容案内の配布喧傳は佐藤氏の推薦文を併載した分を適宜用ゐる。

七月二日（日）午後一時～五時　會場　中臺町會館

氣象（半夏生）祭禮（靜岡・源氏あやめ祭）出來事（金閣寺全燒、薩英戰爭勃發）人物生誕（後桃園天皇）・忌日（新田義貞）

内容（一）研究會　物語隨筆研究其の四

書物　宇治拾遺物語（各種刊本）

報告者（川畑賢一）進行（前川孝志）

（二）あらたま第三十九號合評會　進行（竹内孝彦）

唱歌　箱根八里（鳥居忱作詞、瀧廉太郎作曲）

・**本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）**

（六）サンサーラ七月號の福田先生關係の記事（出席者）

・**六月例會概況**

日時・會場　六月四日（日）午後二時～・中臺町會館

内容（一）研究會　物語隨筆研究其の三

書物　更級日記

報告者（根岸清文）進行（大橋伊佐男）

（二）唱歌　我は海の子

出席者　駒井、片岡、小川、川畑、角山、千葉、前川、高崎、根岸、竹内、大橋、伊東（十二名）

特記事項

（六）新刊紹介に於て「日本を思ふ」福田恆存著・文春文庫の紹介を追記

・**例會資料脱落分の追記に就て（大橋）**

（五月例會資料分）

・四月例會概況にある、別冊其の八完成の報告に駒井が福田家に參上した記事に、參上の日（四月一日（土））並に故先生逝去に關する記事蒐集帖の進呈があつた旨を追記

・**頒布狀況（十點六十一册）**

（國語問題講演會（六月二十四日））（八點二十三册）

◎別冊其の八「福田恆存の世界」總頒布數百二十八册（七月二日現在）

・**會合催物報告**

血の婚禮（韓國劇團自由の舞臺、三百人劇場・六月七日～十一日）觀劇者　駒井

カバルケイダース（昂、三百人劇場・六月十五日～七月五日）觀劇者　駒井

・**會報第八十一號（十月刊）あらたま第四十號（十二月刊）の編輯上の留意點に就て（駒井）**

會報第八十一號・物故七氏の紙碑を掲載する企圖は既に承知の通り。其の後福田先生の二遺著の刊行の事あり、よつて一周忌（十一月二十日）前の刊行になる會報第八十一號は、四頁から六頁に增頁をし、福田恆存特輯の讀書欄を設ける。内容は、日本への遺言（千葉）日本を思ふ（前川）カセットテープ・ハムレット（角山）の紹介と最近の福田恆存論並に福田恆存論を含む書物五册の紹介（駒井）といふものである。尚これを以つて故福田先生一周忌記念の荒魂之會の作物としたい。

九月三日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館

祭禮（富山・小涼風の盆）出來事（奥州藤原氏の滅亡）人物生誕（高倉天皇）・忌日（伏見天皇）

内容（一）高橋義孝氏逝去につき默禱

（二）研究會　樋口清之「日本人の歷史」を讀む其の二

書物　日本人の歷史第二卷・食物と日本人

報告者（千葉展正）進行（根岸清文）

唱歌　紅葉（高野辰之作詞、岡野貞一作曲）

・**哀悼**

高橋義孝氏（獨文學者、元横綱審議會委員長）・七月二十一日午前九時五十分、老衰の爲に死去。享年八十二。同胞各位に訴へる其の二に贊同の御意見を御寄せ下さつた。

◎福田恆存、高橋義孝二氏は、府立二中時代の落合欽吾先生の敎へ子である。

・**會合催物案内**

劇團昂公演（三百人劇場）（村田元史、ジョセフ・ハレンディー演出）公演期間・十月二十五日～十一月十二日

・**頒布狀況（二十點三十四册）**

◎別册其の八「福田恆存の世界」總頒布數　百三十八册（九月三日現在）

十月一日（日）午後二時～五時　會場　中臺町會館

祭禮（京都・北野天滿宮瑞饋祭）出來事（東海道新幹線開業（昭和三十九年））人物生誕（伴蒿蹊）・忌日（石田三成）

内容　（一）研究會　物語隨筆研究其の五
書物　方丈記（各種刊本）
報告者（角山正之）進行（大橋伊佐男）
唱歌　旅愁（犬童球渓作詞、オードエイ作曲）

・**會合催物案内**
三の丸尚藏館第九回展、目白學藝院教養講座（宇野精一氏）
劇團昴公演「沈默」、國語問題講演會の四件、本日配布の會報第八十一號掲載記事を參照の事。

・**頒布狀況**
◎別冊其の八總頒布數　百四十三冊（十月一日現在）

・**十一月の例會の内容に就て（別紙本日の資料・四）（駒井）**
◎福田恆存先生一周忌（十一月二十日）の月に當り例會の二部としてカセットテエプ「ハムレット」を聽き、別冊其の八・福田恆存の世界を繙き故先生を偲ぶひとときを過したい。
十一月五日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
祭禮（鹿兒島・彌五郎どん）出來事（制服に洋式を採用（明治五年）人物忌日（大江匡房）
内容　石井欣之助、黒岩一郎兩氏逝去につき默禱（別記）
（二）哀悼欄）
第一部　研究會　物語隨筆研究其の六（午後二時～四時十分）
書物　平家物語（各種刊本）◎錄音
報告者（高崎一郎）進行（前川孝志）
唱歌　明治節（堀澤周安作詞、杉江秀作曲）
・**第二部**　**故福田恆存先生一周忌追悼の會**（四時十分～五時）
次第
一、開會の辭
一、默禱
一、追悼の辭
一、「ハムレット」拜聽
一、故福田恆存先生を偲ぶ＝別冊其の八「福田恆存の世界」をめぐつて
一、閉會の辭
・司會　大橋伊佐男
・追悼の辭　前川孝志

・**會合催物報告**
劇團昴公演「沈默」（目下三百人劇場にて開演中）
觀劇者　駒井

・**頒布狀況（六點二十册）**
◎福田恆存の世界　總頒布數　百四十四册

（十一月五日現在）
十二月十日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
祭禮（東京・納の金比羅）出來事（マレー沖海戰・昭和十六年）人物忌日（工藤兵助）
内容　（一）研究會　物語隨筆研究其の七
書物　徒然草（各種刊本）
報告者（小川榮太郎）進行（川畑賢一）
（黒川眞賴作詞、奥好義作曲）
天長節
唱歌

・**十一月例會の概況**
日時・會場　十一月五日（日）午後二時～五時・中臺町會館
内容　石井欣之助、黒岩一郎兩氏逝去につき默禱
第一部　研究會　物語隨筆研究其の六
書物　平家物語
報告者（高崎一郎）進行（前川孝志）◎錄音
唱歌　明治節
第二部　故福田恆存先生一周忌追悼の會
追悼の辭（前川孝志）司會（大橋伊佐男）
出席者（十二名）
（同人）駒井、川畑、角山、千葉、前川、高崎、根岸、大橋（第二部より）平山、市川、小川（榮）、齋藤

・**落合欽吾先生邸訪問に就て（大橋）**
日時　十月十四日（日）正午～四時
訪問者　駒井、前川、大橋
記事　（一般）当初は、落合先生を御誘ひして紅葉を樂しむドライブを豫定であつた。が、先生より、足の具合が惡く自動車の乘り降りにも苦勞する由を御聞きして、御自宅への御機嫌伺に變更した。
午後二時半頃落合先生邸に到著。奥様と御孫さんが出迎へて下さつた。御一報の通り、歩くのはやはり辛さうな御容子であつたが、御顔の色、語勢等健康で潑剌となさつてゐる。御元氣な御容子に安心する。部屋には福田先生の書が掛けてあり、御二人の絆が改めて偲ばれた。御話の内容は大學の頃から最近の論壇、世相、果ては女性論にまで及び先生の磊落で剛毅な御氣性に感服した。「櫻の頃には、花見に御誘ひします」と申上げそれまで御足を御養生下さることを御願ひして四時頃辭去した。

・**頒布狀況（十一點三十二册）**
◎別冊其の八「福田恆存の世界」總頒布數　百四十九册

◇平成八年◇・十九

一月二十日（土）午後二時半－七時

内容

（一）平成八年度散策（入谷～池之端方面）

（二）第二十回連歌の會（ホテル鷗外荘・「舞姫の間」）

唱歌　一月一日（千家尊福作詞、上眞行作曲）

・**頒布狀況**

別冊其の八「福田恆存の世界」（三冊）

白濱裕氏一冊、安齋爽子氏一冊、小久保全氏一冊

二月四日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

・**新刊紹介**

人と心と言葉　江藤淳　文藝春秋　一八〇〇

◎福田恆存追悼記を含む。

三月三日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・**會合催物案内**

劇團昴公演

セールスマンの死（アーサー・ミラー作）久米明、新村礼子他

會期　四月十日（水）～四月十八日（木）

會場　池袋サンシャイン劇場　料金－五五〇〇、三五〇〇

・**頒布狀況**

◎福田恆存の世界頒布總數…三月三日現在百五十四冊

四月七日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・**哀悼**

落合欽吾先生　贊助會員。英文學者。新潟大學名譽教授。四月三日午前零時半、心不全により逝去。享年九十四。御通夜は四月六日の午後六時から、葬儀・告別式は七日午前十一時から、東福寺むさしの齋場で營まれた。（通夜參列者・駒井、前川）

三月二十日に吐血し入院、以後快方に向ひ四月二日午後一旦退院したが、其の夜容態が惡化、再入院するも翌三日に息を引取られた由。

荒魂之會には、昭和六十一年五月二十五日の第十七回懇談會、昭和六十三年七月三日の福田恆存全集完結記念並に福田恆存先生喜壽の賀　祝賀會の二度御出席下さつた。又、平成七年四月二十二日と同年十月十四日の兩日先生邸へ訪問に參上した。十月の訪問では御元氣で、櫻の咲く頃に又參上し花を見に御供させて戴く御約束もして下さつてゐた。荒魂之會にとつて大切な先生が又御一人亡くなつてしまつた。

五月十九日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・**會合催物報告**

劇團昴「セールスマンの死」　觀劇者　駒井

六月二日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・**頒布狀況（五點十冊）**

別冊あらたま（二點五冊）

其の七（ふみぐら）二冊、其の八（福田恆存の世界）三冊

福田恆存の世界（同日現在）　總頒布數　百五十八冊

七月七日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

・**物故者御遺族への會報第八十四號の呈上に就て（駒井）**

◎落合欽吾、大沼英太郎御兩名の御遺族へは會報第八十三號は送呈濟である。福田恆存先生の場合は嗣子の逸氏に會報は毎號進呈してゐる。今回は奥樣宛の分である。

・**會合催物報告**

劇團昴公演・宮澤賢治「宛名のない手紙」

（三百人劇場・六月二十四日～七月三日）

十月六日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社社務所

・九月例會概況

日時　九月一日（日）午後二時～（一時より幹事會あり）

會場　中臺町會館

・**特記事項**

・劇團昴の福田恆存回顧公演の散らしの配布があつたので、十月に改めての配布はしない。

・十一月の第二部に使用する「平曲」のテエプは根岸と角山とで探す、福田先生の講演並に「世界の中の日の丸君が代」のテエプに就てどこを使ふかは大橋が檢討す。

・**會合催物案内**

・三の丸尚藏館展「舊桂宮家傳來の美術」、日白學藝院論語講座、劇團昴福田恆存回顧公演、國語問題公演會の四件、本日配布の會報第八十五號七頁、八頁に記載の案内を參照の事。

・**劇團昴の福田恆存回顧三公演に就て（駒井）**

・劇團昴の公演に就ては九月配布の三公演の散らし、並に本日配布の會報第八十五號の案内記事を參考にして、三公演の内一つは是非とも各自觀劇をして貰ひたい。福田恆存先生三回忌の十一月の例會に於て、追善の話題となるやう心掛けて貰ひたい。

・**十一月例會の内容に就て（角山）**

九月の例會資料並に本日配布の十一月例會案内にある通り、研究會を第一部とし、第二部に鑑賞會を設け、荒魂之會由

緣の四本の錄音錄畫のテエプの內容を鑑賞する。
○準備分擔は次の通り
テエプの用意
・福田恆存講演第一集、世界の中の日の丸君が代（大橋）
・平曲（前川）
・パール博士（駒井）
機器の操作（根岸、大橋）
十一月七日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
・**本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）**
・光の泉十一月號の井上雅夫氏の文章並に劇團昴の公演に關する朝日新聞の記事（出席者）
・十月例會の概況
日時・會場　十月六日（日）午後二時～・御嶽神社社務所
・**特記事項**
（一）・資料配布の追加（十）三百人劇場福田恆存回顧の本散らし
・**消息來信**
（一般）
劇團昴
十月二十日（日）校正會の日の夜、劇團昴の製作部の荒川氏より駒井宅に電話あり。いよいよ福田恆存回顧三作品の上演となるが「テムペスト」の方ばかり申込が多く、「堅壘奪取」はさつぱり反應が無い。よつて一人でも二人でも聲を掛けて貰へまいかといふ用件である。これには一驚す。本散らしを三十枚取寄せて、首都圏の會員に配布したところであるが、これとは別に働きかけると返答す。よつてその夜直ちに「堅壘奪取」の觀劇の確認が爲されてゐない、角山、伊東、前川、大橋、佐藤、千葉の六人の同人と小川榮太郎氏、更に駒井の近親の者、都合八名に電話にて一報す。福田恆存先生亡き後、あらたまを賴みとして下さる事は有難き極みと言はねばならぬ。が、十月二十日の通知は果して如何なる效果を生ぜしや。
・**會合催物報告**
劇團昴・福田恆存回顧三公演（三百人劇場）
・堅壘奪取（十月二十四日～二十七日）
觀劇者・市川、駒井、千葉、伊東、前川、根岸、大橋、長谷川氏、高池氏、小川（榮）氏、
・テムペスト（十月三十一日～十一月十二日）
觀劇者・駒井、前川、根岸、大橋、竹內、長谷川氏
・明暗（十一月十五日～二十一日）
觀劇者・駒井、根岸、前川、竹內
・**頒布狀況（十六點五十一冊）**
其の八・福田恆存の世界（五冊）
◎福田恆存の世界　總頒布數（同日現在）百六十六冊
十二月十五日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
・**會合催物報告**
劇團昴・福田恆存回顧公演（續）
・テムペスト
觀劇者　角山、小川（榮）氏
・明暗
觀劇者　千葉、小川（榮）氏、齋藤氏、高池氏、長谷川氏

◇平成九年◇二十二
一月十一日（土）午前九時半－午後六時
內容
（一）平成九年度第一回散策（隅田川周邊・淺草から濱離宮）
（二）第二十一回連歌の會（濱離宮・芳梅亭）
（三）唱歌「一月一日」（千家尊福作詞、上眞行作曲）
（四）夕食會（芝彌生會館十二階レストラン）
・平成九年度荒魂之會例會並に散策豫定の配布
・**頒布狀況（十二點十九冊）**
◎福田恆存の世界　頒布總數　百六十七冊
二月二日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
內容
（一）荒魂之會平成八年度活動報告
（二）あらたま第四十二號合評會　進行（大橋伊佐男）
唱歌　紀元節（高崎正風作詞、伊澤修二作曲）
・**荒魂之會の反響（到著順）**
・あらたま第四十二號禮狀讀後感－福田逸氏（計三十三信）
・**新刊紹介**
雜書放蕩記　谷澤永一　新潮社　一五〇〇
◎福田恆存著「作家の態度」が畏敬を以て論ぜられてゐる。
・**頒布狀況（六點二十三冊）**
◎福田恆存の世界頒布總數　百六十八冊
三月二日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
內容
（一）樋口清之先生逝去につき默禱
（二）研究會　續日本國の研究・教育篇の討論
書物　米國教育使節團報告書（講談社學術文庫）
報告者（小川雅照）進行（駒井鐵平）
錄音筆記（大橋伊佐男）◎討論の內容は、十二月刊のあらたま第四十四號に掲載する。

・頒布狀況（三）敷島の道逍遙第一回古今和歌集の選歌
◎別冊あらたま其の八「福田恆存の世界」頒布總數
（五點十二冊・脱落の迫加分は除く）
四月六日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
内容　本日現在　百七十二冊
（一）研究會　日本人の歴史を讀む其の五
書物　日本人の歴史第五卷・醫術と日本人
報告者（角山正之）進行（前川孝志）
（二）唱歌　故樋口清之先生を偲ぶ會
龍月夜（高野辰之作詞、岡野貞一作曲）

・頒布狀況（十七點二十六冊）
◎別冊其の八「福田恆存の世界」頒布總數　百七十五冊
五月十八日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
・本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
・劇團昴十二夜の案内（出席者）
・會合催物案内
劇團昴「十二夜」上演（六月六日〈金〉～二十五日〈水〉）
◎本日の資料（六）參照。各自觀劇を願ひたい。

・頒布狀況（八點三十七冊）
◎別冊其の八「福田恆存の世界」頒布總數　百七十九冊
・訂正：三月例會資料の總數は百七十二冊から百七十三冊に訂正。四月例會資料の總數は百七十五冊から百七十六冊に訂正。
六月一日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
内容（一）田邊宏氏逝去につき默禱
（二）研究會　花鳥風月の日本人其の二
書物　山田孝雄著「櫻史」（講談社學術文庫）
報告者（千葉展正）進行（市川靜夫）
夏は來ぬ（佐佐木信綱作詞、小山作之助作曲）

・會合催物案内
劇團昴「十二夜」上演（六月六日〈金〉～二十五日〈水〉）
七月六日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
内容（一）研究會　花鳥風月の日本人其の三
書物　有岡利幸著「松と日本人」（人文書院）
報告者（大橋伊佐男）進行（根岸清文）
（二）唱歌　あらたま第四十三號合評會　進行（角山）
海ゆかば（大伴家持作詞、信時潔作曲）

・會合催物報告
三百人劇場・十二夜公演（六月六日～二十五日）
觀劇者　駒井、前川、大橋

・頒布狀況（八點十八冊）
◎別冊其の八「福田恆存の世界」頒布總數　百八十三冊
九月七日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
内容
第一部
研究會　日本人の歴史を讀む其の六
書物　日本人の歴史第六卷・裝いと日本人
報告者（駒井鐵平）進行（根岸清文）
第二部
獨立恢復四十五周年記念昭和天皇を偲び奉る會の開催の爲の豫行竝に諸準備の確認
唱歌　金剛石（昭憲皇太后御歌、奥好義作曲）

・七月例會の概況
日時・會場　七月六日（日）午後一時～五時・中臺町會館
出席者（十名）
同人八名　市川、駒井、伊東、佐藤、角山、前川、根岸、大橋
一般二名　小澤泰裕氏（初）、竹内氏
◎小澤氏は伊東との縁で會員となつて下さり、研究會へも足を運んで下さつた。コンピュータソフト關聯の御仕事をなさつてゐる由。福田先生の著書を讀んで、個人で正統表記を十數年續けてゐられる。

・消息來信
小川榮太郎氏　今般、一粒の麥第十號・特輯福田恆存を刊行。
◎福田先生の遺影を表紙に掲げた三百六十八頁の大冊である。卷末の謝辭に荒魂之會編「福田恆存の世界」への言及がある。各自の入手を願ふ。（本日の資料十一）

・頒布狀況（七點二十六冊）
◎別冊其の八「福田恆存の世界」頒布總數　百八十五冊
十月五日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社社務所
内容
（一）研究會　花鳥風月の日本人其の四
書物　上田弘一郎著「竹と日本人」（NHKブックス）
報告者（市川靜夫）進行（前川孝志）
唱歌　大こくさま（石原和三郎作詞、田村虎藏作曲）

・頒布狀況（六點二十八冊）
◎別冊其の八「福田恆存の世界」頒布總數　百八十六冊
十一月十六日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
内容（一）宮井庄一氏逝去につき默禱（別記・哀悼）
（二）研究會　花鳥風月の日本人其の五　◎錄音

書物　保田與重郎著「日本の美術史」（新潮社、講談社）
報告者（小川榮太郎）　進行（千葉展正）
錄音筆記（根岸清文）
（三）拾遺和歌集の選歌
（四）あらたま第四十四號校正會

・**頒布狀況**（二十六點七十二册）
◎別册其の八「福田恆存の世界」頒布總數　百九十册

・**今月の論策**
戰後論壇　この五十人この五十册　呉智英、坪内祐三兩氏の對談
◎福田恆存「一匹と九十九匹と」原田種成「漢字の常識」が取上げられてゐる。諸君十一月號

・**昴觀劇の座談會に就て**（駒井）
平成八年の福田恆存回顧の三作品竝に平成九年の十二夜の四作品の觀劇の座談會を行ひ、平成十年十月刊の會報第九十三號にその内容を掲載したい。即ち、福田恆存先生五回忌追悼の作物である。期日・平成十年三月一日（日）午後十二時半～一時半（研究會の前の時間帶である）
會場　中臺町會館
出席豫定者　本來は同人が總て出席すべきであるが、座談會の内容に鑑み前記の四作品の内、二作品以上觀劇した者で行ひたい。

十二月十四日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
今月の回顧（七人）
神山吉雄氏　昭和六十年十二月二十八日・十三回忌
鐸木俊三氏　平成三年十二月二十日・七回忌
木内信胤氏　平成五年十二月五日・五回忌
矢野健太郎氏　平成五年十二月二十五日・五回忌
中河與一氏　平成六年十二月十二日・四回忌
大沼英太郎氏　平成六年十二月十八日・四回忌
吉澤正晶氏　平成七年十二月二十八日・三回忌
内容（一）今野宏氏逝去につき默禱
（二）研究會　花鳥風月の日本人其の六
書物　上田篤著「日本人とすまい」（岩波新書）
報告者（佐藤利幸）進行（根岸清文）
唱歌　天長節（黑川眞賴作詞、奥好義作曲）

・**（本日の發送）**
◎別途封入物（敬稱略）
・昴觀劇座談會の案内（一名）　鈴木敏男

・**消息來信**
（一般）
福田家－福田恆存全集に未收錄の作品が目下、地球社より刊行の準備を進めてゐるとの由。評論篇、戲曲演劇論篇の二卷分、前者は明平成十年の夏以降となる見込み。これとは別に「日本への遺言」が平成十年春に文春文庫の一册として上梓の豫定。「私の國語教室」が文春文庫で出るといふ企圖は無いとの由。（よつて文藝春秋に文庫化の要請ならぬ要求をする必要があらん）

・**今月の回顧に就て**（駒井）
今月（平成九年十二月）より、あらたま由緣の物故者の尊名を、物故年月、回忌と共に毎月記載し、恩義を忘れぬやうにしたい。但し、默禱は必要としない。

◇**平成十年**◇・二十一
一月十日（土）午前九時－午後七時
内容
（一）平成十年度第一回散策（小石川周邊）
（二）第二十二回連歌の會（六義園・心泉亭）
唱歌「一月一日」（千家尊福作詞、上眞行作曲）
夕食會（巢鴨驛前・うなぎや「みやこ」）

・**頒布狀況**（二十八點四十七册）
◎別册其の八「福田恆存の世界」頒布總數　百九十一册

・**内容**
三月一日（日）午後十二時半－五時　會場　中臺町會館
（一）昴觀劇座談會　午後十二時半～一時半
出席者（別紙座談會資料に記載）進行（駒井鐵平）
（二）研究會　近世の隨筆其の一　午後二時～五時
書物　江戸名所圖繪（ちくま學藝文庫）
報告者（小澤泰裕）進行（前川孝志）
（三）あらたま第四十六號の執筆分擔
唱歌　早春賦（吉丸一昌作詞、中田章作曲）

・**諸聯絡**
本日の配布資料（例會資料以外）
（三）昴觀劇座談會資料（出席者）

・**今月の論策**
◎正論誌は創刊二十五周年記念として「シリーズ日本の思想家＝論」の連載を三月號から始めた。今後の取上げる人物と執筆者との豫定は以下の通り。福田恆存（吉本隆明）他
◎文藝春秋二月號の「文藝春秋七十五年の顔」に掲載せられたあらたま由緣の方々

福田恆存氏他
◎正論二月號に於る長野縣阿智村の齋藤春子氏の『私の國語教室』を手に入れたいとの投書に應へ、二人（甲府の中村一仁氏、姫路の山本昭二氏）から編輯部を通じて同書が齋藤氏に呈上せられた事が正論三月號讀者欄に掲載せられてゐる。

四月五日（日）午前九時半－午後五時　會場　中臺町會館
内容（一）松田福松氏逝去につき默禱
（二）第二回散策（淺草寺竝に墨堤）九時半、日の出棧橋より水上バスで吾妻橋迄～十二時～一時（幹事・根岸淸文）
（三）文化防衛論再論の座談會　二時～五時
進行（駒井鐵平）錄音筆記（大橋伊佐男）
唱歌　四条畷（大和田建樹作詞、小山作之助作曲）

・**三月例會概況**
日時　三月一日（日）午後十二時半～五時
内容（一）劇團昴觀劇座談會
出席者（四名）駒井、前川、根岸、大橋

・**會合催物案内**
劇團昴公演「沈默」
原作・遠藤周作　脚本・スティーブン・ディーツ
翻譯・村田元史、松永永實子
演出・村田元史、ジョセフ・ハンレディ
出演・西本裕行他
期間・六月二十二日（月）～二十八日（日）
會場・三百人劇場（地下鐵千石下車）
入場料　四千七百圓
申込先　現代演劇協會　電話〇三（三九四四）五四五一

・**頒布狀況（二十八點二十八册）**
◎其の八（福田恆存の世界）頒布總數　百九十二册
五月十七日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

・**本年度の活動の一部修正に就て**
（一）本年は福田恆存先生五回忌の年であり荒魂之會としては三月に昴觀劇座談會を行ひその内容は十月刊の會報第九十三號に掲載される事になつてゐる。加へて十月の奈良旅行では福田先生揮毫の歌碑（春日神社境内）も訪れる事になつてゐる。が、荒魂之會としては墓參は未だ行つてゐない。よつて十一月十四日（第二土曜）同人が揃つて大磯の妙大寺の墓前に詣で福田家の都合が宜しければ御燒香にも參上したい。併せて大磯の史蹟散策も行ひたい。

・**新刊紹介**
日本への遺言－福田恆存語錄　文春文庫　四六〇

七月五日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

・**會合催物報告**
三百人劇場・沈默公演（六月二十二日～二十八日）
觀劇者　駒井
十月四日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社社務所

・**諸聯絡**
◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
（五）劇團昴三人姉妹の散らし（出席者）

・**本日の發送（本日の配布資料の内）**
（ロ）三姉妹の散らしの封入（計十七）

・**大磯散策竝に妙大寺墓參に就て（前川）**
第六回散策豫定
散策場所…大磯方面
期日…十一月十四日（土）
集合…甲、午前九時、平川門前集合。尚藏館展拜觀後、大磯へ。
乙、午前十一時半、大磯驛改札口に集合。甲の者と合流す。
昼食をし、散策は二時閒半程度。二時半頃、妙大寺の福田恆存先生の墓に墓參。三時頃、福田家に參上
（但し、先方より承引の返事があつた場合。）
參加者…同人のみとする。

・**會合催物案内**
・**劇團昴「三人姉妹」**
◎本日の資料（五）の散らし竝に會報第九十三號に記載。福田逸氏の新譯である。適宜三百人劇場に足を運んで貰ひたい。福田家弔問の際の土產話にして貰ひたい。
十一月一日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

・**十一月の回顧**
福田恆存氏　（七名）
平成六年十一月二十日　五回忌

・**奈良旅行の概況**
〈散策記〉
平成十年十月二十三日午後八時、山手線有樂町驛改札に先づは伊東、加藤、佐藤利幸、前川、小澤の五人の有志が集結した。次いで角山も合流した。午後十時五十分、東京驛で駒井、根岸、そして贊助會員の佐藤茂氏と合流する。十月二十四日午前六時四十分、京都驛著。近鐵改札前で贊助會員の田口氏と、新同人の橋本と合流する。午前八時五分、大和八木驛で市川と合流、そのまま大福驛

へ向ひ、福田恆存、中河幹子兩家揮毫の萬葉歌碑を見學する。その後また近鐵に乗る。

・**頒布狀況**
個人頒布　一點一冊
別冊あらたま其の八・駒井一冊（頒布總數二百冊）

・**會合催物報告**
・劇團昴「三人姉妹」（十月十六日～十一月三日）
觀劇者　駒井

・**新刊紹介**
私の幸福論　福田恆存　ちくま文庫　六四〇

・**大磯散策並に妙大寺墓參福田家弔問に就て（前川）**
第六回散策豫定
散策場所…大磯方面
期日…十一月十四日（土）
集合…甲、午前九時、平川門前集合。尚藏館展拜觀後、大磯へ。
乙、午前十一時半、大磯驛改札口に集合。甲の者と合流す。
昼食をし、散策は二時間半程度。二時半頃、妙大寺の福田恆存先生の墓に墓參。三時頃、福田家に參上。

十二月十三日（日）午後一時－七時　會場　中臺町會館

・**會合催物報告**
唱歌　天長節
・三百人劇場「三人姉妹」（十月十八日～十一月三日）
觀劇者（續）加藤、前川、小澤

◇**平成十一年**◇・二十一月九日（日）午前九時半－午後七時
内容
（一）平成十一年度第一回散策（市川・柴又）
（二）第二十三回連歌の會（柴又・川甚）
（三）平成十一年度荒魂之會例會並に散策豫定の配布
（四）神宮暦の配布
唱歌「一月一日」（千家尊福作詞、上眞行作曲）

・**頒布狀況（三點十三冊）**
◎別冊あらたま其の八「福田恆存の世界」頒布總數二百六冊

三月七日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

・**昴の「空騒ぎ」の觀劇に就て（駒井）**
・本年度の劇團昴のシェイクスピア劇の上演は「空騒ぎ」である。期間は六月十一日（金）から六月三十日（水）迄である。よつて、六月十二日（土）の晝の部を同人が揃つて觀劇したいが如何。晝の部は市川兄の參加を考慮し、日取りはこの頃は例年三百人劇場の近くの白山神社の紫陽花が見頃である事による。終演後、白山神社に詣で、その後、白山近邊で夕食をし、夕食後解散としたい。
・參加申込みは四月四日（日）の例會の日、但し、五月二日の野田方面散策の日迄にて可。料金は六月六日（日）の例會の日に納入する。
・開演終演の時刻、料金等の詳細は後日發表する。申込み、並に料金の納入は根岸宛の事。劇團への一括豫約は、割引を受ける都合上駒井が行ふ。
・六月十二日に參加が出來ぬ場合は期間内の何れかの日に各自で觀劇して貰ひたい。

四月四日（日）午後二時－七時　會場　中臺町會館
内容
（一）研究會　樋口清之「日本人の歴史」を讀む其の九
書物　日本人の歴史第九卷・笑と日本人
報告者（佐藤利幸）進行（前川孝志）
（二）合本愛誦詩歌文章撰大八洲の完成の祝宴　進行（根岸）
唱歌　故郷（高野辰之作詞、岡野貞一作曲）

・**大八洲並に會報第九十五號の配布並に發送に就て（駒井）**
合本愛誦詩歌文章撰大八洲　同人各十冊
・送呈者　計三十三件、三十四冊（敬稱略）
物故諸先生遺族－福田敦江他（五）

・**會合催物案内**
演劇公演、劇團「THE・ガジラ」演目、福田恆存脚本「龍を撫でた男」
四月三日～四月二十二日　問合先、世田谷パブリックシアター　〇三（五四三二）一五二六
五月十六日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

・**諸聯絡**
◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
劇團昴「空騒ぎ」の案内（出席者）

・**頒布狀況（九點百二十九冊）**
別冊あらたま其の八　二冊（頒布總數二百十冊）

・**會合催物報告**
福田恆存作「龍を撫でた男」（演劇企劃集團THE・ガジラ）
四月二十日（火）　觀劇者　前川

・「空騒ぎ」の觀劇豫定に就て（根岸）
（本日の資料（二））
日時　六月十二日（土）午後三時～
午後一時半　平川門前
集合　四千七百圓（但し、割引で四千二百圓）
料金
觀劇申込者　加藤、駒井、小澤、前川（四名）
◎御即位十年記念特別展・第二回展を拜觀し、三百人劇場に向ひたい。

六月六日（日）午後二時－七時　會場　中臺町會館
・あらたま第四十七號の配布並に發送に就て（駒井）
「空騒ぎ」の散らしの封入（十二）
・「空騒ぎ」の觀劇に就て（根岸）
日時　六月十二日（土）午後三時～
午後一時半　平川門前
集合
料金　四千七百圓（但し、割引で四千二百圓。本日、駒井に納入。）
觀劇申込者　加藤、駒井、小澤、前川（四名）
◎御即位十年記念特別展・第二回展を拜觀、三百人劇場にて觀劇、白山神社參拜、夕食後解散

七月四日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
・「空騒ぎ」の觀劇並に尚藏館展拜觀記（抄）
六月十二日（土）午後一時半、皇居平川門に駒井と小澤、加藤夫妻が時間通りに集合。前川は生徒が柔道大會で勝ち進んでゐるらしく姿を見せない。四人は豫定通り平川門から皇居に入る。皇居の菖蒲が美しい。尚藏館は御即位十年記念特別展・第二回展。花園天皇の「誡太子書」など必見の文物ばかり。得した氣分で大手門を出、地下鐵で千石の三百人劇場に向かふ。劇場では無事に前川と合流、「空騒ぎ」を觀劇する。（參加者五名）
・頒布狀況（九點百二十九册）
別册あらたま其の八（一點一册）（頒布總數二百十一册）
・平成十二年度の新年連歌の會の會場に就て（駒井）
本年度の年閒豫定の備考十二に、明平成十二年度の連歌の會の會場は百花園を豫定の處、福田先生七回忌に因み、大磯の鴫立庵で行ひたい旨を記してある。が、當初の豫定通り會場は百花園にし鴫立庵は後日の機會にしたい。事情は次の通り。
劇團昴の演目は、昨年十一月のチェーホフの「三人姉妹」本年六月のシェイクスピアの「空騒ぎ」そして十一月の「ワーニャ伯父さん」と續く。チェーホフの二作は福田逸氏の譯である。又、本年四月に「龍を撫でた男」の上演があり、これは他の劇團であるが、福田先生の出世作として知られる。幸ひにこれは前川が觀劇してゐる。よつて、以上の四作品の觀劇談を會報に掲載する事で七回忌の供養としては如何かといふものである。座談會は明年三月に實施し、その內容は十月刊の會報に掲載する。

九月五日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館
・頒布狀況（二十四點五十六册）
別册あらたま其の八（一點一册）（頒布總數二百十四册）
長田泰治氏
十月三日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社社務所
內容
（一）國歌齊唱（地久節奉祝）
（二）研究會　近代の名著を讀む・其の四
書物　竹越與三郎「二千五百年史」（上下）（講談社學術文庫）
報告者（小澤泰裕）進行（伊東康夫）
錄音筆記（小澤泰裕）
（三）唱歌
大八洲朗唱
燈臺守

・本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
（三）劇團昴「ワーニャ伯父さん」の案內（出席者）
・會合催物案內
劇團昴公演「ワーニャ伯父さん」（本日の資料（三）參照）
・頒布狀況（六點九十四册）
別册あらたま其の八　二册（頒布總數二百十六册）
十一月七日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
・十一月の回顧（七名）
福田恆存氏　平成六年十一月二十日　六回忌
・會合催物報告
劇團昴「ワーニャ伯父さん」（十月十五日～十一月三日）
觀劇者　駒井、小澤、前川
十二月十二日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
內容
（一）國歌齊唱
（二）研究會　近代の名著を讀む其の六
書物　桑原隲藏「東洋文明史論」（東洋文庫、岩波書店版、全集第二卷所收）
報告者（根岸淸文）進行（小澤泰裕）
（三）大八洲の朗唱

唱歌　天長節

・**頒布狀況（十二點四十六册）**

別册あらたま其の八　中村一仁氏　一册（頒布總數二百十七册）

◎中村一仁氏の注文は合計六點六册。福田恆存先生の奥様の御紹介である。

◇平成十二年◇・十八

二月六日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

内容　（一）筧泰彦氏逝去につき默禱

（二）荒魂之會平成十一年度活動報告

（三）あらたま第四十八號合評會　進行（角山）

（四）平成十二年新年歌會始の御儀のビデオ鑑賞

唱歌　紀元節

・**頒布狀況**

別册あらたま其の八　小林義典氏　一册（頒布總數二百十九册）

三月十二日（日）午後十二時半－五時　會場　御嶽神社社務所

・**内容**　（一）**昴觀劇座談會**　進行（駒井）錄音筆記（根岸）

（二）「東西の思想闘爭」報告並に錄音筆記（前川）進行（角山）

唱歌　鐵道唱歌　一、新橋より九、鎌倉迄

四月九日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・**頒布狀況**

別册あらたま其の八　小澤達夫氏一册（頒布總數二百二十册）

五月十四日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

内容　（一）兩陛下の歐洲行幸啓を御見送り奉りて國歌齊唱

（二）豐饒の海第一卷・春の雪

報告者（市川靜夫）進行（小澤泰裕）

（三）あらたま第四十九號校正會

（四）新古今和歌集選歌

唱歌　鐵道唱歌

二十「美保の松原」から二十九「二川」迄

・**諸聯絡**

◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）

（三）劇團昴「罪と罰」の散し（出席者）

・**消息來信**

（一般）

福田家－福田恆存全集の補遺として、今秋七回忌を期して地球社より評論篇戯曲篇二卷の上梓の由（この件、新會員の中村一仁氏の一報である。）

・**會合催物案内**

劇團昴公演「罪と罰」（本日の資料（三））

六月十六日（金）～七月五日（水）

會場　三百人劇場　電話　〇三（三九四四）五四五一

◎ドフトエフスキーの原作を福田恆存先生が脚色したものである。四月の會報にも記載してあるが、都合をつけて一人でも多く觀劇して貰ひたい。

六月四日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・兩陛下歐洲還幸啓を奉祝して國歌齊唱

・**あらたま第四十九號の配布並に發送に就て（駒井）**

・各種封入物

「罪と罰」の散らし（計十二）

・**會合催物案内**

劇團昴公演「罪と罰」

六月十六日（金）～七月五日（水）

會場　三百人劇場

電話　〇三（三九四四）五四五一

七月二日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

皇太后陛下奉悼の拜禮式（御寫眞を前に）　司會　根岸

一、默禱

二、御歌の奉詠（角山）

新年鷄　昭和二十八年

みまつりにいでます君を見おくりて曉つぐるとりがねをきく

註・唱歌は中止する。今回中止の鐵道唱歌は九月以降の例會で調整する。

内容　（一）豐饒の海再讀・其の三

書物　三島由紀夫「豐饒の海第三卷・曉の寺」（新潮社）

報告者（伊東康夫）進行（前川孝志）

（二）あらたま第四十九號合評會　進行（角山正之）

（三）荒魂之會平成十二年度上半期活動報告（別途資料の説明）

・**會合催物報告**

劇團昴公演「罪と罰」三百人劇場

六月十六日～七月五日

觀劇者　加藤、駒井、小澤

九月三日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

内容

（一）奥野高廣氏逝去につき默禱
（二）豐饒の海再讀・其の四
書物　三島由紀夫「豐饒の海第四卷・天人五衰」
報告者（佐藤利幸）進行（小澤泰裕）
鐵道唱歌　東海道篇　四十節から五十三節迄

・**會報第百一號の刊行に就て（駒井）**
・六頁　四百五十部
・春夏秋冬欄（人物講話の紹介・上田三三生氏）
・昴觀劇座談會（四頁分）
◎十月一日（日）の例會に於て配布

・**會合催物報告**
劇團昴公演「罪と罰」（續）　觀劇者　前川
十月一日（日）午後二時－五時　會場　御嶽神社社務所

・**諸聯絡**
◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
・怒りの葡萄の案内（九月末配布分）（出席者）

・**會報第百一號の配布並に發送に就て（駒井）**
・會報第百一號　六頁　四百五十部（同人七、會員一）
・本日の發送（本日の配布資料の内）
會員（一）（二）計二
寄贈甲（甲）並に若干の乙、（一）計一
◎上田三三生氏（春夏秋冬欄執筆）福田逸氏（昴觀劇座談會に關して）に各五部

・**會合催物案内**
劇團昴公演「怒りの葡萄」
期間　十月十七日（火）～十一月八日（水）
會場　三百人劇場
十一月五日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

・**十一月の回顧**
福田恆存氏　平成六年十一月二十日　七回忌
内容（一）「日本人の歴史」を讀む其の十二（完了）
書物　日本人の歴史第十二卷「惡と日本人」
報告者（小澤泰裕）進行（根岸清文）
（二）新勅撰和歌集の選歌
（三）あらたま第五十號の校正

・**あらたまの反響**
・あらたま第四十九號（六月刊）
禮狀讀後感
福田敦江刀自、福田逸氏（座談會記事への禮・『から騒ぎ』。仰しやる通りです。情けないことに（！）、あの『から騒ぎ』がシェイクスピアがこんなに分かりやすくて面白いとは、といふことで地方の旅に賣れかけたことです、とあり。）

・**會合催物報告**
劇團昴公演「怒りの葡萄」三百人劇場
十月十七日（火）～十一月八日（水）
觀劇者　駒井
十二月十日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
内容（一）豐饒の海再讀其の六
書物　三島由紀夫「小説とは何か」（新潮社）
報告者（加藤征司）進行（前川孝志）

・**會合催物報告**
劇團昴「怒りの葡萄」（續）　觀劇者　前川、小澤

◇**平成十三年**◇・四
四月一日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・**會合催物報告**
劇團昴の公演「キティ颱風」（福田恆存作）
三月二日（金）～四日（日）三百人劇場
觀劇者　駒井、前川、小澤
◎劇團昴演劇學校の專攻科二年生による公演である。二月十日、靜岡散策の際に適宜、案内の散らしを配布す。
七月一日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館

・**今月の論策**
諸君！七月號
「高校生以上から大學生、ビジネスマンに向けて、日本の近・現代を考える上で有用な良書を五點以内で擧げる」といふアンケートである。
この中で、福井縣立大學教授島田洋一氏はその第一に『福田恆存全集』全八卷（文藝春秋）を擧げてゐる。その紹介文は次の如し。「日本の近現代精神史をめぐる本質論が、冴えた文章で展開される。たとえば、『戰爭責任といふこと』（第四卷所收）、『軍の獨走について』（第五卷）、『アメリカを孤立させるな』（第六卷）など」

・**十一月の回顧**
十一月十八日（日）午後一時－五時　會場　中臺町會館
福田恆存氏　平成六年十一月二十日　八回忌

・**あらたま刊行二十五周年記念懇親會の概略（前川）**
當日の概要
日時　十月二十七日（土）午前十一時～午後二時

會場　芝彌生會館（ふじの間）　出席者合計二十四名
會の後の大磯福田家墓參は、小澤、加藤、片岡、角山、前川、駒井の六名。十月二十九日（月）に福田敦江様宛に二十五周年の會配布資料の一式と同人の色紙、イノダコーヒの三點を宅配にて送呈した。
事後處理
・岡村、橋本、三瀦氏、福田家宛に集合寫眞に名前を記載したものを送る。

◇平成十四年◇・六五月十二日（日）正午－午後五時　會場　中臺町會館
・**大磯西行祭參列並に福田、落合兩家弔問に就て（抄）**
日時　三月三十一日（日）午前十時半～午後八時半
參加者　駒井、加藤、角山
十時半、大磯驛集合。驛前には「西行祭會場」の案内板も立つてゐる。ほどなく鴫立庵に到著。庭内に入ると二百名を越えると思はれる參加者で埋まつてゐる。
妙大寺の福田恆存先生の墓に墓參の後、二時過ぎ福田家弔問。一時間半程、福田先生の思ひ出話を敦江刀自に語つて頂く。加藤が持參した『私の國語教室』に「加藤征司様亡夫恆存に代りて　福田敦江」と認めて頂き、加藤はいたく感激する。この書は先月文春文庫より再版されたもので、一萬二千部發行されたが、既に第二版の豫定があるとの刀自の御話に再度一同感激。廣く宣傳せねばと思ふ。
福田家を辭し、大磯より川崎驛へ。ここで所用のある加藤と別れ、南部線に乘換へ、國分寺へと向ふ。國分寺驛より西武線で一驛の一橋學園驛にて下車。七時過ぎ多少迷ひながらも無事落合家に到著する。子息夏樹氏と奥様が鄭重に御迎へ下さる。我々を出迎へる爲、床の間に一幅の書が。福田恆存先生の書で、先般の奈良旅行で拜觀した歌碑と同じ（春日神社）もので、それは見事な書であつた。其の他二幅も拜見させて頂いた。一時間半程、落合欽吾先生の思ひ出話を伺つた。（角山記）

・**書籍の注文**（四月分）
私の國語教室・二冊
九月一日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・**あらたまの反響**
あらたま第五十三號禮狀讀後感－古谷進氏（私の國語教室の刊行、大變嬉しく、思はず萬歳を叫びました、とあり。）

十一月十七日（日）正午－五時　會場　中臺町會館

・**十一月の回顧**
福田恆存氏　平成六年十一月二十日　九回忌

・**福田恆存記念會に就て（抄）（駒井）**
・十二月十三日（金）夜、三百人劇場に於て生誕九十年福田恆存記念會が行はれる（本日の資料（五）參照）。これは十月中旬に、立川市の金子光彦（昭和三十二年生、出光興産勤務）といふ方からの協力要請に應じるものである。金子氏は今回の記念會の開催に當り、文藝春秋社の寺田英視氏に相談の處、寺田氏（福田恆存全集擔當の編輯者、文學界編輯長を經て現在、出版部長の筈である。荒魂之會主宰の福田恆存全集完結記念會に出席あり）より、荒魂之會に事前に話をするやうにとの話があつたとの由で、企劃書並に散らしを同封の上での書信である。尚、金子氏は寺田氏の紹介の以前に「小林秀雄氏を特集した『あらたま』を入手し、拜讀してゐました」との由である。金子氏の四枚の書信並に企劃書、散らしの表記は何れも正統表記である。よつて、直ちにあらたま第五十二號第五十三號を添へて協力に應ずる旨の返信を出してゐる。十二月十三日には首都圏の同人は擧つて出席したい。
・金子氏の書信にある福田恆存を考へる會の「生誕九十年福田恆存記念會」の開催の事前の企圖書の提示とはどういふ事か。福田恆存の讀者は、全國各地に散在してゐると思はれる。が、一讀者である事に止まらず、福田恆存を公の場で論ずる場合、荒魂之會の存在を無視する事は、下世話に言へば「もぐり」であるといふ事を意味する。此處に荒魂之會への評價がある。諸般の事情で活動に困難が生じつつあるが、意を新たにして乘切つてゆきたい。

十二月十五日（日）正午－五時　會場　中臺町會館

平林孝氏逝去につき默禱

・**消息來信**
哀悼　平林孝氏（佐倉市在住・元中央公論編輯長）
平成十四年十一月九日逝去、享年五十九。昭和五十五年から五十六年にかけて、駒井が二度、川畑が一度、國語問題に關する論考を中央公論に掲載の際の編輯擔當であつた。其の後、編輯長を經て、出版部の新書擔當に移る。昭和五十六年二月八日（日）、山の上ホテルに於けるあらたま第十號合評並に懇親の會に出席して下さつた。福田恆存先生の擔當でもあつた。平林氏との御縁は松原正氏が駒井の論考を平林氏に紹介して下さつた事が發端

である。

◇**平成十五年**◇・二十一月十二日（日）午前九時－午後七時

内容（一）平成十五年第一回散策（皇居東御苑、出光美術館、上野方面）

（二）第二十七回連歌の會（日暮里・笹の雪）

唱歌　一月一日

連歌の會・次第

一、同人挨拶（前川）

一、諸聯絡

一、平成十五年奉祝連歌（宗匠・角山　發句・岡村）

司會（根岸）

・**頒布狀況**（**八點二十一册**）

（福田恆存記念會・十二月十三日）八點十九册

二月二日（日）正午－五時　會場　中臺町會館

内容

（一）平成十五年宮中歌會始御儀錄畫拜見（錄畫準備・根岸）

（二）荒魂之會平成十四年度活動報告（別途資料）

（三）あらたま第五十四號合評會　進行（角山）

（四）萬葉集輪讀　其の三の一　進行（根岸）

唱歌　紀元節

第二部　故三潴信吾先生を偲ぶ會

・**會合催物報告**

福田恆存生誕九十年記念會

十二月十三日（金）午後六時半～九時　三百人劇場

第一部　テレビ東京「人に歴史あり」を上映

第二部　福田逸「父を語る」

第三部　シンポジウム　出席者　井尻千男、坪内祐三、富岡幸一郎、土井義士　司会　金子光彦

◎第二部・福田逸氏による「父を語る」は雑誌「諸君」三月號に掲載豫定。

出席者　同人（五名）駒井、加藤、伊東、角山、小澤

・三百人劇場（改装により椅子の數は三百を缺く）は滿席であり、補助椅子が出た。

・記念會では福田先生のテレビ出演の再錄、御子息の逸氏の講演等を興味深く拜見した。

◎福田恆存を眞當に論ずるのは荒魂之會以外にないと思はれる。よつて、平成十八年の十三回忌の年には福田恆存を偲ぶ會を我々の手で行ふべきであると覺悟を決めなければならないと思はれる。

三月九日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・**今月の論策**

「諸君」四月號

・父　福田恆存について（明治大學教授・現代演劇協會理事長）　福田逸

◎進歩的文化人を洒落のめした父も、家では惡戯好きでユーモア感覺溢れる遊び人だつた。

・**千葉市中央圖書館への寄贈に就て**（**抄**）（**駒井**）

平成十四年八月、新聞その他の調査の爲に開設二年目の圖書館を訪れたところ、全集がよく揃へてあるのに氣づく。歐外、漱石、露伴、寅彦、折口、小林、福田、川端、三島、諸家のものがある。些か感心して司書の鈴木女史と話をなす。文藝雜誌の蒐集が少い。同人誌も見當らぬが蒐集はせぬのか、と問ふと、新設の爲、未だ未だ資料は欲しい。若し寄贈してくれるなら大助りである、との返答である。よつて、十二月刊のあらたま第五十四號の刊行の機が宜しからん、と思ひつつ歸る。年が明けて、一月某日、あらたま第五十三號、第五十四號二册を平成十四年度の刊行分として、別途刊行物として少年讀本第五輯言葉盡し、ふみぐら、大八洲の三册を加へて計五册を持込んだところ、二十五年も續いてゐるのですか、と鈴木女史は大變興味を持つて下さる。何處にどういふ者が居るやも知れず、そこで福田恆存先生の御名前に登場願ふ事にした。言葉盡しの奥附にある「題字・福田恆存」を示して、ここにもある福田全集（翻譯全集も置いてある）の著者が書いて下さつた。我々の活動はかういふ評價を受けてゐる、と言ふと更に興味を示す。そこで、失禮乍ら「御子さんは」と問ふと、二人ゐて上は浪人中、下は中學生、との由。よつて、大八洲を別途、鈴木女史に進呈する。下の子（男女の別は失念）は學校では色々、諳記をするのが好きである、といふので、大八洲こそそれに相應しいと取出したのである。ここで在庫一覽を示して既刊號の在庫があるが如何か、と話を切出すと、特輯題目をざつと眺めて、面白さうな内容が多い。在庫があるなら全部貰ひたいといふ話になつた。これは些か驚いた。（これまでの各地の圖書館への送呈で既刊號の請求を受けたのは國會圖書館以外にはなかつた筈である。）

五月十日（日）正午－五時　會場　中臺町會館

・**四月の例會の概況**

特記事項

（五）福田恆存を語る夕の同人通知を配布す。
六月八日（日）正午－五時　會場　中臺町會館

・**諸聯絡**

◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
（四）あらたま第五十六號諸家回答（甲）並に福田恆存を語る夕の案内（乙）同人
（六）三百人劇場のマクベスの散らし（同人）

・**會合催物報告**

劇團昴創立四十周年福田恆存作品企畫
龍を撫でた男（五月三日）　觀劇者　加藤
河童　觀劇者　駒井、小澤

◎右の二作品は三百人劇場の稽古場で行はれたリーディングと稱する朗讀劇である。

・**會合催物案内**

劇團昴「マクベス」公演（本日の資料（六））

・**七月の第一回福田恆存を語る夕の開催に就て（本日の資料・四の乙）（駒井）**

話題は福田恆存全集第一卷である。全集の持參は任意であるが、荒魂之會刊の「福田恆存の世界」は毎回持參して貰ひたい。・第一回の亭主は加藤である。夕食は四月の關先生を偲ぶ會に倣つて釜飯弁當を取寄せる。賄方は根岸である。
七月六日（日）第一部　正午－五時　第二部　午後五時－七時
會場　中臺町會館
内容
第一部　正午～午後五時
（一）荒魂之會平成十五年度前半の活動報告（別途資料）
（二）あらたま第五十五號合評會　進行（角山）
（三）萬葉集輪讀　其の三の五　進行（根岸）
唱歌　鐵道唱歌第二集　三十六番～四十八番
第二部　午後五時～七時
（一）第一回福田恆存を語る夕（亭主・加藤）

・**會合催物案内**

劇團昴「マクベス」公演
◎六月に案内散らしを配布濟。
九月七日（日）午後二時－五時　會場　中臺町會館

・**第三回散策（八月・仙臺松島）の概況（抄）**

日時　平成十五年八月二十三日（土）～二十四日（日）
概要　第一日（二十三日）
畫　松島周邊散策
夜　第二十二回あらたま懇談會（久保忠夫先生を圍んで）
第二日（二十四日）　仙臺周邊散策及び大沼家訪問
○兩日とも貸自動車にて散策地を巡る。
參加者（六名）〈同人〉駒井、角山、加藤、小澤、前川
〈會員〉田口義昌氏

第一日
多賀城蹟著が畫近くなつたので、腹も減つて來たし、ざつと見て鹽竈に向はむとしたが、さうは問屋が卸さなかつた。政廳蹟の、その廣いこと、廣いこと、登りも下りも一苦労である。しかし政廳蹟からの眺めは素晴らしく、登つた甲斐がありました。その晩の久保先生の御話で分かつたことですが、福田先生と久保先生は、昭和五十二年一月二十七日、雪をかきわけてこの丘に登られたさうです。
榴ケ岡公園を左手に眺めて宿に急ぐ。到著は五時半であつた。
懇談會の部屋は中々良い雰圍氣の和室である。
午後七時少し前に久保先生御到著。早速懇談會を催す。
冒頭、久保先生より、御祝儀、福田先生の御講演錄（新潮カセット三卷）、山田孝雄先生の御著書『國語と國民性』、資料一葉を頂く。千葉產の梨は大層甘くて、美味しく頂いた旨の御禮の御言葉を頂いた。駒井より御禮を申上げる。
久保先生の御話は多岐に恆り、洵に興味津々たるものがありました。「あらたまの皆さんだから話します」とて伺つた福田先生の思ひ出話は得難いものでした。
全集未收載の講演錄、座談會錄、劇團昴所載の御文章など、是非まとめて出版されることを希望するとも仰しやいました。
福田先生の思ひ出話もさうですが、先生の御話は常に具體的で、誰が、いつ、どこでといふことが（遠い昔のことでも）はつきりしてゐて、その記憶力の凄さに驚かされます。
午後九時、名殘の盡きぬ中、荒城の月を歌ひ記念寫眞を撮つて閉會しました。
福田先生は私（久保先生）に次の三つのことを紹介して下さつた。
一、雜誌「新潮」への執筆
二、あらたまのこと
三、地名保存聯盟のこと

・**會合催物報告**

劇團昴「マクベス」（七月八日～十日）　觀劇者　駒井
十月五日（日）午後一時－五時　會場　道入庵
内容
（一）國歌齊唱（地久節奉祝）
（二）研究會　國史の中の女性其の五

書　物　柳田國男「こども風土記・母の手毬歌」（岩波文庫）

報告並に錄音筆記（加藤）進行（角山）

◎錄音筆記の提出は十二月十四日（日）、内容は平成十六年六月刊のあらたま第五十七號に掲載する。

（三）萬葉集輪讀　其の三の八　進行（根岸）

唱歌　鐵道唱歌　第二集　五十八番～六十八番

（四）**久保忠夫氏より受贈の福田恆存講演錄**（三點一組）の抽籤を行ふ。

・**第二部　第一回福田恆存を語る夕**（亭主・小澤、會場・黒潮）

・**消息來信**

久保忠夫氏‐天守臺では晩翠詩碑とともに藤村の詩碑もご覽下さつた由、それで藤晩時代と一時代を劃した兩詩人もさぞよろこんでをられるでせう。竹駒神社へはわたしは燒ける前しか行つた事がありません。福田恆存先生とお詣りしたとき、先生はカメラをもつてをられて、參道の敷石をとつてをられたのが印象に殘つてをります、とあり。

十一月十六日（日）正午‐五時　會場　中臺町會館

・**十一月の回顧**

福田恆存氏　平成六年十一月二十日　十回忌

内容

（一）白井浩司、石井勳兩先生の逝去につき默禱

・**諸聯絡**

◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）

・產經新聞九月十五日、十七日、十八日、十九日附「よりよい國語を求めて」（保守派の論客として知られた福田恆存他）

・**新刊紹介**

旧かなを楽しむ　萩野貞樹　リヨン社　一八〇〇

◎「私の國語教室」を別とすれば、最近の日本語本流行のいよいよ眞打登場と思はれる。正統表記である。

十二月十四日（日）正午‐五時　會場　中臺町會館

内容

第一部　研究會　國史の中の女性其の七

書　物　篠田鑛造「幕末明治女百話（上下）」（岩波文庫）

報告者（市川靜夫）進行（加藤征司）

萬葉集輪讀　其の三の十一　進行（根岸）

第二部　御即位十五年奉祝の夕（祝宴を含む）

・**會合催物報告**

福田恆存を語る‐歿後十年に向けて‐（現代文化會議・三百人劇場）十一月十八日（火）

出席者（同人）駒井、加藤、小澤

・**頒布狀況**（一點八冊）（福田恆存を語る）三百人劇場　十一月十八日（火）

大八洲　八冊

◇平成十六年◇・十七

一月十一日（日）午前九時‐午後七時

内容

（一）平成十六年度第一回散策（東海道行脚其の一　日本橋から新橋迄、横濱）

（二）第二十八回連歌の會（横濱　神奈川近代文學館）

唱歌　一月一日（千家尊福作詞、上眞行作曲）

（三）第二十八回連歌の會（午後四時から六時迄）

次第　司會（根岸）

一、同人挨拶（前川）

一、諸聯絡

一、連歌（發句・土田龍太郎氏、宗匠・角山）

◎終了後夕食會

出席者（十名）

（一般）粉川宏氏（一名）

（會員）土田龍太郎氏（一名）

（同人）駒井鐵平、角山正之、加藤征司、市川靜夫、岡村明人、小澤泰裕、前川孝志、根岸清文（八名）

・**會報第百十四號（本年度第一回刊行物）の刊行に就て**（駒井）

四頁　四百五十部

内容　春夏秋冬欄（福田恆存を語る夕の現況・加藤）

讀書（おらんだ正月、和歌に見る日本の心他）

◎二月一日の例會に於て配布。

二月一日（日）正午‐午後七時　會場　中臺町會館

内容

（一）平成十六年宮中歌會始御儀錄畫拜見（錄畫準備・根岸）

（二）荒魂之會平成十五年度活動報告（別途資料）

（三）あらたま第五十六號合評會　進行（角山）

（四）萬葉集輪讀　其の四の一　進行（根岸）

（五）荒魂之會回顧　其の一の一・先帝陛下奉悼文集輪讀其の一　進行（前川）

唱歌　紀元節（高崎正風作詞、伊澤修二作曲）

・**會合催物報告**

福田恆存を語る‐歿後十年に向けて‐講演、朗讀、シンポ

ジウムの夕・現代文化會議主催の概況（抄）
十一月十八日（火）午後六時二十分～十時　三百人劇場
出席者（平成十五年十二月例會資料に記載）
・十月二十六日（月）現代文化會議の佐藤松男氏（平成十五年二月の例會資料に記載）より前記標題の案内狀が屆いた事により出席す。
・當日の出席者は百五十人程度である。讀賣新聞産經新聞には案内記事が出たが、前年の福田恆存を考へる會主催の福田恆存生誕九十年記念會の場合に比べて集ふ者が少く、些か淋しい人數である。
・佐藤松男氏の御高配により大八洲十五册の頒布許可が得られ、このうち八册が捌けた。昨年の例に倣つて賣上の二割相當額を謝禮にと申出たのであるが、受納は固辭せられたので、代金は全額（六千八百圓）荒魂之會の收入になつた。
・これも佐藤松男氏の御高配により宣傳用の資料七十五部（會報の平成十五年度刊行分に荒魂之會の現況、在庫案内、あらたま第五十六號内容案内を封入）の許可が得られ、終了後に出入口で配布した。

四月四日（日）正午－午後五時　會場　中臺町會館
内容
（一）國歌齊唱（御大婚四十五周年奉祝）
（二）外國人の日本論其の一
書物　フロイス「ヨーロッパ文化と日本文化」（岩波文庫）
報告者（加藤征司）進行（駒井鐵平）
（三）續同胞各位に訴へる・其の三の朗讀（根岸）
（四）萬葉集輪讀　其の四の三　進行（根岸）
（五）荒魂之會回顧　其の一の三　（少年讀本第五輯言葉盡し輪讀其の一）進行（駒井）
唱歌　鐵道唱歌第三集　九番～十七番

・目下の事情に伴ふ本年度の活動の修正に就て（駒井）
・六月の例會其の二（コリオレイナス觀劇會）は中止し、自由參加とする。
五月十六日（日）正午－午後五時　會場　中臺町會館

・諸聯絡
◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
コリオレイナス公演の散らし（同人）

・會合催物案内
◎靖國神社境内の清掃奉仕と共に五月の例會の其の二として行ふ。
劇團昴公演コリオレイナス（三百人劇場）
六月十七日（木）から七月四日（日）迄。

◎期間中の土曜日、日曜日は十九日（土）、二十日（日）、二十六日（土）、二十七日（日）、七月三日（土）の五日間である。
六月六日（日）正午－午後五時　會場　中臺町會館
内容
（一）外國人の日本論其の三
書物　シュリーマン「シュリーマン旅行記清國・日本」（學術文庫）
報告者（片岡正彦）進行（市川靜夫）
（二）萬葉集輪讀　其の四の五　進行（根岸）
（三）荒魂之會回顧　其の一の五（少年讀本第五輯言葉盡し輪讀其の三）進行（前川）
唱歌　鐵道唱歌第三集　二十六番～三十四番

・會合催物案内
劇團昴「コリオレイナス」公演（五月に散らしを配布濟）
六月十七日（木）から七月四日（日）演出・村田元史
◎七月四日（日）の例會の第二部福田恆存を語る夕第三夜（全集第三卷）に備へて、各自の觀劇を願ひたい。
七月四日（日）第一部　正午－午後五時　第二部　午後五時－七時　會場　中臺町會館
内容
第一部・研究會
（一）荒魂之會平成十六年度前半の活動報告（別途資料）
（二）あらたま第五十七號合評會　進行（根岸）
（三）萬葉集輪讀　其の四の六　進行（根岸）
（四）荒魂之會回顧　其の一の六（少年讀本第五輯言葉盡し輪讀其の四）進行（前川）

・第二部・福田恆存を語る夕・第三夜（夕食會）
話題　福田恆存全集第三卷（文藝春秋）亭主（加藤）賄方（根岸）
唱歌　鐵道唱歌第三集　三十五番～四十三番

・會合催物報告
劇團昴コリオレイナス」公演（六月十七日～七月四日）三百人劇場
觀劇者　駒井、加藤、小澤、前川
會員　土谷まつ江刀自、小林きく江刀自
十月十七日（日）正午－午後七時　會場　中臺町會館
内容
第一部・研究會
（一）國歌齊唱（地久節奉祝）
（二）外國人の日本論其の五
書物　平川祐宏「西歐の衝撃と日本」
報告（駒井）錄音筆記（加藤）進行（加藤）

◎録音筆記の提出は十二月十二日（日）、内容は平成十七年六月刊のあらたま第五十九號に掲載する。

（三）萬葉集輪讀　其の四の八　進行（根岸）

（四）荒魂之會回顧　其の一の八（少年讀本第五輯言葉盡し輪讀其の六）進行（前川）

（五）少年讀本刊行二十五周年記念懇親會の準備會

・**第二部・福田恆存を語る夕・第四夜**（夕食會）

話題　福田恆存全集第四卷（文藝春秋）亨主（小澤）賄方（根岸）

唱歌　鐵道唱歌第三集　五十二番～五十七番

・**諸聯絡**

◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）

（六）福田恆存歿後十年記念の御案内（同人）

・**會合催物案内**

・國語問題講演會並に現代文化會議の兩講演會（十一月二十日）に就ては本日配布の會報の記事並に資料（六）を參照の事。

十一月十四日（日）正午～午後五時　會場　中臺町會館

・**十一月の回顧**（八名）

福田恆存氏　平成六年十一月二十日　十一回忌

内容

（一）外國人の日本論其の六

書物　ヘリゲル「日本の弓術」（岩波文庫）

報告者（服部知司）進行（角山正之）

（二）風雅和歌集の選歌　進行（角山）

（三）萬葉集輪讀　其の四の九　進行（根岸）

（四）荒魂之會回顧　其の一の九（少年讀本第五輯言葉盡し輪讀其の七）進行（前川）

（五）あらたま第五十八號の校正

唱歌　鐵道唱歌第三集　五十八番～六十四番

會合催物案内（福田恆存歿後十年を偲ぶ講演會二件）

・**國語問題講演會**（**國語問題協議會**）

十一月二十日（土）午後二時　有樂町　日本倶樂部（日本工業倶樂部とは別）

・**福田恆存歿後十年記念講演とシンポジウム**（**現代文化會議**）

十一月二十日（土）午後二時半から七時頃　竹橋　科學技術館サイエンスホール

十二月十二日（日）正午～午後七時　會場　中臺町會館

内容

第一部・研究會（正午から午後五時迄）

（一）外國人の日本論其の七

書物　サンソム夫人「東京に暮す」（岩波文庫）

報告者（市川靜夫）進行（前川孝志）

（二）萬葉集輪讀　其の四の十一　進行（根岸）

（三）荒魂之會回顧　其の一の十一（少年讀本第五輯言葉盡し輪讀其の九）進行（前川）

唱歌　天長節（黑川眞賴作詞、奧好義作曲）

第二部・故石井勳先生を偲ぶ會（午後五時から七時迄）

・あらたま第五十八號の配布並に發送作業

會合催物報告

國語問題講演會（國語問題協議會）

十一月二十日（土）有樂町日本倶樂部

出席者（同人）市川、小澤、前川、根岸（懇親會出席・市川）

・**福田恆存歿後十年記念講演とシンポジウム**（現代文化會議）

十一月二十日　科學技術館サイエンスホール

出席者（同人）駒井、加藤

（會員）落合夏樹、伊東康夫

◎十一月二十日の二つの講演會の概要は平成十七年二月の資料に記載する。

・**頒布狀況**（**十點三十三册**）

（國語問題講演會）十一月二十日（土）八點十二册

（福田恆存歿後十年記念講演とシンポジウム）十一月二十日（土）一點八册

大八洲　八册

◇平成十七年◇・十八

二月六日（日）正午～午後七時　會場　中臺町會館

内容

（一）長谷川泉、冨士信夫兩氏逝去につき默禱

（二）平成十七年宮中歌會始御儀錄畫拜見（錄音準備・根岸）

（三）荒魂之會平成十六年度活動報告（別途資料）

（四）あらたま第五十八號合評會　進行（角山）

（五）萬葉集輪讀　其の五の一　進行（根岸）

（六）荒魂之會回顧　其の二の一（ふみぐら輪讀其の一）進行（前川）

唱歌　紀元節

會合催物報告

・**十一月二十日（土）國語問題講演會**　有樂町日本倶樂部

出席者（同人）市川、小澤、前川、根岸（懇親會出席・市川）參加者　約百二十名

講演會及び懇親會には會員諸氏と共に市川が參加。講演會の講演内容は同協議會々誌「國語國字」に讓るが、ここでは松原正氏の「福田恆存の話には現象論なし、常に本質論のみ」との發言を記し置く。（抄）（市川）

・**十一月二十日（土）福田恆存歿後十年記念講演とシンポジウム・科學技術館サイエンスホール**

出席者（同人）駒井、加藤

參加者　約三百名

第一部　特別公開　福田恆存未發表テエプ「近代人の資格」

第二部　昭和四十八年講演錄音

講演　山田太一「一讀者として」、西尾幹二「福田恆存の哲學」

第三部　シンポジウム　西尾幹二、佐藤松男、由紀草一（現代文化會議）

福田先生講演

・近代人の資格とは近代に徹し、近代の缺點を自覺し、近代に抵抗できる人間になることだ

・近代の出發點となつた革命のスローガンに就て－自由とはマイナスの狀態をゼロにする爲の手段であり、平等とは、他人のプラスをゼロにするための手段である。いづれも目的實現の爲の手段（しかも安易な生き方を賞してくれるに過ぎない）なのに、これを革命の目的に（そして現代人の生きる目的に）してしまつた。

・主權を萬人に、といふのは誰にも主權がないといふことだ。

・絕對者の支配から脱した後どうするのかが問題なのだ。（加藤）

三月六日（日）正午－午後五時　會場　中臺町會館

祭禮　香淳皇后御降誕（一）

吉田良次氏逝去につき默禱

・**新刊紹介**

決定版三島由紀夫全集第三十九卷・對談　新潮社　五八〇〇

◎舊版全集に未收錄の對談日本人論（林房雄）文武兩道と死の哲學（福田恆存）が注目せられるべきである。前者は、文化防衛論の自己解説の趣があり、今日の世相の各面への豫見の如き指摘が隨所に見られる。後者は福田恆存全集にも未收錄であり、今後の福田恆存を語る夕の話題として夫々入手を願ひたい。因みに福田全集第七卷の年譜には平成五十六年五月に荒魂之會にて講演と記されてゐるが、昭和四十二年十一月號の論爭ジャーナルに載つた後者の講演は記されてゐない。

・**少年讀本第五輯、ふみぐら、大八洲の頒布に就て（駒井）**

少年讀本第五輯言葉盡し・殘部約八百三十部、頒價四百圓（高校生以下の生徒には割引で二百圓）、ふみぐら・殘部約二百七十部、頒價五百圓（高校生以下の割引は四百圓）、大八洲・殘部約二百部、頒價八百五十圓（高校生以下の割引は七百圓）

◎同人は何れも一册二百圓

四月十日（日）正午－午後五時　會場　中臺町會館

出來事　今上陛下御成婚（昭和三十四年）

内容

第一部・研究會

（一）國歌齊唱（御大婚四十六周年奉祝）

（二）庭訓論を讀む・其の一　和田英松校註「新訂建武年中行事註解」（講談社學術文庫）

書物

（三）報告者（中澤伸弘）進行（前川孝志）

萬葉集輪讀　其の五の三　進行（根岸）

（四）荒魂之會回顧其の二（ふみぐら輪讀其の三）進行（前川）

第二部・大名を語る夕・第一夜（別席・夕食會、午後五時から七時迄）

話題　中島繁雄「大名の日本地圖」（文春文庫）　亭主（小澤）

唱歌　電車唱歌　一番～八番

・**諸聯絡**

◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）

（五）東叡新聞の福田恆存寄稿記事（中澤伸弘氏の提供）（出席者）

六月五日（日）正午－午後五時　會場　中臺町會館

兩陛下サイパン島行幸啓の平安を祈念して國歌を齊唱

・**あらたま第五十九號の配布竝に發送に就て（駒井）**

・各種封入物（敬稱略）

東叡新聞の福田恆存逸文の送呈（但し送呈濟）

會員　土田龍太郎、古谷進、落合夏樹、佐々木國男、吉原一美、平松敬史、中村やよひ（七）

一般　仙北谷晃一（一）

・**あらたまの反響**

・會報第百十九號（四月刊）

禮狀讀後感－仙北谷晃一氏（「福田恆存先生の逸文」貴重な御文章で、筆者中澤伸弘氏に微意を御傳へして戴ければ幸ひです。冒頭の引用からして福田氏の面目躍如たるものがありますね。全文を讀みたい誘惑に驅られます、とあり。

よつて「苦言」を直ちに送呈すると共に中澤氏にも傳言を一報す。禮狀あり。

・**會合催物報告**

劇團四季「解つてたまるか」　觀劇者　加藤

七月三日（日）第一部　正午－午後五時　第二部　午後五時－

七時　會場　中臺町會館

内容

第一部・研究會

（一）栢木喜一氏逝去につき默禱

（二）同胞各位に訴へる・續の四の朗讀

（三）荒魂之會平成十七年度前半の活動報告（別途資料）

（四）あらたま第五十九號合評會　進行（角山）

（五）萬葉集輪讀　其の五の六　進行（根岸）

（六）荒魂之會回顧其の二（ふみぐら輪讀其の六）進行（前川）

・**第二部・福田恆存を語る夕・第五夜**（夕食會）

話題・福田恆存全集第五卷（文藝春秋）亭主（小澤）賄方（根岸）

唱歌・電車唱歌　二十五番～三十二番

十月十六日（日）正午－午後七時　會場　中臺町會館

内容

（一）國歌齊唱（地久節奉祝）

（二）庭訓論を讀む・其の五

書物　瀧川政次郎「日本法律史話」（講談社學術文庫）

報告（加藤）錄音筆記（小澤）進行（角山）◎錄音準備（根岸）

（三）萬葉集輪讀　其の五の八　進行（根岸）

（四）荒魂之會回顧其の二（ふみぐら輪讀其の八）進行（根岸）

・**第二部・福田恆存を語る夕・第六夜**（夕食會）

話題　福田恆存全集第六卷（文藝春秋）亭主（加藤）賄方（根岸）

唱歌　電車唱歌　四十三番～五十二番

・**あらたまの反響**

あらたま第五十九號（六月刊・續）

禮狀讀後感－金子光彦氏（目下、福田先生の評傳に取りかかつてゐる、ともあり。）

十一月六日（日）正午－午後七時　會場　中臺町會館

・**十一月の回顧**（八名）

福田恆存氏　平成六年十一月二十日　十二回忌

内容

紀宮樣の御成婚を奉祝して御逸事を朗讀（加藤、根岸）

第一部・研究會

（一）庭訓書を讀む・其の六

書物　石川謙校註「鳩翁道話」（岩波文庫）

報告資料（井上雅夫）進行（駒井鐵平）◎報告資料は十月二十九日迄に進行係に郵送せらる。

（二）新拾遺和歌集の選歌　進行（角山）

（三）萬葉集輪讀　其の五の九　進行（根岸）

（四）荒魂之會回顧其の二（ふみぐら輪讀其の九）進行（根岸）

（五）あらたま第六十號の校正

第二部・故石井勳先生一周忌追悼の會（夕食會、午後五時半から七時迄）

唱歌　明治節（堀澤周安作詞、杉江秀作曲）

・**あらたま刊行三十周年記念の作物の内、福田恆存回顧**、三十年回顧、紙碑三點の指示（角山）並に散策記其の三（根岸）並にかりがね集其の三（前川）の校正刷の再返却。

・**十月の例會の概況**

日時　平成十七年十月十六日（日）正午～午後六時

會場　中臺町會館

特記事項

（五）「福田恆存を語る」講演會の案内を配布する。

消息來信

〈一般〉

・**三百人劇場**－讀賣新聞九月十四日附朝刊に「三百人劇場來年末閉館」との小記事あり。老朽化した建物の解體後の蹟地利用は未定とあるなり。いかなる事にや、寝耳に水とはこの事なり。同日夜、早速に三百人劇場に電話にて問合せる。近年の經營難により、立替の費用が無いといふ事らし。何とか劇團の活動は續けたいとは言ふが覺束なき事なり。

・**あらたま刊行三十周年記念懇親會の實施の素案に就て**（加藤）

・日時　平成十八年十一月三日（金・文化の日）午後一時～午後四時

・會場　芝彌生會館

・式次第

〈第一部〉午後一時から午後二時迄　（司會者　　）

一、國歌齊唱　　五分

二、報告

イ、あらたま刊行三十年（　　）　十五分

ロ、福田恆存を語る夕に就て（加藤）　十五分

ハ、縱書ホームページの開發（小澤）　十五分

ニ、福田先生の映像若しくは音聲　三十分

（休憩。茶菓提供　午後二時から二時半）

〈第二部〉午後二時半から午後四時迄

一、宮坂印刷代表者への記念品贈呈　五分

二、出席者の自己紹介並に意見の開陳　七十五分

三、唱歌齊唱

四、謝辭、閉會の辭、退室　五分

十二月十一日（日）正午－午後七時　會場　中臺町會館

内容

第一部・研究會（正午から午後五時迄）

（一）國歌齊唱（天長節奉祝）

（二）庭訓書を讀む・其の七

書物　宮本常一「家郷の訓」（岩波文庫）

報告者（角山正之）進行（根岸清文）

（三）萬葉集輪讀　其の五の十一　進行（根岸）

（四）荒魂之會回顧　其の二（ふみぐら輪讀其の十一）

進行（前川）

唱歌　天長節（黒川眞頼作詞、奥好義作曲）

第二部・大名を語る夕・第二夜（別席・夕食會、午後五時から七時迄）

話題　中嶋繁雄著「大名の日本地圖」（文春新書）亭主（加藤）

・會合催物報告

「福田恆存を語る」講演會（現代文化會議）

十一月十九日（土）世田谷文學館

出席者〈同人〉駒井、加藤

〈會員〉落合夏樹

第一部　講演

演題と講師　「福田恆存を語る」佐伯彰一

（福田作品との出會、福田恆存との出會、日本文化會議の發足と閉會、スイス・ユングフラウでの出會、三島「事件」と福田恆存）

第二部　質疑應答

・平成十八年度第一回散策並に第三十回連歌の會の準備に就て（根岸）◎別途確認狀（本日の資料〈六〉）

日時　平成十八年一月十四日（土）午前九時から午後七時迄

概要　東海道行脚第三歩（江の島並に藤澤宿、平塚宿、大磯宿・福田家墓參）並に第三十回新年連歌の會

集合　東海道線藤澤驛改札口

甲・午前九時半

乙・午後五時　大磯「國よし」（連歌の會會場）

解散　東海道線大磯驛

午後七時半

内容

午後一時　平塚・大磯間行脚（本陣蹟、高麗神社、虎御前の化粧井戸、小島本陣蹟、他）

午後三時半　福田家墓參

午後四時　鴫立庵見學（見學料百圓）

◇平成十八年◇・二十九

二月五日（日）正午－午後七時　會場　中臺町會館

内容

（一）山下覺辯氏、平成十七年九月十四日逝去につき默禱を捧ぐ。

（二）平成十八年宮中歌會始御儀錄畫拜見（錄畫準備・根岸）

（三）あらたま第六十號合評會　進行（角山）

（四）萬葉集輪讀　其の六の一　進行（根岸）

（五）荒魂之會回顧　其の三（ふみぐら輪讀其の十二）進行（加藤）

唱歌　紀元節（高崎正風作詞、伊澤修二作曲）

一月例會の概況

日時　一月十四日（土）午前九時から午後七時迄

出席者

散策・連歌の會出席（七名）

〈會員〉田口義昌氏、中澤伸弘氏

〈同人〉駒井、加藤、角山、小澤、根岸

散策のみ出席（三名）

〈會員〉土谷まつ江刀自、小林きく江刀自、重田公平氏

連歌の會のみ出席（一名）

〈會員〉土田龍太郎氏

内容

一、平成十八年度第一回散策（東海道行脚第三歩・藤澤、大磯宿）

二、第三十回連歌の會（大磯宿・國よし）

唱歌　一月一日（千家尊福作詞、上眞行作曲）

・〈散策記〉（抄）

前日の天氣豫報は、午後からの惡天を告げてゐた。豫定の七人が無事に藤澤驛に揃ふ。今回は、會員の田口氏、中澤氏を加へ、總勢十名の散策である。

大雨に豫定を變更し、平塚宿の散策は次の機會に廻す事にする。雨の小降りになるのを待ちながら、一時間程店内で身體を乾かすことに努める。三時を待つて大磯に移動する。福田恆存先生の十三回忌の墓參の爲、妙大寺に行く。この大雨に免じて戴いて、獻花、線香のない墓參である。墓參の後、最後の散策先である鴫立庵に行くが、四時の閉門に間に合はず、見學が出來ず、皆さんに申譯ない事をする。（根岸記）

・消息來信

〈一般〉

鈴木由次氏（元賛助會員、福田恆存先生との直接の御縁を結んで下さった方である。）－昨年十月に中野區より世田谷區に轉居の由。車椅子の中より世を愁殺してをりまず、とあり。

三月五日（日）午後二時－五時半　會場　中臺町會館

・**會合催物案内**

劇團昴・チャリング・クロス街八十四番地（三月二十七日～四月九日）

◎三百人劇場最後の年の第一回公演である。◎散らしは二月の例會に於て配布濟。

・**東海道大磯宿行脚の再企圖に就て（駒井）**

・一月十四日の東海道行脚第三歩は藤澤、平塚、大磯宿を巡るものであつたが、生憎の荒天の爲に藤澤宿のみで中止せざるを得なかつた。

・よつて、平成十九年度以降の散策豫定に大磯宿のみの再訪を加へたい。

實施の時期・福田恆存先生の御命日に近い十月若しくは十一月。福田家墓參も行ふ。

行程・御前九時半、平塚驛集合（驛前のドトール喫茶店で行程をよくよく確認の上で歩く）十二時半頃に大磯宿著、晝食は「國よし」の鰻料理を再度食す。午後は福田家墓參並に鳴立庵訪問他。午後三時頃大磯驛で解散。

・**あらたま刊行三十周年記念物故諸先生慰靈祭並に偲ぶ會案**

一、日時　平成十八年四月九日（日）午後四時半から

二、會場　中臺町會館二階

三、齋主　中澤伸弘（齋主が兼ねる）

四、典儀　原稿作成（加藤、駒井）製版印刷（根岸）

五、次第

《陳列品と準備》

イ、荒魂之會刊行物

あらたま　創刊號（駒井）第十號　第二十號　第三十號　第四十號　第五十號　第六十號（以上六點・根岸）

愛誦詩歌文章撰集　同其の六・續かりがね集　合本同胞各位に訴へる（以上四點・根岸）

大八洲別冊あらたま其の三・かりがね集以下の三點は物故諸先生の尊名が披見できる刊行物である。

◎かりがね集以下の三點は物故諸先生の尊名が披見できる刊行物である。

ロ、紙碑・懷しき人々、福田恆存回顧（四月配布の別途作物・角山）

ハ、荒魂之會寫眞帳（各種會合、散策・駒井）以上二點

二、中河與一先生書蹟（駒井）以上一點

ホ、福田恆存「私の國語教室」（角山）以上一點

ヘ、物故諸先生の御著書（一人一點）

四月九日（日）正午－午後七時　會場　中臺町會館

第二部・物故諸先生慰靈祭

（一）御嶽神社社頭參拜

（二）祭典

（三）直會

・**本日の發送**

會員・本日の資料の内、（一）（二）（三）計二

寄贈甲（甲）同じく（一）二月刊の會報第百二十二號　計二

別途　福田敦江刀自、宮原サワ刀自、阿部米子刀自（以上三名）

◎本日配布の福田恆存回顧の冊子は、本日の慰靈祭の記事掲載

○七月刊の會報第百二十四號と共に後日に福田家に送呈する。

發送數　約二百三十通

・**三月の例會の概況**

日時　三月五日（日）午後二時～五時半　會場　中臺町會館

内容・物故諸先生慰靈祭（四月九日・第二部）の諸準備（別途資料・加藤）

特記事項

（五）あらたま三十周年記念作物の題字三點（紙碑、三十年の回顧、福田恆存回顧）の題字を回覽す。

・**會報第百二十三號發送の別途分の内容（駒井）**

別途送呈者・福田敦江刀自（二月刊會報、四月刊會報、一月の墓參の寫眞、送呈狀）宮原サワ刀自（二月刊會報、四月刊會報、二月例會の寫眞、銘菓御禮の色紙、送呈狀）阿部米子刀自（二月刊會報、四月刊會報、二月例會の寫眞、送呈狀）

・**會合催物報告**

劇團昴・チャリング・クロス街八十四番地（三百人劇場）

三月二十七日～四月九日迄　觀劇者　駒井

六月四日（日）正午－午後五時　會場　中臺町會館

兩陛下のタイ・シンガポール行幸啓の平安を祈念して國歌を齊唱。

・**會合催物案内**

劇團昴公演「億萬長者夫人」・三百人劇場

會期　六月十九日（月）から七月二日（日）迄

・**今月の論策**

『正論』六月號

福田恆存と三島由紀夫の「戰後」第二回「革命前夜」のまぼろし　評論家・拓殖大學客員教授　遠藤浩一

七月二日（日）半夏生　會場　中臺町會館
第一部　正午‐午後五時　第二部　午後五時半‐七時
・**第二部　福田恆存を語る夕**・第七夜（別席・夕食會、午後五時から七時迄）
話題　福田恆存全集第七卷（文藝春秋）亭主（小澤）賄方（根岸）

・**會合催物報告**
劇團昴公演「億萬長者夫人」（六月十九日～七月二日）
三百人劇場　觀劇者　駒井
九月三日（日）午後二時‐五時
會場　中臺町會館

・**諸聯絡**
◎本日の配布資料（例會資料、發表要旨以外）
（十）劇團昴・夏の夜の夢の散らし（出席者）

七月の例會の概況
日時　平成十八年七月二日（日）
・**第二部　福田恆存を語る夕**・第七夜（別席・夕食會、午後五時から七時迄）
話題　福田恆存全集第七卷（文藝春秋）亭主（小澤）賄方（根岸）

・**◎特記事項**
（四）十一月三日の懇親會の準備に關して、中村吉右衞門の古事記の朗讀並に福田恆存先生と荒魂之會の冊子の作製を加へる旨の報告が駒井よりあり。

・**會合催物報告**
劇團昴公演「億萬長者夫人」（續）觀劇者　加藤、前川

・**會合催物案内**
劇團昴「夏の夜の夢」（十月六日から二十九日迄）
◎劇團雲（昴の前身）の旗揚公演の演目である。
（本日の資料（十））

・**夏の夜の夢の觀劇に就て（駒井）（本日の資料（十））**
福田譯のシェイクスピア劇が三百人劇場で上演せらるのは今般の夏の夜の夢が最後である。十月六日（金）から二十九日（日）迄の二十四日間に、土曜日、日曜日、祝日が九回あるが、この内、二十八日（土）のみがあらたまの例會である。よつて殘りの八回の内の一日を各自觀劇の爲に確保をして、福田恆存先生十三回忌そしてあらたま刊行三十周年記念の十一月三日の會の話題に花を添へて貰ひたい。各自の都合を優先する爲に觀劇會の日は設けない。

十月例會（甲）の概況
日時　平成十八年十月一日（日）午後五時～七時迄
會場　黑潮（夕食會）
出席者　駒井、加藤、角山、前川、小澤、根岸
内容

・**福田恆存を語る夕**・第八夜（終了）（註・二）
話題　福田恆存全集第八卷（文藝春秋）亭主（加藤）賄方（根岸）

・**會合催物案内**
福田恆存を語る講演會（現代文化會議）十一月十八日（土）午後
講師　高井有一氏　科學技術館　◎十一月三日に出席の佐藤松男氏が案内を配布の豫定

會合催物報告
・三の丸尚藏館明治の彫金（近代の金工改め）展・前期展（九月二十三日〈土〉から十月二十九日〈日〉迄）
拜觀者・駒井
・出光美術館「國寶伴大納言繪卷展」（十月七日から十一月五日迄）
鑑賞者　駒井

・**劇團昴「夏の夜の夢」三百人劇場**（十月六日から二十九日迄）
觀劇者（括弧内は同伴者數）駒井（十）根岸（一）

・**平成十九年三月の討論の準備に就て（駒井）**
討論内容　一書物　二バーゼルより　三あらたまの課題の書物　四シェイクスピア言葉盡し
・右の内、三四に就ては三十二年間の課題の書物並に報告者の一覽及びシェイクスピア言葉盡しの概要を收載した討論資料を二月に配布する。（編修記事・駒井、製版印刷・前川）

十一月十九日（日）正午‐五時　會場　中臺町會館
・**十一月の回顧**（十一名）
福田恆存氏　平成六年十一月二十日　十三回忌

・**會合催物報告**
劇團昴「夏の夜の夢」（續）三百人劇場（十月六日から二十九日迄）
觀劇者（括弧内は同伴者數）加藤、前川　會員・落合夏樹氏（一）

・**あらたま刊行三十周年記念行事の纏め**　平成十八年十一月十九日（日）
甲、實施内容
あらたま刊行三十周年記念懇親會
（開催内容）
［一］懇親會
日時　平成十八年十一月三日（金・祝）午後一時から午後四時迄
會場　東京・芝彌生會館

出席者　計十八人

次第

第一部（午後一時から二時迄）二階　蘭の間

一、國歌齊唱　根岸清文

一、あらたまの刊行三十周年に就て　加藤征司

一、實踐報告

・福田恆存を語る夕に就て

◇音聲・「福田恆存講演・シェイクスピア劇の魅力」より

・中村吉右衛門朗読・古事記」より

・縱書ホームページの開設　小澤泰裕

〈休憩・午後二時から二時半迄〉

第二部（午後二時半から四時迄）

一、記念品贈呈　桑原草子

一、款談

一、唱歌「明治節」　駒井鐵平

一、謝辭

記念寫眞撮影

司會・第一部　市川靜夫　第二部・角山正之

當日の配布資料

一、懇親會次第　○

二、福田恆存先生と荒魂之會　○

三、縱書ホームページの開設　○

四、もう一つの教科書批判　○

五、あらたま刊行三十年乃回顧　○

六、福田恆存回顧

七、紙碑・懐しき人々

八、あらたま散策記・其の三

九、別冊あらたま散策記・其の九・風信帖

十、荒魂之會來歷・其の五

十一、昭和天皇記念館案内　○

十二、荒魂之會平成十九年新年會案内

十三、個人別配布物一覽

・丸印は出席者全員に配布の資料である。

當日の展示資料

福田先生書蹟掛軸（駒井）、福田恆存先生逝去の際の報道記事一覽（駒井）あらたま全刊行物（根岸）、あらたま頒布物（根岸）、受託頒布物（當日・前川）荒魂之會寫眞帖（駒井）

十二月十日（日）正午・午後七時　會場　中臺町會館

内容

第一部・研究會

（一）國歌齊唱（天長節奉祝）

（二）近世の諸學其の七　吉田光由「塵劫記」（岩波文庫）

書物　報告者（小澤泰裕）進行（角山正之）

（三）萬葉集輪讀　其の六の十　進行（根岸）

（四）荒魂之會回顧　其の三（ふみぐら輪讀其の二十一）

進行（加藤）

唱歌　天長節（黑川眞賴作詞、奥好義作曲）

第二部・大名を語る夕・第四夜（別席・夕食會、午後五時から七時迄）

話題　中嶋繁雄著「大名の日本地圖」（文春新書）亭主（加藤）

・會合催物報告

「福田恆存を語る」講演會（現代文化會議）

十一月十八日（土）科學技術館（講師・高井有一氏）

出席者〈同人〉加藤

・今月の論策

・福田恆存と三島由紀夫の「戰後」第八回　彷徨する「三島歌舞伎」評論家・拓殖大學客員教授　遠藤浩一

・平成十九年度第二回散策（三月二十五日・沼津方面）の實施案に就て（加藤）

日時　平成十九年三月二十五日（日）午前九時から午後四時半迄

概要　沼津御用邸記念公園、千本濱公園、東海道行脚・沼津から三島へ（三時閉）大磯妙大寺福田家墓參（福田恆存全集讀了、福田恆存翻譯全集再讀開始報告）

集合　沼津驛午前九時

◎福田家墓參　同人のみにて午後五時半頃。午後六時半頃大磯發列車車中にて解散。順次下車。

〈註〉

イ、〈三頁上段〉昭和五十七年七月刊・會報第二十八號の記事

ロ、〈三頁下段〉昭和五十八年十月刊・會報第三十三號の記事

ハ、〈九頁上段〉・當日はすばるの俳優の都合が附かず、同人の清水明彦、平田清美の兩人によつて行はれた。

ニ、〈五十頁下段〉・福田恆存を語る夕は、平成十九年度以降、年に一度二月に開催を續け、福田恆存飜譯全集全八卷を順次話題にしてゐる。

大磯清談（全五回）

一、昭和六十年元旦（火）二、昭和六十三年三月十九日（土）
三、平成元年八月十四日（月）四、平成三年十一月九日（土）
五、平成六年八月六日（土）

大磯清談（其の一）

日時　昭和六十年元旦（火）午後二時-九時
場所　大磯　福田恆存先生邸（十二疊の座敷）
同席者　松原正、鈴木由次、駒井鐵平

◎七時閒に亙る長時閒の閒、一人として年始の訪問客は無し。例年元旦は餘人を遠ざけたるは福田家の習しらし。

その元旦の午後の極く内輪の談論なり。

話題　月曜評論の駒井の一文を讀みて後、文春二月號は如何なる誌面を作るつもりなるや、自衞隊論、明治の廢刀令は失敗なりし事、皇室の將來、帝國憲法敎育敕語擁護の論、習志野臺中生徒正統表記を擁護して馬鹿敎師を論駁せし事、福田恆存論爭集全十卷企劃の事、清水幾太郎浮氣をせし時、福田恆存を招じて證人とし、夫人の前で土下座して謝罪せし事、その他。

大磯清談（其の二）

日時　昭和六十三年三月十九日（土）午後二時から五時半迄
場所　大磯　福田先生邸
同席者　粉川、中村、高池、駒井

全集完結後、シェイクスピア名言集を作りたし。日の丸は美しい旗である。七月三日の會は喜んで出席する。演目の謠曲は鉢木を望む。軍歌も望む。詩吟は金州城下作を望む。韓國訪問の折、先方の學者が安重根を稱へ、伊藤博文をのしつた爲、日本人からすれば安重根は暗殺者であると言ひ返した事があつた、等々。

◎別紙、朝日夕刊福田先生の近況參照

大磯清談（其の三）

日時　平成元年八月十四日（月）福田先生邸・駒井の參上

春頃心臟の高鳴りがあつたが目下快調である。毎年寒くなると體調が狂ふ。目下マツサージを續けてゐる。某月某日といふ形で短い物を時々書きたくなるが續かない。過日の天安門事件でも、何か書けさうな氣がしたがやめた。昔、支那に行つた事があるがその實狀は五十年前と全く變つてゐないだらう。學生の方も自分達が何を望んでゐるのか分つてゐないのだらう。昔の五四運動の頃の方が未だ明確なものがあつた。鄧小平が亡くなれば分裂するのではないか。軍隊はどう出るか。軍隊は射てと言へば射つだらう。アメリカに就ては自分はもつと讓るべきだといふ立場だ、が今は威勢の良い方が編輯者も喜ぶだらうから自分の發言が求められる筈がない。目下某出版社より福田恆存對談集の企劃が持ち込まれてゐる。餘り乘り氣がしないが本にはなるだらう。非公式の話だが年末には全集の三版が出る。自分としては翻譯集を出す事には異存は無い。誤譯を訂正したいからだ。但し具體的な話は無い。シェイクスピアは十九册譯したが、殘りが十九册あるので完譯は無理だ。

曾野綾子は才女だが、それを少しひけらかすところがあるのではないか。よく分らぬところがあるのはカトリックだからか。カトリックとしても少し妙なところがある。隱れキリシタンか。カトリックは最終的には天皇制否定である。三浦朱門も皇室については何も言はぬだらう。本音は皇室否定だからだ。昔、カトリックの無免許運轉と言つたばかりに、あちこちで利用されて迷惑をした。その後自分も考へが變つた。この際訂正しておきたいが自分は汎神論である。

山本夏彥は分る、が山本七平には分らぬところがある。倉橋由美子と曾野綾子が喧嘩すれば面白からう。曾根綾子が十人ゐても紫式部にはかなはない。源氏は何度讀んでも須磨明石止りで讀破出來ない。源氏の文章は漢語をかなで書いてゐる事が多いが、かなを漢字に直せばそれだけで大分分り易くなる。源氏が讀み易くなれば國語の試驗の問題が作れなくなるのか。

月曜評論の松原西部對談には驚いた。一つ言へば、昨年の秋頃、松原君は西部、野坂を見直したと言つてゐた。現代假名遣で書かれてゐてもよい文章といふものはあるのではないかと言つてゐた。が、今度の對談のやうに意氣投合するといふのは解せない。それぞれ孤立して寂しくなつたのか。西部君は時々電話を寄こす。問はれた事には答へてゐるが、つき合ひと言へるものではない。西部君もよく分らぬ。東大を罷めてみたところ、思惑通りゆかぬところがあるのではないか。

語學の事については中村保男、沼澤洽治兩君の語學力はすぐれてゐる。沼澤君の英語についてはドナルドキインが褒めてゐた。シェイクスピア全集は初めは吉田健一君と二人で譯す筈であつた。高校で外人講師が會話を敎へてゐるといふ駒井の話に

關して・一週に一度か二度そんな事をしても全く意味はない。外國語の讀み書きと會話の能力とは別の問題だ。教室では皆が出來る事（譯讀、文法）をしつかりさせるべきだ。國語國字問題について・以前は悲觀的だつたが、最近はさうではない。正漢字は復活する。假名遣も直るだらう。なぜなら正漢字、つまり正しいものは最後には勝つではならいか。

昔、庭の柿の木には千箇も實がなつた。その時はよそには配つても自分は食はず嫌ひで食べた事はなかつた。最近になつて食べるやうになつたが、今では千箇も實をつける事はない。それどころかなくなつた實を鳥が突つくものだから自分の口には這入らぬ—呵々

大磯清談（其の四）

日時　平成三年十一月九日（土）午後三時～六時

福田恆存先生邸に八秩の賀御祝の品を呈上の爲に駒井が參上

呈上の品

一、シェイクスピア言葉盡しの稿本　二、八秩の賀色紙

三、あらたま刊行十五周年記念懇親會の全資料（但し「合本同胞各位に訴へる」は二册）四、十五周年の會の錄音テエプ甲乙二本　五、イノダ珈琲豆二罐　六、別途駒井よりの房州の鹿尾菜（ひじき）一袋

清談内容

◎八秩の賀祝意の品について

色紙—かういふ事をしてくれるのは他はないと仰しやり、一しきり、吉野の和紙についての談あり。（吉野和紙については御存じない由。）光澤が絹のやうで見事である。一枚いくらか。（一寸答へ難いが、八百圓と返答す。）

シェイクスピア言葉盡し—立派なものだ。（本邦唯一册と申上げると感に堪へぬ樣子なり。公刊はせぬ、あらたまの同人の勉强として作り、寫しは各自持つてゐると申上げると）道樂みたいなものかなと仰しやる。（洵に至言と覺ゆ）シェイクスピア言葉盡しとあるが、今はいろいろある。題名も福田恆存譯シェイクスピア言葉盡しとするとよかつた。三島由紀夫の或る作品にドストエフスキイの作品の或る一節が引用せられてゐる。この文句があまり感心せぬので調べようと思つたが、誰の譯か書いてゐないので分らない。—リチャード三世の「忍苦の冬」といふ語も、福田恆存譯だからかうなるので、必ずしもシェイクスピアの原文とは言へぬ（ここで翻譯論が一しきり交はされる。今度の言葉盡しでも、わが國の風習に從つて、譯してゐると思はれる箇所は省いてあることを説明す。）

◎十五周年の會に就て—寫眞を御覽になりながら、何人かの方々に就て近況の御尋ねあり。小川はどこにゐるか、（ここで社長室長として、社長を背任罪で訴へると息卷いてゐることを申上げると）それはいかん、今度、呼んでゆつくり説諭してやらう。（ここで二人大笑す）片岡はどこか（偶々下を向いてゐる寫眞なり）何だか手を見てゐるのかな。「働けど働けど」「じつと手を見る」か（啄木の歌なり。ここでも大笑ひす。）川畑は分かつてゐる。大橋はどこか、岩下君もゐるのか等々。

◎「合本同胞各位に訴へる」に就て—表紙に印刷の文化防衛の語に關して。前から氣にかかつてゐたが今日は苦言を呈す。三島君が言ひ始めたが、「文化防衛」といふ言葉はよい言葉ではない。（ここで他に適当な語が思ひつかぬ事、國防といふと軍事や政治面の重視になる。そこで文化を護つてゆくといふ意であり「文化防衛」といふ語そのものにはこだはらぬと申上げる。）

◎手土産について—珈琲は家内が好きだ。（令室の喜びは主人の喜びでもあるなり。ここでイノダ珈琲が京の老舗である旨を申上げる。ひじきは先生の好物の一なり。）

◎先生の近況其の他—翻譯篇は（福田恆存翻譯全集）明年一月下旬頃の刊行とならう。（文藝春秋創立七十周年記念刊行である。）一寸値段が高い。（全八卷、各卷六百頁、定價各卷七千五百圓、一月より隔月刊）翻譯の訂正は最後の一卷を除いて終つてゐる。校正は家内が手傳つてくれてゐる。校正を見てゐるうちに、新しいものを書く意慾が出て來た。新潮四十五の連載（十二月刊の明年一月號から毎回二頁）を始めることにした。龜井君（編輯長）がこの二年程、三月に一遍ほどやつて來る。その熱意にほだされて書かうと思つたが、それでは他の編輯長が氣を惡くするだらうからそれはやめた。前に材料を提供せよ（昨年の駒井の參上の際に申しつかつたのである）と頼んだが書く意慾そのものが出て來たのでそれは不用だ。但し、何か調べて貰ふ事がある のかもしれない。國語國字だけでなく、政治でも何でも氣附いたことがあれば教へて貰ひたい。ただ、折角校正を手傳つてくれてゐるのに、新しい物に熱中するのでは家内に気の毒のやうだ。

夏の夜の夢は面白くなかつた。家内も怒つてゐた。（ここであまりの酷さに觀劇談を先生に呈上出來かねたと申上げると）いや、言つて貰つた方がよかつた。我が意を得たりと思ふだらう。今度からは、劇團の方に詰らぬなら詰らぬと言つて貰ひたい。その方がよい。菊池准の演出はもう見たくない。（演出助手として然るべき演目で勉强してゐた筈だがと申上げると）その通りだ、が、じつと今日ある日を待つてゐたのであらう。（劇

團にはカラーがある。シェイクスピアにはその特有の世界がある。それに反する事は觀客への裏切りとなるのではないかと申上げると）その通りだ、ここいらで一本立させねばと考へてゐたが、それは失敗だ。「アルジャーノン」もなぜあんなものをやつたのかさつぱり分からない。あれは何を言ひたいのか。（現代演劇協會からは）昭和五十六年に手を引いた。今から考へれば早かつたなといふ氣がする。（院政はいかがですかと申上げると）「院政」か、成程それもよかつたかも知れない。

近頃は全く外に出ない。東京に出たのは夏の夜の夢以來、十一月六日（水）の藝術院の會合の時が久し振りだ。この時は丸善にも寄つた。散歩はしない。昔から散歩はすすめられてゐるが、目的のない物は自分には出來ない。庭にも出ない。家から一歩も出ない。（これでは奥様の氣苦勞たるや筆舌に盡し難いものがあると思へども敢て口にせず。）

庭の手入れが大變だ。植木屋に言はせると年に百五十人の職人が必要だといふ。そんな事が出來るものではない。今はせいぜい四人か五人程度だ。植木屋とはよい商賣だ。木に登つてちよこちよこと枝を切る、そして降りて手をかうかざして（身振りをなさる）自分でうーんと感心してみてゐる。これで用が足りる。（このときの仕草が何ともユウモラスで面白い）

十年成らなかつた柿の實が昨年から成つた。千箇も實をつける。ところが烏が突く。あちこち突くのを追ひ拂ふのが大變だ。文化防衛ならぬ烏からの柿の實の防衛だ。三百箇程手に入れた（ここで早速に柿の實を御馳走になる。やや固めであり味は甘みをおびてゐるといふ程度）來年は空氣銃を買つて來て追ひ拂ふつもりだ（空氣銃を構へてゐる先生の姿は想像するだに愉快で、笑ひがこみあげてくる。弓ではどうですかと申上げると）弓は音が出ないからね。それにもう弓は引けない。（音を出すといふのであれば鳴子はどうか。罐詰の罐でも作れると申上げると、本物の鳴子が入手できればそれに越したことはないといふ話になる。）鳴子もよいが鳴子で烏は殺せない。（憎い烏を何とか仕留めたいといふ魂膽と見ゆ。）鳴子の方がよいかな。空氣銃では彈が道路に飛び出すだらう。（空氣銃を持ち出すところは、先生が目下元氣一杯といふ由ならむ。ここで狩猟の話となり、河上徹太郎氏が鳥を射つのは鳥への愛情であるといふ文章を書いてゐることを申上げると）そんな事があるものか（そこで歸宅後河上氏の『白鳥の死』といふ文章の寫しを早速に御送りする）

菊池寛賞は白川靜が決まつた。（審査員はおやめになつたのではないかと問ふと）止めるつもりだつたが文藝春秋會長上林吾郎が代表權のある會長の任期が未だ三年ある。それまで附き合へといふ事で結局止められなかつた。白川靜が決まつてよかつた。一方では山崎豐子が這入つた。あれは小説が百萬部も賣れた。一體印税はいくらになるのか。一寸計算ができないな。（つまり、百萬部も作品が賣れる大衆作家は賣れた事自體が賞のやうなものであるからわざわざ顯彰することはない。金錢的には報いられぬ學者にこそ、榮譽ある賞は與へられるべきだとの意なり）が、山崎豐子のやうな作家がゐて出版社が儲けられるからこそ、他の賣れない事業もできる。それが世の中だ。

文春の「ノーサイド」といふ雜誌は、上林會長の念願のものだ。何年も前から、これからは老人の世だから老人向けのものが當ると言つてゐたが、あんなもの賣れる筈がない。年を取れば面倒になつて字は讀まぬ。テレヴィのはうがよくなるのは分り切つてゐるではないか。

何でも食べるが、昔はどちらかといふと肉の方を好んだ。年を取つてからは魚の方を好むやうになつた。中々よい大根がない。昔知人がうまい大根を届けてくれたことがあつた。文春の寺田君（福田全集完結記念の會に出席）はあれでも居合術六段だ。寺田君の師匠（このところ駒井の記憶に錯誤あり）は蠅を箸で摑んだ（宮本武藏のやうですねと申上げると）劍の達人の話は講談の中のことではない。本當に凄い技の持主がゐる（ここで蠅を箸で摑む技以外の話があつた筈であるが失念）

駒井君と會ふ時は何かが起きる（先生の奥齒の金冠が取れたのである。昨年十一月參上の際は、目の前で倒れたのである。昭和五十六年五月五日の雅敘園での會では腦梗塞にかかつたのである。疫病神でせうか、たとひさうではあつても先生に影響を與へ得たとするならば正しく本望なりと申上げる。）

後記

一、本年二月の參上のときに比し、格段に御壯健と御見受けした。「神様が下さつた最後の輝きであらう」と仰しやるが、目下の處腰痛も全くなし。十一月に這入つて寒くなつてから快調との由なり。

家の中の歩行は洵にしつかりしてゐる。話す方も以前は多少吃る傾向があつたが、今回は全くそのやうなことは無かつた。

あらたまの皆さんに宜しくとの御挨拶を頂戴して辭去した時は一安心といふ氣持で一杯であつた。

二、翌十日の晝少し前電話があり文化防衛論の語を考へ直すといふことならばと仰つて、御意見を述べてくださる。

防衛といふとどうしてもまづ敵が攻めて來るといふ事が頭に浮かぶ、それは面白くない。文化は守るものではない。文

化は隨ふものであると仰しやる。「文化は隨ふものである」といふ點については、それこそ先生の御著書から學んだものである。それ故にあらたま誌の編輯方針の第三條には「表記は國語の正格に隨ふ」と明記してあるのであると、早速に禮狀を認めて呈上す。

三、清談中の鳴子について

福田邸の柿の實の防衛の爲に、鳴子を呈上の旨先生に約束して歸つたのである。

明年八月の末頃までに、

（一）鳴子を入手

（二）鳴子を製作

右いづれかの實現を期したい。

大磯の先生が空氣銃の事故で大怪我といふ事では漫畫にもならぬ。宜しく盡力を願ひたし。

大磯清談（其の五）

日時　平成六年八月六日（土）午後三時～四時二十五分頃

場所　福田恆存先生邸に駒井鐵平が參上して伺ふ。

座敷奥に病人用寢臺を設置し、夏の衣服（半袖）を召し、寢臺上に坐つてゐられる。病中の爲、奥樣が同席なさる。

・平成三年十一月以來三年ぶりである旨の挨拶を言上す。先生は直ちにうなづかれる。

・食事は特に何がいけないといふものではないが、食欲は減退の由である。

・以前に頂戴した「年々歳々」の揮毫を表裝したのでその寫眞一葉を持參し御覽頂く。「寫眞にとればよく見える。」と喜んで下さる。

・數々の揮毫分は大方處分してしまひ手元にはなくなつてゐるとの由である。

・尚藏館の圖錄（古記錄に見る王朝儀禮展）は手に取つて御覽になる。前回の花鳥の美展の若冲の鷄の繪が見事であり、陛下の米國行幸の砌、米大統領晩餐會にて披露の由を言上す。若冲と言へば高校生の時、日本畫の作品として初めて見たと仰しやる。

・どこかの拜觀ですか。拜觀ではない。友人の持つてゐた畫集であつた。

・最近は全く外に出ることはない。訪ねて來られる方々は、と問ふと、西部、相川、井尻、平林諸氏の名があがる。

・西部氏は「發言者」といふ個人誌發刊の廣告取りの爲、結局來なかつたのか、若しくはその後訪れなかつたのかここの所は不明である。

・文春の寺田さんは出版部の方からこの四月に文學界の編輯長になつた。（この件は奥樣が仰しやる。先生は編輯長と出版部の部長と混同なさつたやうである。）

・二つの全集以後の作物については昨年暮の頃、中村保男、谷田貝常夫兩氏が、先生の選集を作りたいといふ話を持つてきた。二人は文春の寺田氏に話を持ちかけた。先生は全集で世話になつたのにこれ以上迷惑をかけられないと話すと、こちらで商賣になると判斷したのだから心配なくとの返答が寺田氏の方からあつた。（その寺田氏がこの四月から出版部から文學界に移つたのであらう。）

・以前に對談集の原稿を揃へた出版社があつたが奥樣の反對で取止めたといふ件について―奥樣は、それは本人の反對です、私は知りませんと笑ふ。奥樣の話では、日本文藝社であるといふ。

・對談は嫌ひだ。自分の言ひたいことを抑へ、相手に花を持たせなければならないから、と先生は仰しやる。そこの遣取りが讀者としては面白いと申上げるが、對談集を出す、といふ話にはならなかつた。

・以前に、駒井君に他の者を連れて來るなと言つたことが強く言ひ過ぎたのではないかといふ氣がしてゐる。駒井君だから言ふのだが、相手が何人もゐればそれに應じて話をしなければならない。（そこが現在では苦痛になつてゐるといふ意ならん。）

・御迷惑とは思ひつつ、他の者を同道したいのは、自分だけ伺つたのでは勿體ない、他の者にも餘德に與らせたい意であると申上げる。

・「リチャード二世」の上演について―この二年ほど全く三百人劇場には行つてゐない。「リチャード二世」も觀られない、と仰しやる。

・藤木敬士が主役であることについて―西本裕行はどうしてゐる―奥樣はもう歳ですからあの役は無理でせう、藤木さんが大變やりたがつてゐる、と仰しやる。先生は「リチャード三世」の時のやうに「又、くさい芝居をやるんだらう」と。「リチャード三世」は藤木さんの獨り芝居でしたね、と申上げる。

・昴のシェイクスピア劇について―女優陣が弱體で臺詞を覺えるのが精一杯のやうだと申上げる。先生は「駒井君は芝居については嚴しい人だ。」と奥樣に仰しやる。

・三月の「サロメ」「アンドロマック」は先生の入院時期で奥樣は御覽になられぬ由―他からの話で隨分奇妙な感じがしたさうですね、と仰しやる。能あり狂言あり歌舞伎ありといふものであつた。先生の本の名前ではないが「坐り心地の惡い椅子」といい

ふ思ひでしたと申上げると、先生も興味を示す。能なり、狂言なり、本物をフランス人に見せた方がよい。が、フランス人の役者をそれなりに訓練したのは感心したと附け加へる。

・「リチャード二世」で福田譯のシェイクスピアが全部上演になると申上げると「さうか」と仰しやるのは、先生御自身も氣づかなかつたのかしらん。

・奥様の話では「アルジャーノンに花束を」と昨年夏の映畫「オセロー」で初めて劇團の經理が黑字になつた。けれども今までの分の赤字があるとの由である。先生は「アルジャーノンに花束を」については「僕は認めない」、けれども劇團經營の爲にはそれが賣れてゐるのであればやむを得ない、と仰しやる。昨年のアンケートに新しい傾向もよいが昔からの觀客も大事にして貰ひたいと記した旨を申上げると先生も奥様もうなづいて下さる。

・今でも未知の讀者からの便りがあるとの由。北海道の人から手紙があつたとの奥様の話に、小川榮太郎君の事を持ち出す。昨年暮に福田全集を讀んでゐて、駒井の名を知つたと來信あり、この二月から毎月あらたまの研究會に出てゐる、本人は文士になりたいといふ話を披露する。先生は記憶にないと仰しやるが、奥様は確か小川といふ人からの手紙が來てゐたと仰しやる。

・菓子は先生が食べられぬからといふ事にて先生の分も頂戴した。途中胃を抑へるやうに下を向く。奥様が刺戟物がいけない、と仰しやる。茶も珈琲も駄目らしい。

・昨年の暮に大磯の病院に入院なさつたとの由（それで本年度初めて年賀狀を頂けなかつたのであらう。若しや、何か惡いことがありはしないかと、尋ねる事が氣遲れして今日に至つたのであるが、その旨は口にしようとしてゐて失念した。）

・毎日、今日一日どうやつて過ごさうか、そればかりを考へると仰しやる。—自分は立つて杖をついて用を足すことが出來ないわけではないが、つい家内に賴る、段々横著になる—。今年で數へ八十五だ（八十三の筈であるが度々かう仰しやる。）ここまで生きるとは思はなかつた。

—天の配劑です。かへつて身體の丈夫な人がそれに賴つて無理をするから短命に終る。若い時期に弱かつた人で長命の人が案外多いさうです。

—自分は若い時からその時その時で夢中に仕事をしてきた。特に身體をいたはつて來たのではない。が、いよいよ終りか。駒井君とかうして會へるのも最後だらう。

・昨年の保田與重郎の十三回忌に駒井が出席したことに就て

—炫火忌も終りださうです。出席する方々が遠方から集まるのはつらいといふ由を申上げると、

—さうして皆死んでゆく。

（ここで話題を替へねばならぬと思ひ）

—小林秀雄さんには炫火忌のやうなものはなかつたのでせうか。

—あの人は生前からつき合ひが惡かつたからね。奥さんも昨年亡くなつた。

—さうでしたね。

—一度様子を見に行きたいと思つてゐるが、あの家はどうなつたか。

（小林氏は娘一人のみ。その明子さんとは仲が惡かつたと先生は仰しやる。初耳である。）

・最近の書き物に就て。新聞やテレヴィジョンを見て氣づいたところをメモに取る時もあるが、じきに忘れてしまふとの由（奥様の話では、そのメモがメモの體をなしてゐない、と。）

新潮四十五も中絶してしまつた。新しい選集は必ずしも乘氣でないと仰しやるが、若い人に讀ませるにはいきなり全集といふわけにもゆかぬ、一、二卷の選集があれば、洵に有難いと申上げる。昔、文春の「人と思想」シリーズの「日本を思ふ」と同様なものかと申上げると「人と思想」シリーズその他の人の卷があつたと申上げる。林健太郎、吉田健一、その

・今年の猛暑で米は豐作らしい。昨年のタイ米の事では國産米の美味なることがわかつた事が不幸中の幸ひであつたと申上げるとうなづいて下さる。

・八月末には梨を御送りします。秋になれば庭の鳥が相變らず柿の實を食べに來るのかしらん。

・「謠曲十德」の出典を調べてゐるが未だ分からないといふことでは、

—親父の作でない事は確かだ。

—氣にかかつてゐるが「謠曲十德」が中々見つからぬ方がよいかも知れない。この宿題が、みつかるのを樂しみにして下さい。

平成六年八月十三日（土）夜、記す。

平成七年三月十九日（日）夜、若干整理す。

◇大磯清談に就て◇大磯清談は、昭和六十年元旦に鈴木由次氏の慫慂に隨つて、初めて大磯の福田先生邸に參上した駒井鐵平がこれを嚆矢として五回の參上の際の談論の内容を例會資料に記載したものである。記載内容は錄音機は用ゐず總て駒井の記憶に本づく。隨つて文責は駒井が負ふ。本册子卷末の大磯清談全十一回は談論内容の記載が示されない分も數へてある。

福田恆存先生の各種全集一覽

一、福田恆存全集（全八巻）

第一巻（昭和十二年～二十二年）近代日本文學の系譜、芥川龍之介、文學と戰爭責任、一匹と九十九匹と、他三十七篇

第二巻（昭和二十二年～二十七年）シェイクスピア、ロレンス、サルトル、白く塗りたる墓、藝術とは何か、他三十六篇

第三巻（昭和二十七年～三十一年）平和論に對する疑問、國語改良論に再考をうながす、人間この劇的なるもの、他

第四巻（昭和三十一年～三十四年）幸福論、國家的エゴイズム教育・その現象と本質、私の國語教室、他二十三篇

第五巻（昭和三十四年～四十年）批評家の手帳、進歩主義の自己欺瞞、常識に還れ正・續、論爭のすすめ、他六十二篇

第六巻（昭和四十年～四十九年）當用憲法論、僞善と感傷の國、生き甲斐といふ事、日米兩國民に訴へる、他四十三篇

第七巻（昭和四十九年～）私の英國史、朴正熙、乃木將軍と旅順陷落戰、小林秀雄「本居宣長」、他四十九篇

第八巻（創作）ホレイショー日記、龍を撫でた男、明暗、億萬長者夫人、解つてたまるか！、他六篇

發行　文藝春秋　定價　各五千五百圓　各巻に覺書を附す

昭和六十二年一月より隔月刊行、同六十三年三月完結

二、福田恆存飜譯全集（全八巻）

第一巻　ワイルド篇（ドリアン・グレイの肖像、他七篇、他）

第二巻　ロレンス篇Ⅰ（戀する女たち）

第三巻　ロレンス篇Ⅱ（ロレンス（三）ヘミングウエイ、他）

第四巻　シェイクスピア篇Ⅰ（リチャード三世、他四篇）

第五巻　シェイクスピア篇Ⅱ（ヴェニスの商人、他四篇）

第六巻　シェイクスピア篇Ⅲ（ジュリアス・シーザー、他二篇）

第七巻　シェイクスピア篇Ⅳ（十二夜、リア王、他三篇）

第八巻　戯曲篇（ソポクレス（二）エリオット（二）他）

發行　文藝春秋　定價　各七千五百圓（税込）

平成四年一月より刊行、同五年四月完結

三、福田恆存評論集（全二十巻別巻一）

第一巻　一匹と九十九匹と（芥川龍之介、太宰治、國運、他）

第二巻　藝術とは何か（近代の宿命、他）

第三巻　平和論にたいする疑問（ロレンスの結婚觀、他）

第四巻　人間、この劇的なるもの（俗物論、自由と進歩、他）

第五巻　批評家の手帖（象徴を論ず、飜譯論、文學以前、他）

第六巻　私の國語教室（國語問題と國民の熱意、他）

第八巻　教育の普及は浮薄の普及なり（當用憲法論、他）

第九巻　獨斷的な、餘りに獨斷的な（文學を疑ふ、他）

第十巻　日米兩國民に訴へる（孤獨の人・朴正熙、他）

第十一巻　醒めて踊れ（せりふと動き、オイディプス王、他）

第十二巻　問ひ質しき事ども－言論の空しさ（覺書、他）

第十三巻　作家論一（近代日本文學の系譜、横光利一、他）

第十四巻　作家論二（小林秀雄、現代日本文學の諸問題、他）

第十五巻　西歐作家論（シェイクスピア、ロレンス、他）

第十六巻　否定の精神（否定の精神、白く塗りたる墓、他）

第十七巻　私の幸福論（私の幸福論、日本家庭論、他）

第十八巻　反時代的人間（新聞の思上り、きのふのけふ、他）

第十九巻　シェイクスピア解題（リチャード三世以下十九作品）

第二十巻　私の英國史（私の英國史、日本よ汝自身を知れ、他）

別巻　年譜・著作目錄

發行　麗澤大學出版會　定價　各二千九百四十圓（税込）

平成十九年十一月より隔月刊行、同二十三年三月完結

四、福田恆存戯曲全集（全五巻別巻一）

第一巻　別莊地帶　最後の切札　キティ颱風　堅壘奪取　他一

第二巻　龍を撫でた男　幽靈やしき　現代の英雄　他四

第三巻　幕切れ　明暗　放送劇・崖のうへ　他二

第四巻　明智光秀　有閑皇子　億萬長者夫人　他三

第五巻　解つてたまるか！　ドン・キホーテ日本に現る　他三

別巻　劇場への招待　私の演劇白書　福田恆存戯曲關係年表　他

發行　文藝春秋　定價　各二千五百圓（税込）

平成二十年十一月刊行開始、同二十三年五月完結豫定

五、福田恆存對談・座談集（全七巻）◇生誕百年記念出版◇

第一巻　新しき文學への道（昭和二十三年～三十年）

第二巻　現代的狀況と知識人（昭和三十年～四十二年）

第三巻　樂觀的な、あまりに樂觀的な（昭和四十二年～五十年）

第四巻　世相を斬る（昭和五十一年～六十二年）

第五巻　芝居問答（昭和二十四年～四十一年）

第六巻　劇場を廢墟とする前に（昭和四十年～五十八年）

第七巻　現代人の可能性（昭和二十二年～五十年）

現代演劇協會監修　發行　玉川大學出版部　定價　各三千百五十圓（税込）

平成二十三年四月より刊行豫定　同二十四年十月完結豫定

備考・一から四迄の表記は正字正假名遣、五は略字現代假名遣

附一・福田恆存先生御出席の荒魂之會の會合（甲）並にこれに準ずる會合（乙）の一覧

◇昭和五十六年から平成六年八月迄の十四年間に全十六回（出席者の種別は平成二十三年一月現在）◇

イ、會合一覧（會合の名稱（種別）、年月日、會場、時間、同席者數）

一、第七回あらたま懇談會（甲）
昭和五十六年五月五日（火・祝）午後六時から八時半迄
目黒雅敍園　二十三名（同人、會員、一般）

二、第十二回あらたま懇談會（甲）
昭和五十七年六月二十日（日）　午後三時から七時迄
港區・愛宕山東急イン　二十五名（同人、會員、一般）

三、あらたま第十五號（總特輯福田恆存小論）合評會（甲）
昭和五十八年七月二十四日（日）午後三時から六時半迄
葛飾區金町・二葉會館　二十五名（同人、會員、一般）

四、大磯清談・一（乙）
昭和六十年一月一日（火・祝）　午後二時から九時まで
大磯・福田邸　三名（同人、會員、一般）

五、大磯清談・二（乙）
昭和六十年三月九日（土）　午後三時から四時二十五分頃
銀座・東急ホテル　五名（同人、會員、一般）

六、第十九回あらたま懇談會（甲）
昭和六十二年六月二十一日（日）　午後三時から七時迄
港區・愛宕山東急イン　三十九名（同人、會員、一般）

七、大磯清談・三（乙）
昭和六十三年三月十九日（土）　午後二時から五時半迄
大磯・福田邸　四名（同人、會員）

八、福田恆存全集完結記念並に福田恆存先生喜壽の賀祝賀會（甲）
昭和六十三年七月三日（日）午後三時十五分から六時半迄
芝・彌生會館　四十四名（同人、會員、一般）

九、大磯清談・四（乙）
昭和六十三年八月十三日（土）　午後
大磯・福田邸　四名（同人、會員、一般）

十、大磯清談・五（乙）
平成元年八月十四日（月）　午後四時半から六時半迄
大磯・福田邸　一名（同人）

十一、大磯清談・六（乙）
平成元年十月十日（火・祝）　午後三時半から五時四十分迄
大磯・福田邸　一名（同人）

十二、大磯清談・七（乙）
平成元年十月二十日（金）二十一日（土）　一泊二日
伊豆方面旅行　七名（同人、會員、一般）

十三、大磯清談・八（乙）
平成二年十一月十日（土）　午後三時半から八時迄
大磯・福田邸　一名（同人）◎「少年讀本第五輯言葉盡し」
獻呈の參上

十四、大磯清談・九（乙）
平成三年二月十六日（土）　午後
大磯・福田邸　一名（同人）

十五、大磯清談・十（乙）
平成三年十一月九日（土）　午後三時から六時迄
大磯・福田邸　一名（同人）

十六、大磯清談・十一（乙）
平成六年八月六日（土）　午後三時から四時二十五分頃
大磯・福田邸　一名（同人）

註・本册子五頁下段に、昭和六十年八月十四日（水）に駒井の福田先生邸參上の記載があるが、これは國語國字問題を考へる有志の會の所用で、小堀桂一郎氏に同道せるものにつき數へてはゐない。四頁下段の昭和六十年三月九日の假名遣意見書檢討の席に佐藤松男氏の記載があるが、別途所用による同席につき數へてはゐない。

回数	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	計
出席者 区別	甲	甲	甲	乙	乙	甲	乙	甲	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	/
副島爽子						○											一
中尾昭人△						○											一
中尾淑子						○											一
日比義也▲						○		○									二
淺沼千代忠△						○											一
安齋　隆▲						○		○									二
植草　學△						○											一
大﨑敬一						○		○									二
勝岡寛次△						○											一
秋元眞理						○											一
澁谷宏海△						○		○									二
橋本晃朋▲						○		○									二
片岡眞理																	一
副島敬子						○											一
清水明彦○						○											一
●落合欽吾▲						○		○									一
滝沢幸助△						○		○									一
角山素天△						○		○									一
嘉悦佳津子▲						○		○									一
枡岡正浩△						○		○									一
寺田英視						○		○									一
古賀俊昭△						○		○									一
渡邊　眞						○		○									一
中澤伸弘◎						○		○									一
遠山和夫△						○		○									一
千葉展正◎						○		○									一
長谷川宏△						○		○									一
宮下力滿						○		○									一
田口義昌△						○		○									一
太田　稔△						○											一

備考・イ、荒魂之會主催の會合（甲）の他に、昭和六十年元旦に、鈴木由次氏の御誘によつて、福田先生邸に同人の駒井が參上し、款談の時を過したことを皮切りに、以後同様の場合を大磯清談（乙）と假稱して數へてある。この中には、昭和六十年三月九日の東急ホテルに於ての改訂假名遣案への荒魂之會質問條項の協議竝に平成元年十月の福田先生の御伴をしての伊豆旅行の二回が含まれる。ロ、昭和六十三年七月三日の福田恆存全集完結記念竝に福田恆存先生喜壽の賀祝賀會には、福田先生御夫妻（令室敦江様）の御出席である。ハ、出席者名の太字（四名）は現同人である。下部の丸印は元同人である。二、三角印は賛助會員である。黒の三角印は元會員である。ホ、出席者名の上部の黒印（七名）は物故者を示す。

◇後記◇

あらたまの刊行三十周年を記念する作物が、刊行三十五周年目の年に漸く全三册が揃ふ事になつた。正しく汗顔の至りである。偏に先師福田恆存追慕の形は如何にあるべきかとの難問に四苦八苦してゐた日々であつた事を以て御寛恕を願ひたい。

平成二十三年度荒魂之會同人名簿（六名、丸印は幹事）

○小澤泰裕　○角山正之　○根岸清文　前川孝志

○駒井鐵平　○清水潤子

福田恆存先生と荒魂之會◇あらたま刊行三十周年記念行事通覽第三分册

平成二十三年三月六日（日）發行

編修・發行　千葉市中央區葛城一丁目三番九號（駒井方）

荒魂之會　郵便番號・二六〇〇八五三（作製）記事・編修（駒井鐵平）製版・印刷（角山正之、根岸清文）